

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 32

平成27年度発掘調査報告

(第1分冊)

西 御 門 遺 跡

西 御 門 遺 跡

平成28年 3 月

鎌倉市教育委員会



西御門遺跡 上：西御門一丁目 681 番 1 地点、下：西御門一丁目 11 番 14 地点 (写真右が北)



西御門遺跡 (西御門一丁目 681 番 1 地点) 第 2 面出土土製人形

ご あ い さ つ

本市は、市域のおおよそ6割が埋蔵文化財包蔵地であり、多くの市民が埋蔵文化財の眠る土地で生活を送っています。

近年、古い家屋や店舗の建て替えに伴い、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事が増加し、長い年月地下で眠っていた文化財が失われることも増加してきています。

私たちが日々の生活を送っていく上で、やむを得ず失われる埋蔵文化財について記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅等の建設に係る発掘調査を実施しています。本書は平成18・19・22・26年度に実施した、個人専用住宅等の建築に伴う発掘調査6ヶ所の調査記録を掲載しています。

本書が、武家政治発祥の地として知られ、今なお観光・文化都市として栄える鎌倉が歩んできた歴史を解き明かす一助となればと願う次第です。

最後になりましたが、調査の実施に当たり、関係者の皆様に発掘調査に対し深いご理解を賜るとともに、調査の期間中、さまざまなお協力をいただきましたことを心からお礼を申し上げます。

平成28年3月31日

鎌倉市教育委員会

例 言

- 1 本書は平成27年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書（第1分冊及び第2分冊）である。
- 2 本書所収の調査地点及び所収分冊は別表・別図のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。
- 5 報告1については松吉大樹氏に、報告2については古田土俊一氏、松吉大樹氏に玉稿を賜った。

総目次

(第1分冊)

ごあいさつ	I
例言	II
目次	III
本誌掲載の平成18・19・22・26年度発掘調査地点一覧	V
平成27年度調査の概観	VI
調査地点位置図	VIII

1 西御門遺跡 (No.325) 西御門一丁目11番14地点

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	7
第二章 発見された遺構と遺物	13
第三章 まとめ	93

2 西御門遺跡 (No.325) 西御門一丁目681番1地点

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	179
第二章 検出遺構と出土遺物	185
第三章 まとめ	250

(第2分冊)

例言	II
目次	III

3 若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 小町二丁目24番14地点

第一章 遺跡と調査地点の概観	6
第二章 調査の概要	17
第三章 調査結果	19
第四章 自然科学分析	58
第五章 まとめと考察	71

4 大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 雪ノ下字天神前562番30地点

第一章 遺跡と調査地点の概観	99
第二章 調査の概要	104

第三章	調査結果	106
第四章	まとめと考察	139
5 若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 大町一丁目1034番9地点		
第一章	遺跡の位置と歴史的環境	161
第二章	調査の方法と経過	163
第三章	基本土層	164
第四章	発見された遺構と遺物	170
第五章	調査成果のまとめ	193
6 台山遺跡 (No.29) 台字西ノ台1418番10地点		
第一章	遺跡の位置と歴史的環境	247
第二章	調査の方法と経過	250
第三章	基本土層	252
第四章	発見された遺構と遺物	253
第五章	調査成果のまとめ	260
付編	台山遺跡のテフラ	261

本誌掲載の平成18・19・22・26年度発掘調査地点一覧

第1分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
1 ▲	西御門遺跡 (N0.325)	西御門一丁目11番14	個人専用住宅 (杭基礎)	都市	43.00	平成18年10月17日 ～平成19年1月26日
2 ▲	西御門遺跡 (N0.325)	西御門一丁目681番1	個人専用住宅 (杭基礎)	都市	153.00	平成18年10月23日 ～平成19年1月25日

第2分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
3 □	若宮大路周辺遺跡群 (N0.242)	小町二丁目24番14	個人専用住宅 (杭基礎)	都市	14.50	平成19年8月28日 ～平成19年9月26日
4 □	大倉幕府周辺遺跡群 (N0.49)	雪ノ下字天神前562番30	個人専用住宅 (地盤の表層改良)	都市	26.25	平成19年11月7日 ～平成19年12月14日
5 ●	若宮大路周辺遺跡群 (N0.242)	大町一丁目1034番9	店舗併用住宅 (地盤の柱状改良)	都市	79.81	平成22年8月18日 ～平成22年11月5日
6 ◎	台山遺跡 (N0.29)	台字西ノ台1418番10	個人専用住宅 (杭基礎)	集落跡	40.40	平成26年8月28日 ～平成26年10月10日

▲印は平成18年度実施の発掘調査

□印は平成19年度実施の発掘調査

●印は平成22年度実施の発掘調査

◎印は平成26年度実施の発掘調査

平成27年度調査の概観

平成27年度の緊急調査実施件数は3件であり、調査面積は199.61㎡であった。これを前年度の4件、225.0㎡と比較してみると件数は1件の減少となり、調査面積は25.39㎡の減少となった。1件の調査面積は平均で66.53㎡(前年度は56.25㎡)であり、1件あたりの面積は前年度よりも増加している。

調査原因は3件ともに個人専用住宅の建設である。これらの工種別内訳は、鋼管杭打ち工事が1件、地盤改良工事が2件となっている。今年度も地盤改良工事や鋼管杭打ち工事が発掘調査の主体的な原因になっている傾向が顕著である。以下、各地点の調査成果の概要を紹介する。(調査面積及び調査期間等については「平成27年度調査地点一覧」を参照。)

1 台山遺跡 (No.29)

市内北部の山ノ内に所在し、北鎌倉駅から北西へ約341mの台地上に位置する遺跡である。鋼管杭打ち工事を行う個人専用住宅の建築にともない発掘調査を実施した。調査の結果、15世紀の整地層を確認し、溝、土坑を検出した。出土遺物は須恵器、かわらけ、国産陶器がある。

2 積善遺跡 (No.440)

十二所字積善に所在し、明王院の南方約175mに位置する。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない発掘調査を実施した。調査の結果、13世紀から15世紀にかけての6時期に亘る生活面が確認でき、敷石遺構、溝状遺構、土坑、柱穴、井戸を検出した。出土遺物はかわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、瓦、木製品、鉄製品、石製品等がある。

3 東勝寺跡 (No.246)

市内中心部の小町に所在し、鎌倉駅から北東へ約838mに位置しており、史跡東勝寺跡指定地に近接する。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、13世紀から14世紀の岩盤削平面と整地層を確認し、土坑、柱穴を検出した。かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器が出土している。

平成27年度発掘調査地点一覧

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
1	台山遺跡 (No. 29)	山ノ内 860 番 2 の一部	個人専用住宅 (杭基礎)	遺物散布地 中世館跡 砦跡 集落跡	69.60	平成 27 年 4 月 28 日 ～平成 27 年 6 月 23 日
2	積善遺跡 (No. 440)	十二所字積善 944 番 1、 945 番 7、945 番 10	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	遺物散布地	47.00	平成 27 年 8 月 18 日 ～平成 27 年 11 月 12 日
3	東勝寺跡 (No. 246)	小町三丁目 529 番 1、4、5	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	社寺跡	83.01	平成 27 年 9 月 1 日 ～平成 27 年 12 月 25 日

鎌倉市全図

平成27年度の緊急発掘調査地点 (1~3)
本書掲載の平成18・19・22・26年度発掘調査地点 (①~⑥)
※遺跡名は一覧表を参照



西御門遺跡 (No.325)

鎌倉市西御門一丁目 11 番 14 地点

例 言

1. 本報は鎌倉市西御門一丁目11番14地点に所在する遺跡の発掘調査である。
2. 発掘調査は個人専用住宅にかかる建築範囲約43㎡を対象とし、平成18年10月17日から平成19年1月26日にかけて実施した。

3. 現地での調査体制は以下の通り。

担当者 伊丹まどか
調査員 宇都洋平・鈴木絵美・本城裕・松原康子
作業員 秋田公佑・小口照男・河原龍雄・清水光一・田口康雄・藤枝正義・山崎一男

4. 本報作成は以下の分担で行った。

遺物実測 石元道子・宇都洋平・岡田慶子・田畑衣里・渡辺美佐子
遺物図版作成 渡辺美佐子
遺構図版作成 田畑衣里・伊丹まどか・吉田桂子・渡辺美佐子
観察表 田畑衣里
遺構計測表 平山千絵
遺構写真 鈴木絵美・宇都洋平
遺物写真 須佐仁和
写真図版作成 梶岡溪音・小野夏菜
グリッド図作成 後藤健
執筆・編集 松吉大樹・伊丹まどか

5. 出土品など発掘調査資料は、鎌倉市教育委員会が管理・保存している。

6. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は次の通り。

遺構全測図：1/50 個別遺構図：1/40 実測遺物図：1/3 銭：1/1

なお各挿図にはスケールを表示してある。

7. ・実測遺物は、可能な限り復元して実測した。紙面の都合からすべての実測図を掲載していないが、観察表には復元した数値などを掲載している。本文の都合から遺物に関する詳細は観察表にすべてまとめて記載している。

・復元して実測した遺物に関しては、計測値に()を付して表してある。

・木製品の内、箸・箸などの器形から用途を確実に判別できないものは「…状」として提示してある。

・文章中「かわらけ」と記載したものはロクロ成形のかわらけを指し、手づくね成形のかわらけは「手づくね」と記載している。

・ロクロ成形かわらけの底径は、回転糸切りの外径部分で。手づくね成形かわらけの底径は、器面が接地した箇所計測している。

・それぞれの陶磁器に関しては、生産地での編年を参考に観察表にその年代を示したが、破片の為不安の残るものに関しては割愛した。常滑は中野晴久氏、瀬戸製品に関しては藤澤良祐氏の編年に基づいて分類した。

8. 発掘調査及び、報告書作成に関しては次の方々よりご教授、ご協力を賜りました。記して深く感謝いたします。(敬称略・五十音順)

大三輪龍哉・小川裕久・小野夏菜・熊谷満・齋木秀雄・汐見一夫・須佐仁和・鈴木弘太・中三川昇・野本賢二・浜野浩美・原廣志・松尾宣方・松吉大樹・馬淵和雄・山口正紀

目次

本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	7
1. 歴史的環境 (図1)	
2. 遺跡位置とグリッド配置図 (図2)	
3. 堆積土層 (図3・図4)	
第二章 発見された遺構と遺物	13
1. 第1面の遺構と遺物 (図5～図9)	
2. 第2面の遺構と遺物 (図10～図18)	
3. 第3面の遺構と遺物 (図19～図25)	
4. 第4面の遺構と遺物 (図26～図29)	
5. 第5面の遺構と遺物 (図30～図33)	
6. 第6面の遺構と遺物 (図34～図39)	
7. 第7面の遺構と遺物 (図40～図50)	
8. 第8面の遺構と遺物 (図51～図60)	
9. 最終トレンチ (図61～図63)	
第三章 まとめ	93
1. 検出した遺構と遺物	
2. まとめ	
遺物観察表	
遺構計測表	
西御門遺跡 (遺構558) の花粉分析とプラント・オパール分析 (森将志)	129

挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡.....	5	図18 第2面. 遺構231(2)・第2面. 面上	
図2 遺跡位置とグリッド配置図	10	・第2面. 構成土出土遺物	31
図3 調査区西壁堆積土層図.....	11	図19 第3面全測図.....	33
図4 調査区南壁堆積土層図.....	12	図20 第3面遺構(1).....	35
図5 第1面全測図.....	14	図21 第3面遺構(2).....	36
図6 第1面遺構(1).....	16	図22 第3面遺構出土遺物(1).....	37
図7 第1面遺構(2).....	17	図23 第3面遺構出土遺物(2).....	38
図8 第1面遺構出土遺物(1).....	18	図24 第3面. 面上・構成土出土遺物(1).....	41
図9 第1面遺構・面上・構成土出土遺物(2).....	20	図25 第3面. 面上・構成土出土遺物(2).....	42
図10 第2面全測図・エレベーション図	22	図26 第4面全測図.....	44
図11 第2面遺構(1).....	24	図27 第4面遺構.....	46
図12 第2面遺構(2).....	25	図28 第4面. 遺構 出土遺物.....	47
図13 第2面遺構出土遺物(1).....	26	図29 第4面. 面上・構成土出土遺物	48
図14 第2面遺構出土遺物(2).....	27	図30 第5面全測図.....	49
図15 第2面. 遺構230出土遺物(1)	28	図31 第5面遺構437	50
図16 第2面. 遺構230出土遺物(2)	29	図32 第5面. 遺構438・遺構439・遺構440	51
図17 第2面・遺構231出土遺物(1)	30	図33 第5面. 面上・構成土出土遺物	52

図34 第6面全測図	54	図50 第7面. 構成土出土遺物(2)	74
図35 第6面遺構	55	図51 第8面全測図	75
図36 第6面. 遺構出土遺物(1)	56	図52 第8面遺構	77
図37 第6面. 遺構出土遺物(2)	57	図53 第8面. 遺構出土遺物(1)	79
図38 第6面. 面上・構成土出土遺物(1)	59	図54 第8面. 遺構出土遺物(2)	80
図39 第6面. 面上・構成土出土遺物(2)	60	図55 第8面. 遺構558・遺構558出土遺物	81
図40 第7面全測図	61	図56 第8面. 遺構568・遺構580・遺構591出土遺物	83
図41 第7面遺構(1)	63	図57 第8面. 遺構580・角柱・杭	84
図42 第7面遺構(2)	64	図58 第8面. 面上出土遺物	85
図43 第7面. 遺構480	65	図59 第8面. 構成土出土遺物(1)	86
図44 第7面. 遺構533	66	図60 第8面. 構成土出土遺物(2)	87
図45 第7面柱穴列	68	図61 最終トレンチ	88
図46 第7面. 遺構出土遺物(1)	70	図62 第9面・第10面構成土出土遺物(1)	90
図47 第7面. 遺構出土遺物(2)	71	図63 第10面・第11面・第12面構成土出土遺物・表土採集遺物	91
図48 第7面. 遺構出土遺物(3)	72		
図49 第7面. 面上・構成土出土遺物(1)	73		

図 版 目 次

図版1 第1面・第2面全景	133	図版22 第6面出土遺物	154
図版2 第3面・第4面全景	134	図版23 第6面出土遺物	155
図版3 第5面・第6面全景	135	図版24 第6面出土遺物	156
図版4 第7面・第8面全景	136	図版25 第7面出土遺物	157
図版5 最終トレンチ 全景・西壁セクション	137	図版26 第7面出土遺物	158
図版6 調査区南壁(分割して撮影)	138	図版27 第7面出土遺物	159
図版7 第1面・第2面遺構	139	図版28 第7面出土遺物	160
図版8 第2面・第3面遺構	140	図版29 第7面出土遺物	161
図版9 第3面～第6面遺構	141	図版30 第7面構成土出土<曲物>	162
図版10 第6面・第7面遺構	142	図版31 第8面出土遺物	163
図版11 第7面・第8面遺構	143	図版32 第8面出土遺物	164
図版12 第8面遺構	144	図版33 第8面出土遺物	165
図版13 第1面・第2面出土遺物	145	図版34 第8面出土遺物	166
図版14 第2面出土遺物	146	図版35 第8面出土遺物	167
図版15 第2面出土遺物	147	図版36 第8面出土遺物	168
図版16 第2面出土遺物	148	図版37 第8面・第9面・第10面出土遺物	169
図版17 第2面・第3面出土遺物	149	図版38 第10面・第11面・第12面 ・表採出土遺物	170
図版18 第3面出土遺物	150	図版39 遺構558・花粉、寄生虫卵の 単体標本	171
図版19 第3面・第4面出土遺物	151	図版40 遺構558・植物珪酸体	172
図版20 第4面・第5面出土遺物	152		
図版21 第5面・第6面出土遺物	153		

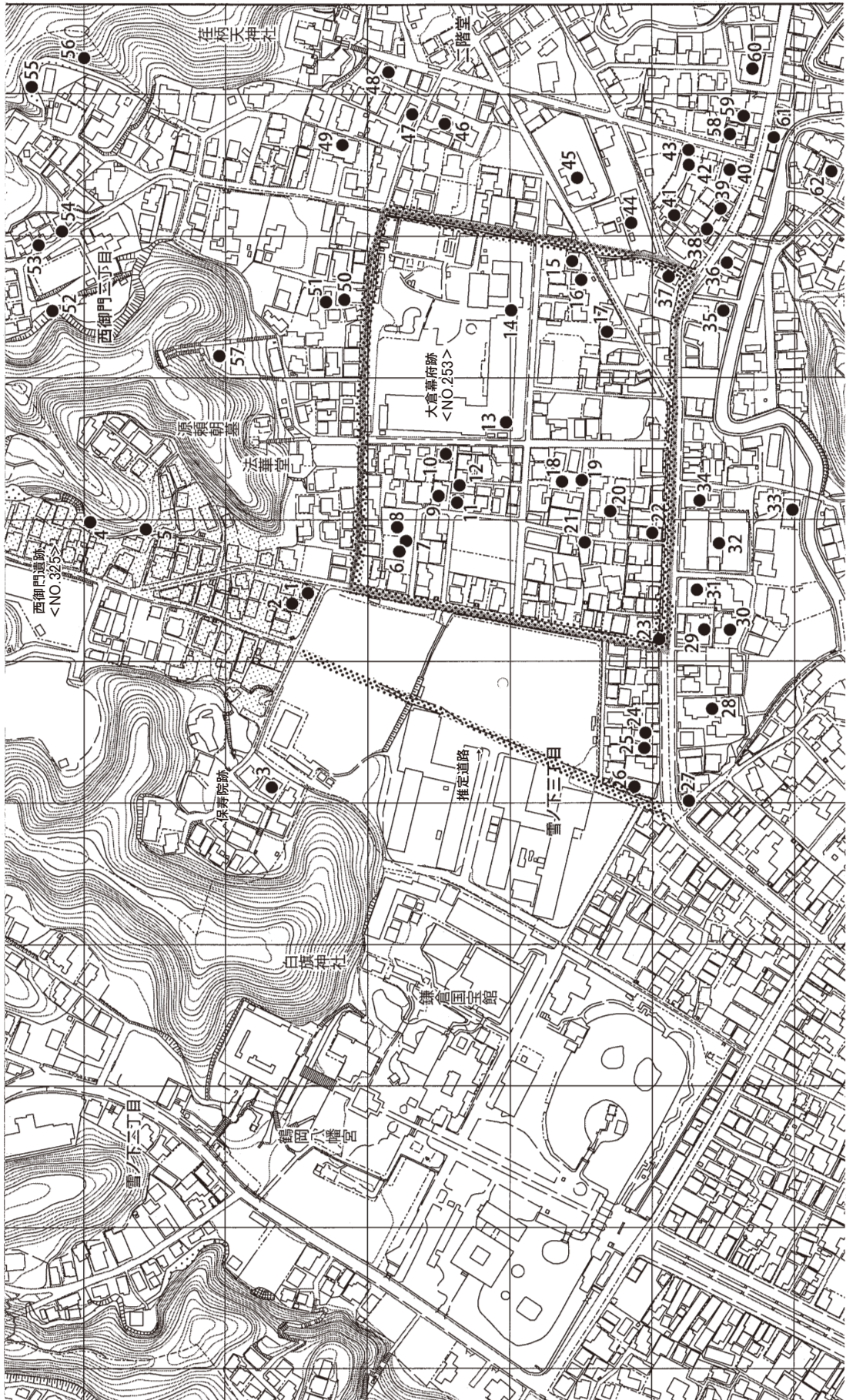


図1 調査地点と周辺の遺跡

<調査地点一覧>

- 西御門遺跡 1.西御門一丁目11番14(本調査地点) 2.西御門一丁目681番1
○保寿院跡 3.西御門一丁目922番4(宮田・滝澤2007『市緊急報告書』23)
西御門東やぐら群4.西御門一丁目22番1、23番(鈴木2005『西御門東やぐら群』) 5.西御門一丁目22番1、23番(鈴木2005『西御門東やぐら群』)
○大倉幕府跡 6.雪ノ下三丁目693番8(押木2014『市緊急報告書』31) 7.雪ノ下三丁目693番1(宮田・滝沢2013『大倉幕府跡(No.253)発掘調査報告書』) 8.雪ノ下三丁目694番18(宮田・安藤2013『大倉幕府跡(No.253)発掘調査報告書』 雪ノ下三丁目694番18地点) 9.雪ノ下三丁目701番3(馬淵2005『市緊急報告書』21) 10.雪ノ下三丁目704番3外(福田2011『市緊急報告書』27) 11.雪ノ下三丁目701番14(宮田・滝沢2005『市緊急報告書』21) 12.雪ノ下三丁目701番1(馬淵2005『市緊急報告書』21) 13.雪ノ下三丁目707番1(宮田1992『神奈川県埋蔵文化財調査報告』34) 14.雪ノ下三丁目 清泉小学校内(『鎌倉市埋蔵文化財調査年報』I) 15.雪ノ下三丁目637番4(熊谷2011『市緊急報告書』27) 16.雪ノ下三丁目637番6外(未報告) 17.雪ノ下三丁目635番2外(齊木2012『大倉幕府跡発掘調査報告書-鎌倉市雪ノ下三丁目635番2外地点-』) 18.雪ノ下三丁目648番3(未報告) 19.雪ノ下三丁目648番8(未報告) 20.雪ノ下三丁目629番1(宮田他2011『大倉幕府跡発掘調査報告書』) 21.雪ノ下三丁目651番8(汐見1999『市緊急報告書』15) 22.雪ノ下三丁目618番8、653番10(未報告) 23.雪ノ下三丁目618番4(汐見2002『市緊急報告書』18)
○大倉幕府周辺遺跡群 24.雪ノ下三丁目607番1(齊木・降矢2004『市緊急報告書』20) 25.雪ノ下三丁目607番(菊川1994『市緊急報告書』10) 26.雪ノ下三丁目606番1(菊川1993『市緊急報告書』9) 27.雪ノ下四丁目600番(未報告) 28.雪ノ下四丁目610番2(市教委立会調査) 29.雪ノ下四丁目620番1(1981『掘り出された鎌倉』) 30.雪ノ下四丁目620番2(1989『武士の都 鎌倉 よみがえる中世3』) 31.雪ノ下四丁目620番5(馬淵1998『市緊急報告書』14) 32.雪ノ下四丁目581番5(齊木2007『大倉幕府周辺遺跡発掘調査報告書-雪ノ下4-581-5地点-』) 33.雪ノ下四丁目580番10(原2001『市緊急報告書』17) 34.雪ノ下四丁目581番2(未報告) 35.雪ノ下四丁目570番1(馬淵2013『市緊急報告書』30) 36.雪ノ下四丁目567番7(馬淵2004『市緊急報告書』20) 37.雪ノ下四丁目569番1(馬淵1990『大倉幕府周辺遺跡群 雪ノ下字大倉耕地569番1地点発掘調査』) 38.雪ノ下字大倉耕地562番16(福田2001『市緊急報告書』17) 39.雪ノ下字天神前562番29(福田1996『市緊急報告書』12) 40.雪ノ下字大倉耕地565-4(菊川1991『市緊急報告書』7) 41.雪ノ下字天神前562番30(『第18回鎌倉市遺跡調査研究発表会』) 42.二階堂字荏柄3番6外(未報告) 43.二階堂字荏柄3番6外(未報告) 44.二階堂字荏柄38-1(馬淵1993『市緊急報告書』9) 45.二階堂字荏柄38番2(未報告) 46.二階堂字荏柄27-3の一部(原2006『市緊急報告書』22) 47.二階堂字荏柄76番4(宮田2007 神奈川県埋蔵文化財調査報告51) 48.二階堂荏柄76番8地点(伊丹2013『市緊急報告書』30) 49.二階堂字荏柄58-4外(原2002『市緊急報告書』18)
○大倉幕府北遺跡 50.西御門二丁目756番10(宮田・滝沢2009『市緊急報告書』25) 51.西御門二丁目756番6(宮田・滝沢2009『市緊急報告書』25) 52.西御門二丁目816番1(宮田2000『大倉幕府北遺跡発掘調査報告書』) 53.西御門二丁目796番1外(宮田2002『大倉幕府北遺跡発掘調査報告書』) 54.西御門二丁目796番1外(宮田2002『大倉幕府北遺跡発掘調査報告書』)
○大倉幕府北やぐら群55.西御門二丁目792番2(鈴木2004『大倉幕府北やぐら群』) 56.西御門二丁目792番2(鈴木2004『大倉幕府北やぐら群』)
○北条義時法華堂跡 57.二階堂字西御門686番(福田2005『北条義時法華堂跡確認調査報告書』)
○横小路周辺遺跡58.二階堂字荏柄10-1(原2003『市緊急報告書』19) 59.二階堂字荏柄10-6(福田2000『市緊急報告書』16) 60.二階堂字荏柄9-1(菊川1990『市緊急報告書』6) 61.雪ノ下五丁目557番1(手塚1998『市緊急報告書』14)
○田楽辻子周辺遺跡 62.浄明寺一丁目556番6外(押木2012『市緊急報告書』28)

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

1. 歴史的環境 (図1)

当調査区は大倉幕府跡の西方、西御門地域にあたる。当地名の由来は、大倉幕府の西門に因むと伝えるが(『新編相模国風土記稿』)、大倉幕府に隣接する地域であったため、御家人の屋敷地に関する記載が多い。その初見は『吾妻鏡』文治二年(1186)正月五日条である。壇ノ浦合戦後、源義経に予同していた平時実(生捕りにされ、「美濃藤次安平西御門家」に預けられていた。美濃藤次安平については未詳であるが、同年五月廿九日条・同六月二日条に「美濃国石田郷」・「美濃国大野郡石太郷」を濫妨している記事があることから、美濃国の御家人であったかもしれない。また幕府の重臣三浦氏の屋敷も当地に存在していた。『吾妻鏡』貞応三年(1224)九月五日条には「三浦駿河前司義村西御門家焼亡」とあり、伝領された三浦氏屋敷地は、宝治合戦に際しても放火され焼け落ちている(註1)。当地には天野景村の宿所もあった(註2)。天野景村は、金沢流北条氏の北条実時の小舅であるが、頼朝法華堂前には北条実時邸が存在していた記述も見られることから(註3)、大倉幕府を中心とする御家人同士の地縁的關係も窺えよう(永井2006)。そしてまた、北条実時夫人である金沢殿が、延慶三年六月四日に醍醐寺親玄との間で「名越新善光寺下毘沙門堂入地」と「西御門小笠原谷御地陸戸主」を相博・交換していることから、金沢北条氏の西御門に対する意識が強かったことも想定される(註4)。また、金沢実時の孫にあたる頼朝法華堂別当顕弁は、西御門に御坊を有していた(註5)。そして金沢氏の人々がやりとりしている書状には「西御門殿」に宛てたものがあるが、出自などについては未詳(註6)。西御門には金沢北条氏の縁者が多く住んでいた可能性が指摘できよう。金沢北条氏の他には、工藤氏と二階堂氏が西御門に住していた(註7)。両氏は出自が一緒であり、当地における血縁的集住関係も垣間見ることができよう。西御門は大倉幕府近辺という地勢もあって、幕府関連の記述も見られる。和田合戦後の実検は当地で行われている(註8)。西御門には西大路と称する道が通っていたらしく、それは藤原頼経亭の西側を走っていた(註9)。

西御門には多数の寺社も存在していた。現存する来迎寺には、明治の神仏分離の際に頼朝法華堂から移された木造如意輪観音坐像・木造地藏菩薩坐像・木造跋陀婆羅尊者像が安置されている。また、巖上地蔵はもと報恩寺の本尊で、南北朝期の宅間浄宏作と伝える。報恩寺は、義堂周信を開山、上杉能憲を開基とする臨済宗寺院で、報恩護国禅寺とも称したが現在は廃寺となっている。創建は応安四年(1371)十月十五日、仏殿の立柱は永和二年(1376)十月十三日とする(『空華日用工夫略集』)。康暦元年(1379)三月には、上杉能憲の弟にして関東管領であった上杉憲春が、室町将軍足利義満に反しようとした鎌倉公方足利氏満を諫めるため、当寺で自害している(『群書類従』第二十輯)。室町期に入ると西御門は紛争が発端する地として史料上に出ていることが多い。応永廿三年(1416)十月の上杉禅秀の乱に際しては、足利満隆が挙兵したのは「御所西御門宝寿院」であったし、一方の足利持氏方は、西御門に火をかけ宝寿院に押し寄せる談義をしていた(註10)。宝寿院は鶴岡八幡宮の裏、現市立第二中学校の西南にあった禅宗寺院である。開山は義堂周信。応安元年(一三六八)十月五日、関東公方足利基氏の母の遺命によって、西御門の別殿が宝寿院となった(『空華日用工夫略集』)。『新編相模国風土記稿』によれば、後に瑞泉寺の塔頭となり次第に廃寺となったと伝える。享徳三年(1454)十二月廿七日には、関東管領上杉憲忠が鎌倉公方足利成氏によって殺害され享徳の乱が始まった(註11)。また本間遠江守に宛てた、年未詳八月七日付「上杉憲忠書状」は「就西御門江御移、嚴重仁被成下御内書候、上意之至、誠以忝畏入存候」と足利成氏の西御門における動向を伝える(註12)。当地に

は他に太平寺・高松寺の尼寺があったが、今は廃寺となっている。また、現在の八雲神社には鎌倉幕府の御家人であった後藤氏を縁とする、大門寺があったと想定されている(高橋2010)。西御門地域には上記の様に、御家人や足利氏の足跡が史料上には残されている。発掘調査成果との関連性についての様に考察していくかが、今後の課題である。

(松吉大樹)

【参考文献】

永井晋『金沢北条氏の研究』(八木書店、2006年)。

高橋慎一郎『中世都市の力 京・鎌倉と寺社』(高志書院選書4、高志書院、2010年)。

【註】

(註1)『吾妻鏡』宝治元年六月四日、同十五日条。

(註2)『関東往還記』二月廿七日条。

(註3)『吾妻鏡』宝治元年正月十三日条。

(註4) 延慶三年六月四日付「金沢実時後室代成覚相博状」(『鎌倉遺文』24009号文書)。同年九月十五日付「関東御教書」(「実相院及東寺宝菩提院文書」『神奈川県史資料編2』1788号文書)。

(註5) (元徳三年六月十一日)「顕弁四十九日仏事廻向文」(「金沢文庫文書」『鎌倉遺文』31442号文書)。

(註6) (元応元年ヵ)十月十六日付「金沢貞顕書状」(「金沢文庫文書」『鎌倉遺文』27166号文書)。

(註7) 文永三年六月十日付「二階堂行久議状」(「二階堂文書」『鎌倉遺文』9542号文書)。元亨三年十一月三日付「工藤貞行議状」(「陸奥遠野南部文書」『鎌倉遺文』28573号文書)。

(註8)『吾妻鏡』建暦三年五月四日条。

(註9)『吾妻鏡』貞応二年正月廿日条、同廿五日条。

(註10)「湘山星移集」(『続群書類従』第二十一輯、合戦部)

(註11)「康富記」(『増補史料大成』38)。

(註12)「喜連川文書」(『神奈川県史資料編3下』6100号文書)。

2. 遺跡位置とグリッド配置図（図2）

本調査は鎌倉市西御門一丁目11番14地点における、個人専用住宅建設に伴う発掘調査である。調査期間は平成18年10月17日から平成19年1月26日までの約3ヵ月間で、調査面積は約230㎡である。現地表海拔は14.70m。調査開始にあたって調査区に任意の方眼軸を設け、基本点Aと、見返り点Bを設定し遺構の測量・図面作成に使用した。基本点Aと見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行ったが、調査時の成果表は日本測地系（座標AREA 9）の国土座標値を使用しているため、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフト「WEB版TKY2JGD」で世界測地系第Ⅸ形に変換し、図2に表記した。

3. 堆積土層（図3・図4）

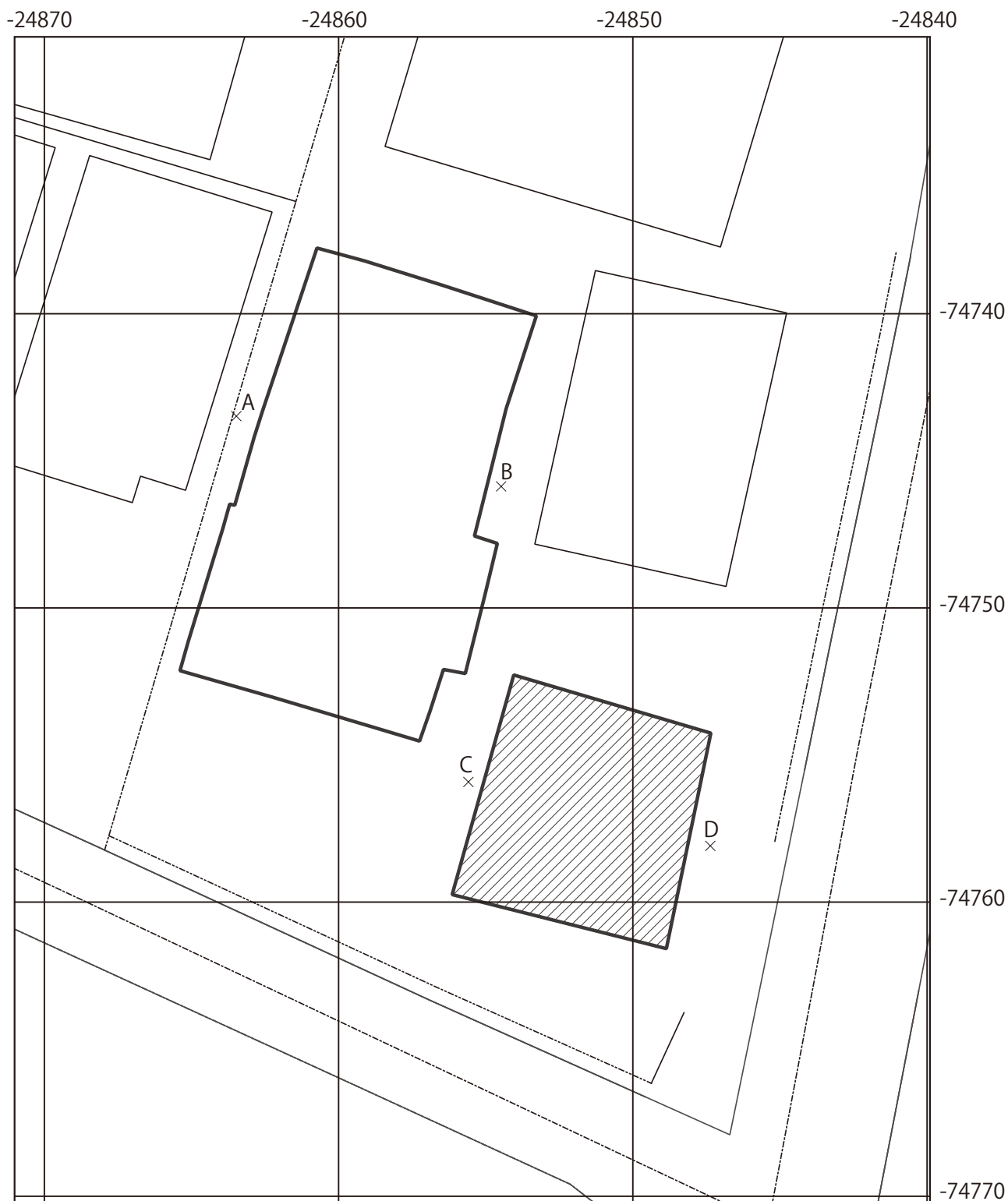
緩やかに北から南に傾斜する表土から、北側約100cm～南側約70cmの表土を重機によって除去し第1面を検出した。第1面とした地業層は現代埋土によって大きく攪乱され一部遺構が壊されている。

以下、確認した生活面のレベルと、構成土について述べる。

第1面は泥岩細片を多く含む茶褐色弱粘質土上で検出した。確認レベルは海拔14.00m。第2面は拳大の泥岩・泥岩粒を含む堅く締まった地業層上で検出した。確認レベルは海拔13.80m。構成土は炭化物・泥岩粒を含む茶褐色弱粘質土。第3面は泥岩粒・炭化物・焼土を含む暗茶褐色弱粘質土上で検出した。確認レベルは海拔13.60m。第4面は泥岩粒・泥岩細片・泥岩・炭化物・焼土を多量に含み、固く締まった茶褐色弱粘質土上で検出した。確認レベルは海拔13.40m。第5面は泥岩粒・泥岩細片・泥岩を多く含み固く締まった地業層上で確認した。構成土は炭化物・焼土を含む暗灰色弱粘質土。構成土下層には広範囲に厚く炭化物が堆積していた。確認レベルは海拔13.20m。第6面は炭化物を含む泥岩粒・泥岩細片・泥岩によって厚く地業した茶灰色弱粘質土上で検出した。確認レベルは海拔13.00m。第7面は泥岩粒・泥岩細片・泥岩・炭化物・焼土を含む堅く締まった黄褐色弱粘質土で検出した。確認レベルは海拔12.70m。第8面は泥岩・泥岩粒・貝砂を多く含む暗灰色弱粘質土上で検出した。確認レベルは海拔12.50m。

第9面以下はトレンチ調査による堆積土層で生活面を確認した。第9面構成土は泥岩・泥岩細片・泥岩粒による厚く地業した褐色弱粘質土である。確認レベルは海拔12.30m。第10面構成土は泥岩粒・泥岩細片・泥岩を多く含み固く締まった暗褐色弱粘質土である。確認レベルは海拔12.20m。第11面構成土は泥岩粒・炭化物を少量含む灰色砂質土で、下層に泥岩粒・泥岩細片によるしっかりとした地業を確認している。確認レベルは海拔11.90m。第12面構成土は泥岩粒・貝砂を含む暗灰色弱粘質土上である。確認レベルは海拔11.70m。第13面構成土は茶色有機質土・貝砂を多く含む灰色粘質土である。確認レベルは海拔11.40m。中世の基盤層は海拔11.10mで確認している。

（土層堆積図を記録する際に使用した基準点は、トレンチ位置図に記載してある。）



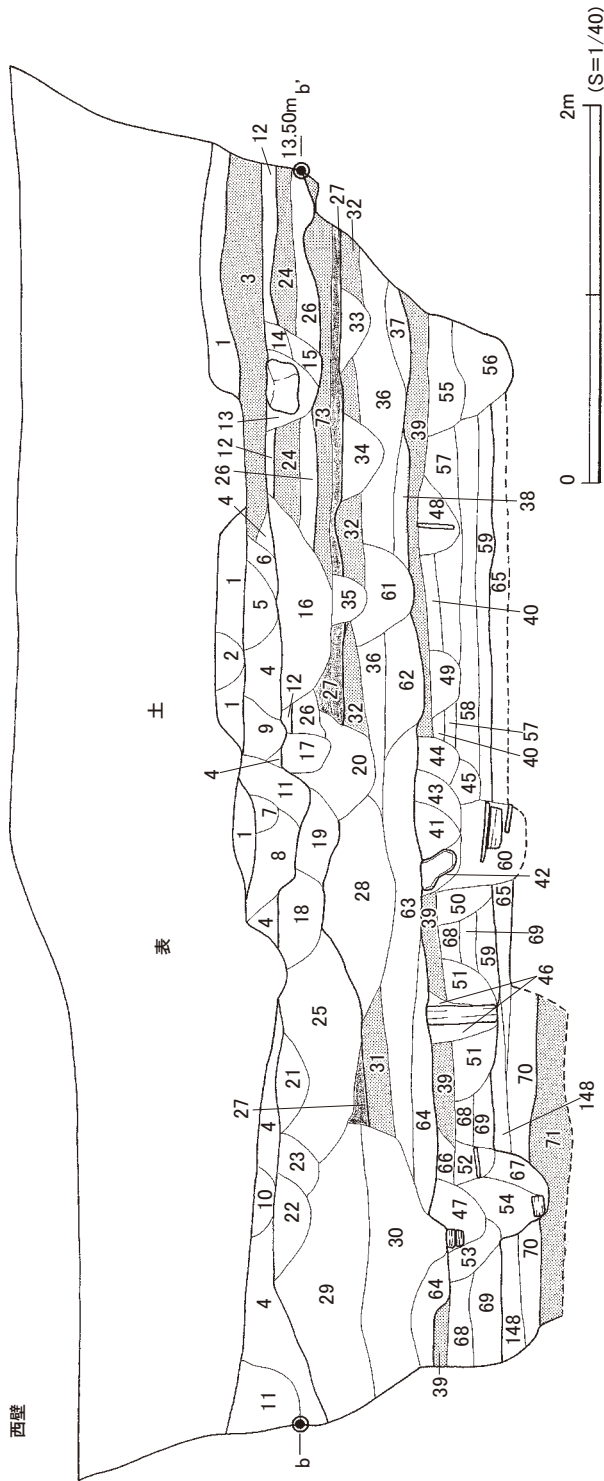
日本測地系

	x	y
A	-75100.109	-24570.063
B	-75102.496	-24561.063
C	-75112.545	-24562.176
D	-75114.718	-24553.953

世界測地系

	x	y
A	-74743.4794	-24863.4739
B	-74745.8669	-24854.4742
C	-74755.9154	-24855.5874
D	-74758.089	-24847.3647

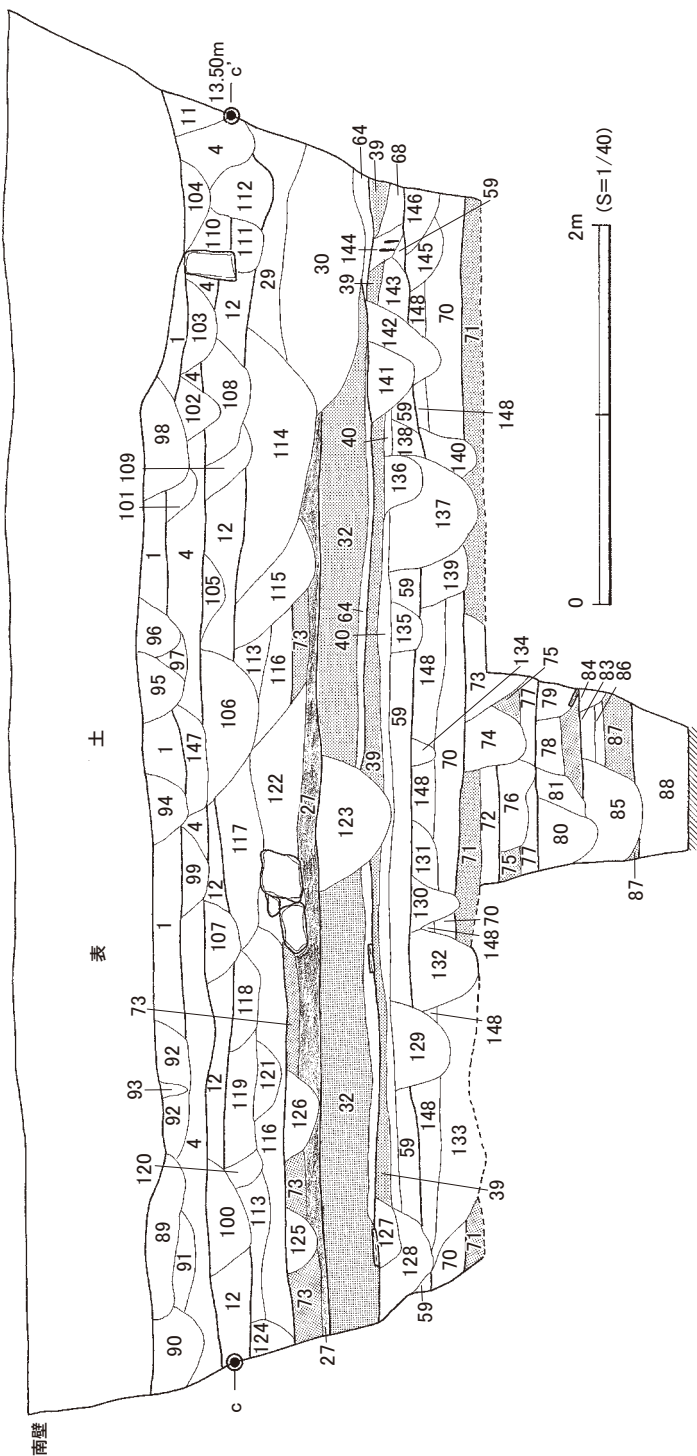
図2 遺跡位置とグリッド配置図



- 69 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩微量・炭化物少量・貝砂多量
- 70 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量・貝砂
- 71 泥岩層
- 72 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・炭化物・褐色有機質土
- 73 泥岩層 泥岩粒・破碎泥岩・炭化物微量 (第5面構成土)
- 74 暗灰色弱粘質土 泥岩・褐色有機質土・貝砂少量

- 1 茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩 (第1面構成土)
- 2 茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩
- 3 泥岩層 泥岩粒・泥岩細片・泥岩・暗褐色弱粘質土少量 (第2面構成土)
- 4 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・炭化物 (第2面構成土)
- 5 暗茶褐色弱粘質土 泥岩・炭化物
- 6 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩少量
- 7 茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩多量・炭化物・焼土
- 8 茶褐色弱粘質土 泥岩・焼土少量
- 9 茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・焼土
- 10 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・炭化物・焼土少量
- 11 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・焼土
- 12 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・炭化物少量・焼土 (第3面構成土)
- 13 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・焼土
- 14 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・焼土多量
- 15 茶褐色弱粘質土 泥岩多量・炭化物
- 16 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩少量・焼土粒
- 17 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩少量・炭化物少量・焼土
- 18 茶灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・炭化物・焼土
- 19 茶灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・焼土粒
- 20 灰色弱粘質土 泥岩多量・炭化物微量
- 21 茶灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・焼土粒
- 22 茶灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・焼土粒
- 23 暗茶灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・焼土粒
- 24 泥岩層 泥岩粒・泥岩・炭化物微量・焼土粒 (第4面構成土)
- 25 茶灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩多量・炭化物少量
- 26 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・焼土粒
- 27 炭化物層 泥岩粒少量
- 28 暗灰色弱粘質土 泥岩多量・玉石・炭化物
- 29 茶灰色弱粘質土 泥岩多量
- 30 茶灰色弱粘質土 泥岩多量・炭化物
- 31 茶灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・炭化物 (第6面構成土)
- 32 泥岩層 泥岩粒・破碎泥岩・泥岩・暗茶褐色弱粘質土少量 (第6面構成土)
- 33 灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩
- 34 茶灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・炭化物
- 35 灰色弱粘質土 泥岩多量・炭化物
- 36 黄褐色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・炭化物
- 37 暗灰色弱粘質土 泥岩・炭化物
- 38 黄褐色弱粘質土 泥岩粒少量・炭化物多量
- 39 黄褐色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・炭化物 (第7面構成土)
- 40 暗灰色弱粘質土 泥岩粒多量・泥岩・炭化物
- 41 暗灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色有機質土少量
- 42 暗灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩少量
- 43 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・炭化物少量
- 44 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・炭化物
- 45 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・褐色有機質土少量
- 46 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量・褐色有機質土少量
- 47 暗灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩多量・褐色有機質土
- 48 暗灰色弱粘質土 泥岩・灰褐色砂質土少量
- 49 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・褐色有機質土少量・玉石
- 50 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・炭化物少量・褐色有機質土
- 51 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量・褐色有機質土少量・貝砂
- 52 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量・褐色有機質土
- 53 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・褐色有機質土
- 54 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量・褐色有機質土
- 55 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量・褐色有機質土少量
- 56 暗灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩少量・貝砂
- 57 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・褐色有機質土
- 58 暗灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・玉石
- 59 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩少量・褐色有機質土少量・暗灰色砂質土
- 60 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量・褐色有機質土
- 61 暗灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩少量・炭化物少量
- 62 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・炭化物
- 63 黄褐色弱粘質土 泥岩・炭化物
- 64 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・炭化物少量
- 65 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・貝砂多量 (第8面構成土)
- 66 暗青灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・褐色有機質土
- 67 暗灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・炭化物少量・褐色有機質土
- 68 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物少量・貝砂

図3 調査区西壁堆積土層図



- 143 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量・貝砂
- 144 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物少量
- 145 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・貝砂
- 146 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・炭化物少量・貝砂
- 147 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量・褐色有機質土
- 148 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩 (第8面構成土)

- 75 泥岩層 破碎泥岩・泥岩・暗灰色弱粘質土 (第10面構成土)
- 76 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・褐色有機質土
- 77 炭化物層 泥岩粒
- 78 灰色砂質土 泥岩粒少量・炭化物微量 (第11面構成土)
- 79 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・褐色有機質土・炭化物
- 80 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・褐色有機質土
- 81 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・炭化物少量・褐色有機質土少量
- 82 泥岩層 破碎泥岩・泥岩・灰褐色砂少量 (第11面構成土)
- 83 暗灰色弱粘質土 泥岩・貝砂少量 (第12面構成土)
- 84 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・炭化物
- 85 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・褐色有機質土
- 86 暗茶灰色弱粘質土 炭化物多量・有機質土多量 (第12面構成土)
- 87 泥岩層 破碎泥岩・泥岩・炭化物少量 (第12面構成土)
- 88 灰褐色弱粘質土 泥岩少量・褐色有機質土少量・貝砂多量
- 89 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・炭化物
- 90 茶褐色弱粘質土 泥岩粒多量・泥岩少量
- 91 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・炭化物
- 92 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩少量・炭化物微量
- 93 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量
- 94 暗茶褐色弱粘質土 泥岩少量・炭化物少量
- 95 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物少量
- 96 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・炭化物少量
- 97 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒多量・泥岩少量・炭化物
- 98 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物
- 99 暗灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩少量・炭化物少量
- 100 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・炭化物
- 101 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・炭化物少量
- 102 暗灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・炭化物少量
- 103 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・炭化物少量
- 104 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・炭化物少量
- 105 茶灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩多量・炭化物少量
- 106 茶灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩多量・炭化物少量
- 107 茶灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩少量・炭化物少量・黑色粘土少量
- 108 茶灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩多量・炭化物少量
- 109 茶灰色弱粘質土 泥岩粒多量・泥岩・炭化物
- 110 暗灰色弱粘質土 泥岩粒・炭化物・燒土粒・黑色粘土
- 111 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・炭化物・褐色有機質土微量
- 112 暗灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩少量・炭化物
- 113 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩多量・炭化物少量 (第4面構成土)
- 114 暗灰色弱粘質土 泥岩粒多量・泥岩多量・炭化物少量
- 115 暗灰色弱粘質土 泥岩多量・炭化物微量
- 116 暗灰色弱粘質土 泥岩・炭化物少量
- 117 茶灰色弱粘質土 泥岩少量・炭化物・燒土粒
- 118 茶灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩少量・炭化物少量
- 119 茶灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・炭化物少量
- 120 茶灰色弱粘質土 泥岩粒・泥岩・炭化物
- 121 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・炭化物少量
- 122 灰色弱粘質土 泥岩多量・炭化物
- 123 泥岩層 破碎泥岩・泥岩
- 124 暗灰色弱粘質土 泥岩粒多量・泥岩少量・炭化物
- 125 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・炭化物
- 126 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量
- 127 茶褐色弱粘質土 泥岩少量・褐色有機質土
- 128 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・褐色有機質土・貝砂
- 129 暗灰色弱粘質土 泥岩・褐色有機質土少量・貝砂
- 130 暗灰色弱粘質土 泥岩・褐色有機質土少量・貝砂少量
- 131 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・褐色有機質土・貝砂少量
- 132 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・褐色有機質土・貝砂少量
- 133 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・褐色有機質土少量・炭化物少量・貝砂少量
- 134 暗灰色弱粘質土 泥岩粒・褐色有機質土少量
- 135 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・褐色有機質土・貝砂
- 136 暗灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・褐色有機質土
- 137 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・炭化物・褐色有機質土・貝砂少量
- 138 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・褐色有機質土少量
- 139 暗褐色弱粘質土 泥岩微量・炭化物・褐色有機質土少量
- 140 暗灰色弱粘質土 泥岩少量・炭化物・褐色有機質土少量
- 141 灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩少量・褐色有機質土少量
- 142 灰色弱粘質土 泥岩粒少量・泥岩・褐色有機質土少量

図4 調査区南壁堆積土層図

第二章 発見された遺構と遺物

調査では13枚の生活面を発見し観察・記録を行ったが、第9面以下は調査区中央にトレンチを設定し堆積土層の観察で確認した。発見した遺構は上層より順に報告している。また、各生活面に付した遺構番号は調査作業の簡便を測る目的で遺構プランに対して付してあり、必ずしも番号の新旧が遺構の新旧を表すものではない。個別の遺構図面は現地で実測した遺構および、実測遺物を報告した遺構を報告している。個別図面のない遺構の形状・規模は、全測図と遺構計測表を参照していただきたい。また、実測遺物は遺物観察表に詳細を報告し、本文中では遺物名だけを記載している。

1. 第1面の遺構と遺物（図5～図9）

第1面は現代埋土によって調査区の一部が削平を受けていたが、平坦に地業された泥岩細片を多く含む茶褐色弱粘質土上で多くの遺構を発見した。発見した遺構はピット154穴・土坑20基で、建物址を推定できる遺構は確認できなかった。遺構の切りあいから第1面で発見した遺構は、少なくとも3時期に亘ると考えている。遺物は、かわらけ・手づくね・青磁・白磁・青白磁・常滑・瀬戸・東幡系・備前・渥美・瓦器碗・火鉢・瓦・鉄製品・石製品・鋳型・銭が出土している。第1面確認レベルは海拔14.00mである。

遺構5（図6・図8）

土坑である。現代攪乱に削平され、調査区外に遺構が延びているが円形を呈すると思われる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色砂質土を含む茶褐色弱粘質土。

出土遺物-1はかわらけ。2は鉄製品釘。その他にかわらけ片が出土している。

遺構16（図6・図8）

ピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色砂質土を多く含む茶褐色弱粘質土。覆土内にかわらけ細片が多く混入していた。

出土遺物-3はかわらけ。4は瀬戸折縁深皿。その他にかわらけ片が出土している。

遺構18（図6・図8）

土坑である。試掘坑・遺構96に切られ、正確な形状・規模は不明。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物-5はかわらけ。その他に破片でかわらけ・常滑甕が出土している。

遺構29（図6・図8）

ピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物少量を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物-6は東幡系鉢。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構41（図6）

ピットである。遺構40・遺構42に切られるが楕円形を呈する。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構46（図6・図8）

円形を呈するピットである。遺構47を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色砂質土を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物-7は瓦器質火鉢。その他に常滑片口鉢I類・瓦器質火鉢が破片で出土している。

遺構47（図6）

円形を呈するピットである。遺構46に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物少量を含む。遺

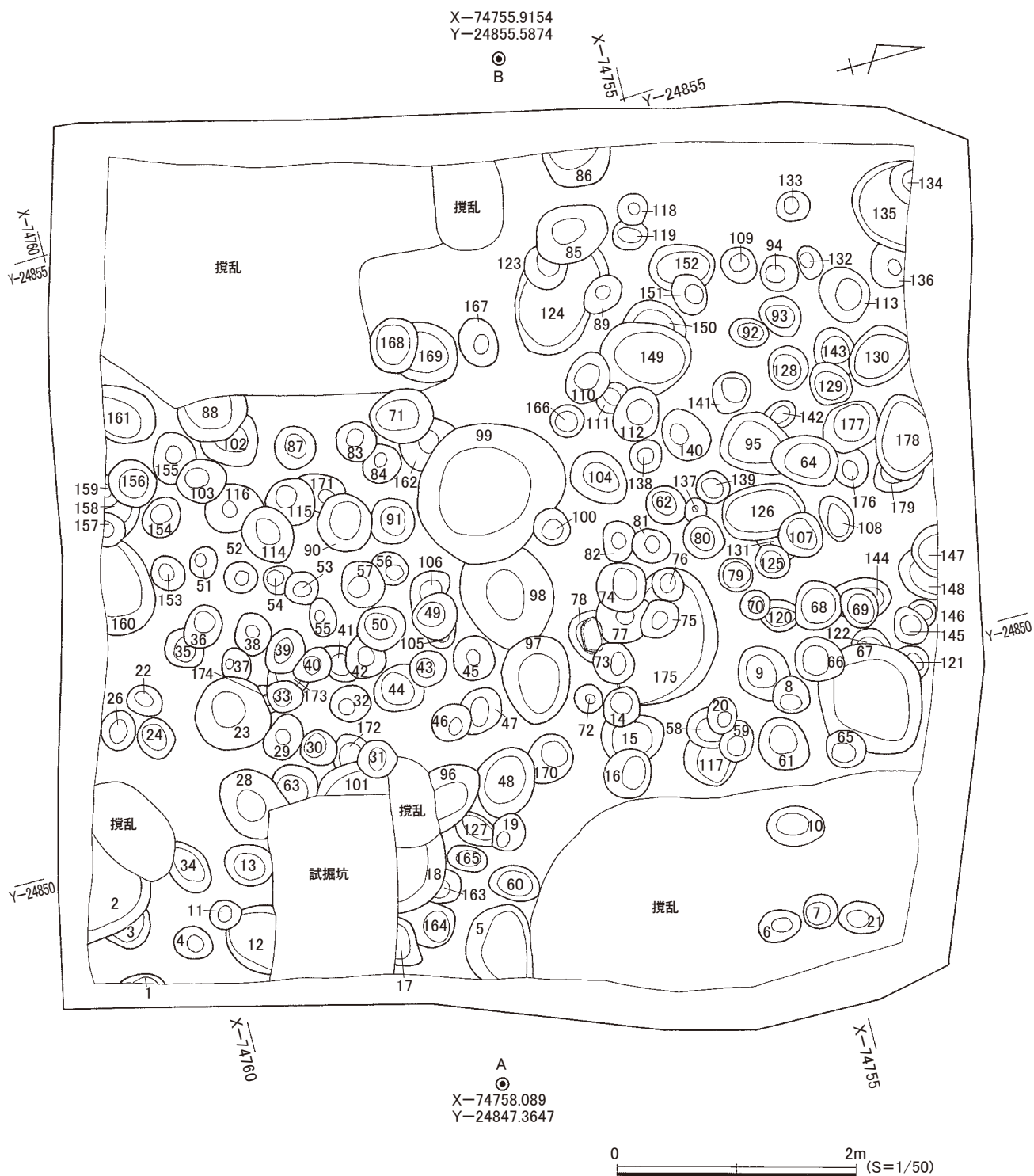


図5 第1面全測図

物は破片でかわらけ・常滑甕、火鉢が出土している。

遺構48 (図6・図8)

円形を呈するピットである。遺構170を切る・遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物少量を含む。出土遺物-8はかわらけ。その他にかわらけ・常滑甕・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構59 (図6・図8)

円形を呈するピットである。遺構20に切れ、遺構117を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物少

量を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物－9は内底中央に穿孔のあるかわらけ。

遺構60 (図6・図8)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物少量・褐色砂質土を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物－10は常滑片口鉢Ⅱ類。その他にかわらけ・瀬戸折縁深皿が破片で出土している。

遺構65 (図6)

円形を呈するピットである。遺構67を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩多量・炭化物少量を含む茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構66 (図6)

円形を呈するピットである。遺構67を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩を含む茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構67 (図6・図8)

方形を呈する土坑である。遺構65・66に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物－11・12はかわらけ。その他にかわらけ・常滑甕・壺が破片で出土している。

遺構70 (図6・図8)

円形を呈するピットである。遺構120を切る。遺構覆土は泥岩粒多量・泥岩・炭化物少量を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物－13はかわらけ・14は瓦器質香炉。その他に白磁壺が破片で出土している。

遺構73 (図6)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒。泥岩・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。遺物は破片でかわらけ・青磁器種不明が出土している。

遺構74 (図6・図8)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物－15はかわらけ。その他に瀬戸折縁深皿が破片で出土している。

遺構75 (図6・図8)

円形を呈するピットである。遺構76・遺構77を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色砂質土を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物－16はかわらけ。その他にチャート片が出土している。

遺構76 (図6)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。遺物は破片でかわらけ・常滑片口鉢Ⅰ類が出土している。

遺構77 (図6)

円形を呈するピットである。遺構74・遺構75に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物－17はかわらけ、内底に線刻が残る。その他にかわらけ・常滑甕・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構78 (図5)

個別に図示はしていない。底部に礎石の残るピットである。遺構73・遺構78に切られる。泥岩粒・泥岩・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物はない。

遺構79 (図6)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色砂質土を含む茶褐色弱粘質土。遺物は破片でかわらけ・鉄滓が出土している。

遺構85 (図6)

楕円形を呈するピットである。遺構123・遺構124を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物少量を含

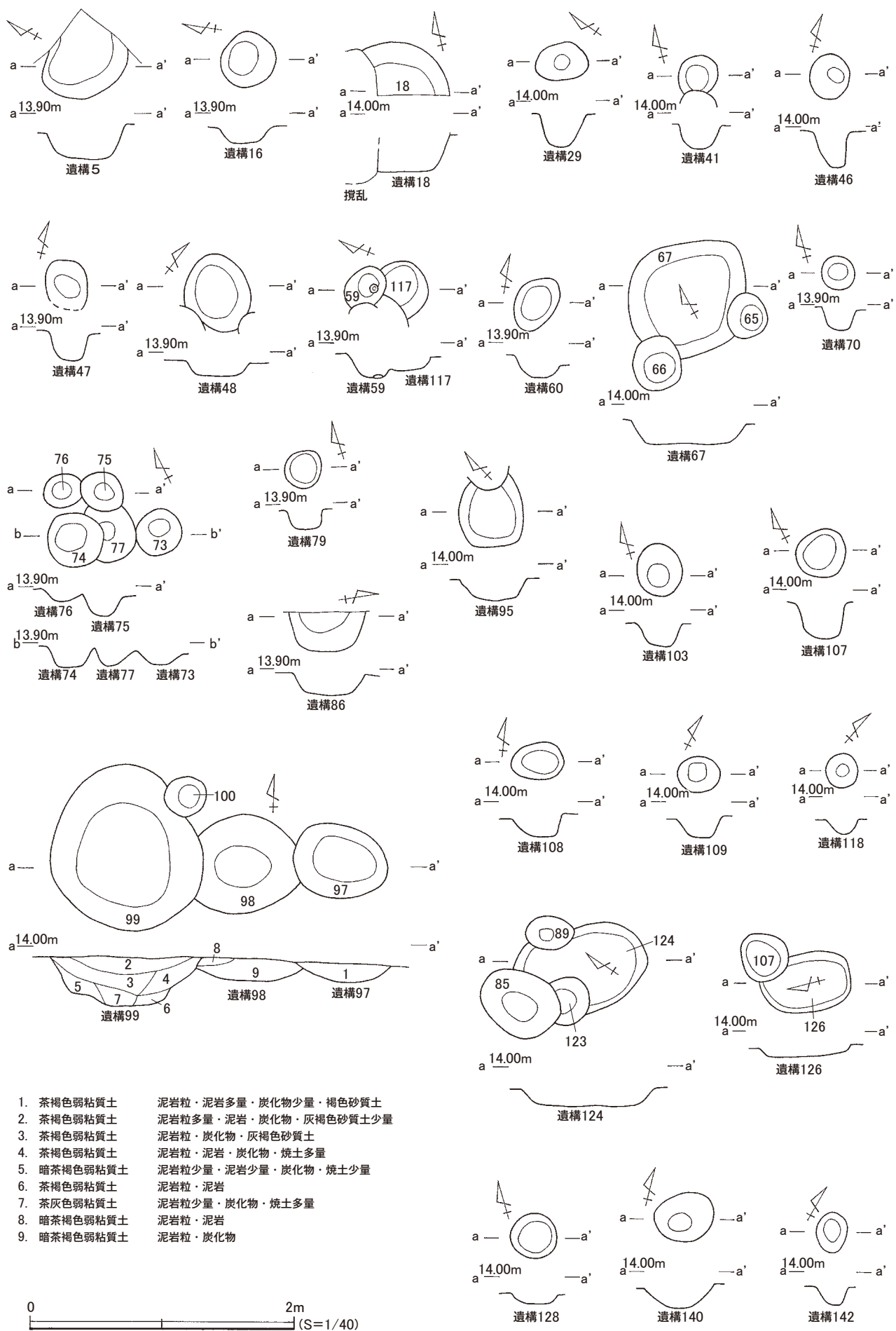


圖6 第一面遺構(1)

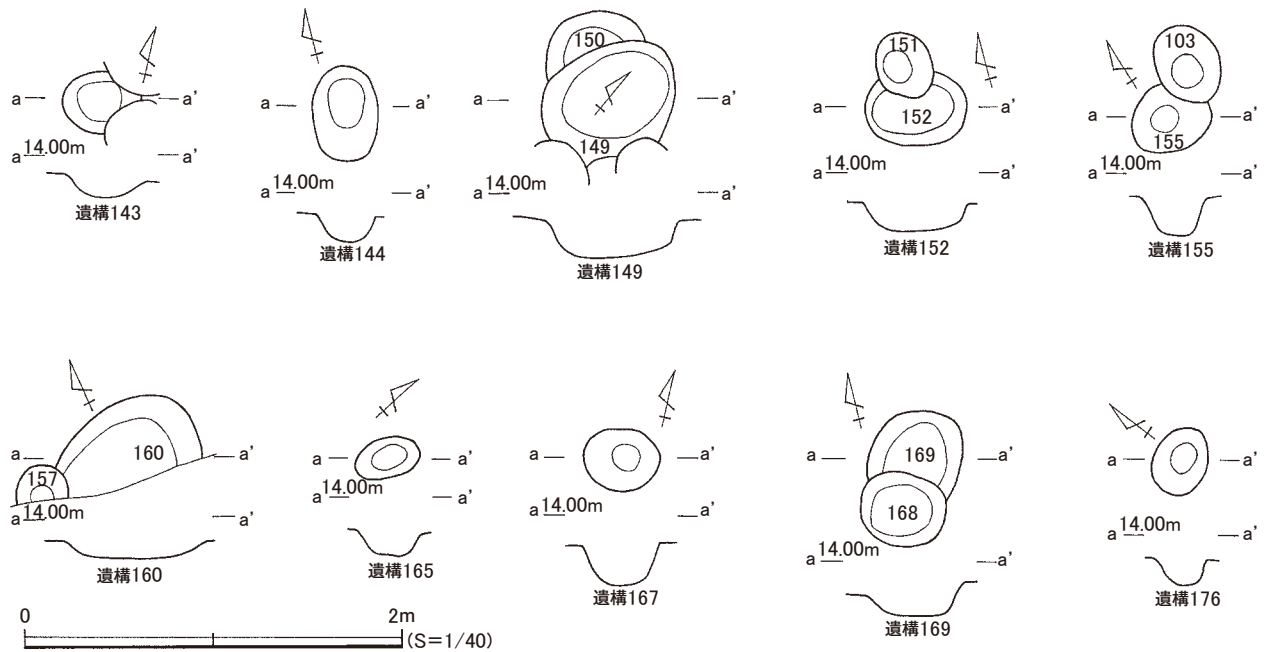


図7 第1面遺構(2)

む暗茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけ・常滑甕・瓦器質火鉢が破片で出土している。

遺構86(図6・図8)

調査区外に遺構が延びているため、形状・規模は不明。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物-18は渥美壺。その他にかわらけ・常滑壺が破片で出土している。

遺構89(図6)

円形を呈するピットである。遺構124を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物少量を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構95(図6)

土坑である。遺構64に切られる。遺構覆土は多量の泥岩粒・泥岩・炭化物少量・褐色砂質土を含む茶褐色弱粘質土。遺物は破片でかわらけ・常滑片口鉢Ⅱ類・鉄釘が出土している。

遺構97・遺構98・遺構99(図6・図8)

調査区中央辺りに、東西に連続して並ぶ土坑である。遺構98は遺構97と遺構99に切られる。遺構97の遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色砂質土を含む茶褐色砂質土。出土遺物-19は銭。破片で常滑甕・瓦器碗が出土している。遺構98の遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物-20はチャート破片。破片でかわらけが出土している。遺構99の遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色砂質土を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物-21・22はかわらけ、23は瀬戸入子、24は常滑甕、25は常滑片口鉢Ⅱ類、26は瀬戸片口鉢、27は東幡系鉢。その他に白磁口元皿・瀬戸壺・常滑片口鉢Ⅱ類・常滑甕・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構101(図5・図8)

個別に図示はしていない。遺構覆土は泥岩粒。泥岩を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物-28は瓦器質火鉢。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構103(図6)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒。泥岩。炭化物を多く含む茶褐色弱粘質土。出土遺物は破片でかわらけ・火鉢が出土している。

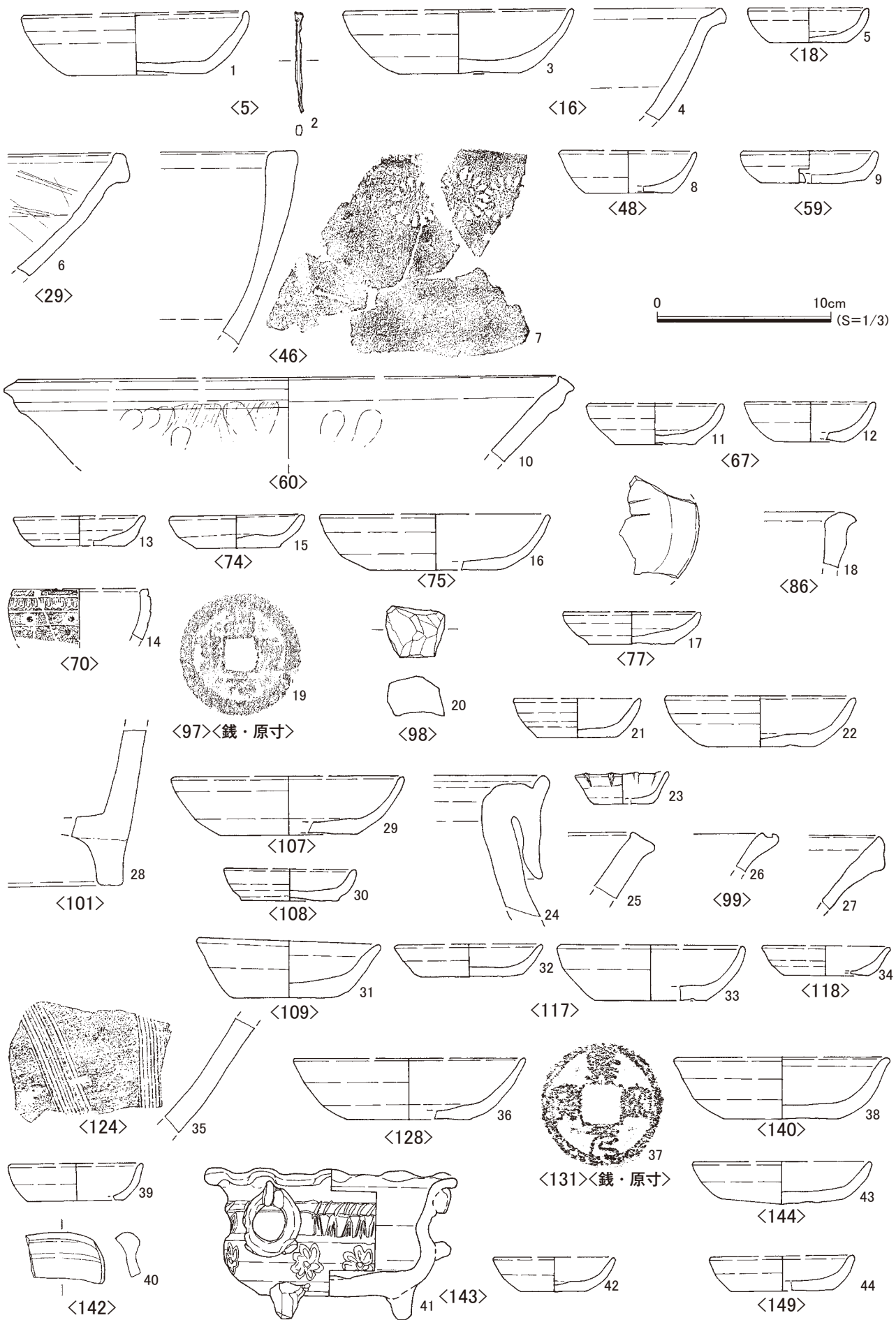


図8 第1面遺構出土遺物(1)

遺構 107 (図6・図8)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物－29はかわらけ。

遺構 108 (図6・図8)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物－30はかわらけ。その他に瀬戸壺が破片で出土している。

遺構 109 (図6・図8)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含み、底面に有機質土が堆積する茶褐色弱粘質土。出土遺物－31はかわらけ。

遺構 117 (図6・図8)

遺構58・遺構59に切られ規模は不明。ピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物－32・33はかわらけ。

遺構 118 (図6・図8)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒多量・泥岩・炭化物・褐色砂質土を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物－34はかわらけ。

遺構 123 (図6)

円形を呈するピットである。遺構85に切られる。遺構覆土は泥岩粒・炭化物少量を含む茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構 124 (図6・図8)

遺構85・遺構89・遺構123に切られる。楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物－35は備前播鉢。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構 126 (図6)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩多量・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構 128 (図6・図8)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色砂質土を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物－36はかわらけ。

遺構 131 (図5・図8)

個別に遺構は図示していない。円形を呈するピットである。遺構107・遺構126を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物－37は銭。その他にかわらけ・常滑甕・銭が破片で出土している。

遺構 140 (図6・図8)

楕円形を呈するピット。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色砂質土を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物－38はかわらけ。その他に鉄製品釘が破片で出土している。

遺構 142 (図6・図8)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。

出土遺物－39はかわらけ・40は渥美甕転用品。

遺構 143 (図7・図8)

楕円形を呈するピットである。遺構129・遺構130に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を

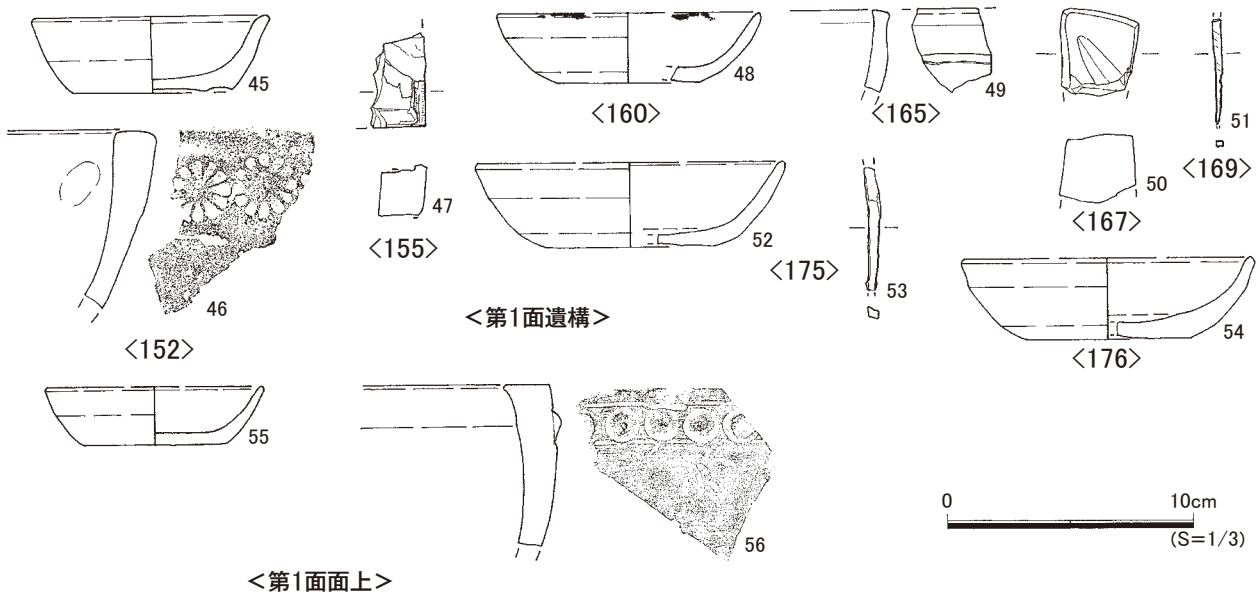


図9 第1面遺構・面上・構成土出土遺物(2)

含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物-41は瀬戸袴腰型香炉・42はかわらけ。

遺構144(図7・図8)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物-43はかわらけ。

遺構149(図7・図8)

楕円形を呈する土坑である。遺構150を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物-44はかわらけ。その他に鉄製品釘が破片で出土している。

遺構150(図7)

ピットである、遺構149に切られ規模は不明。遺構覆土は泥岩粒多量・泥岩多量・炭化物少量を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけ・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構151(図7)

円形を呈するピットである。遺構152を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物少量・褐色砂質土多量を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物はない。

遺構152(図7・図9)

楕円形を呈するピットである。遺構151に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗茶褐

色弱粘質土。出土遺物－45はかわらけ・46は瓦器質火鉢。その他に瀬戸香炉が破片で出土している。

遺構 155 (図7・図9)

楕円形を呈するピットである。遺構103に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色砂質土を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物－47は石製品硯。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構 157 (図7)

調査区外に遺構が延び規模は不明、円形を呈するピットである。遺構158・遺構160を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物少量・炭化物少量を含む茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構 160 (図7・図9)

調査区外に遺構が延びているため、形状・規模は不明。遺構157に切られる。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物－48はかわらけ、口唇部に油煤痕。

遺構 165 (図7・図9)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色砂質土を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物－49は瀬戸香炉。その他に瓦器質火鉢が破片で出土している。

遺構 167 (図7・図9)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色砂質土を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物－50は砥石、砥面に使用痕残る。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構 168 (図7)

楕円形を呈するピットである。遺構169を切る。遺構覆土は泥岩多量・泥岩・炭化物少量を含む茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構 169 (図7・図9)

楕円形を呈するピットである。遺構168に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色砂質土を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物－51は鉄製品釘。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構 175 (図5)

土坑である。遺構75・遺構76などのピットに切られ形状・規模は不明。個別に図示はしていない。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物－52はかわらけ・53は鉄製品釘。その他に青磁鎬蓮弁文碗が破片で出土している。

遺構 176 (図7・図9)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物－54はかわらけ。

第1面面上出土遺物 (図9)

55はかわらけ。56は瓦器質火鉢。

第1面構成土出土遺物 (図9)

57～61はかわらけ。62は常滑片口鉢Ⅰ類。63～65は常滑片口鉢Ⅱ類。66・67は東幡系鉢。68・69は瓦質火鉢。70は砥石、四方面を砥面として利用か。その他に白かわらけ(糸切り)・渥美甕・常滑甕・鑄型・石製品硯・鉄製品釘が破片で出土している。

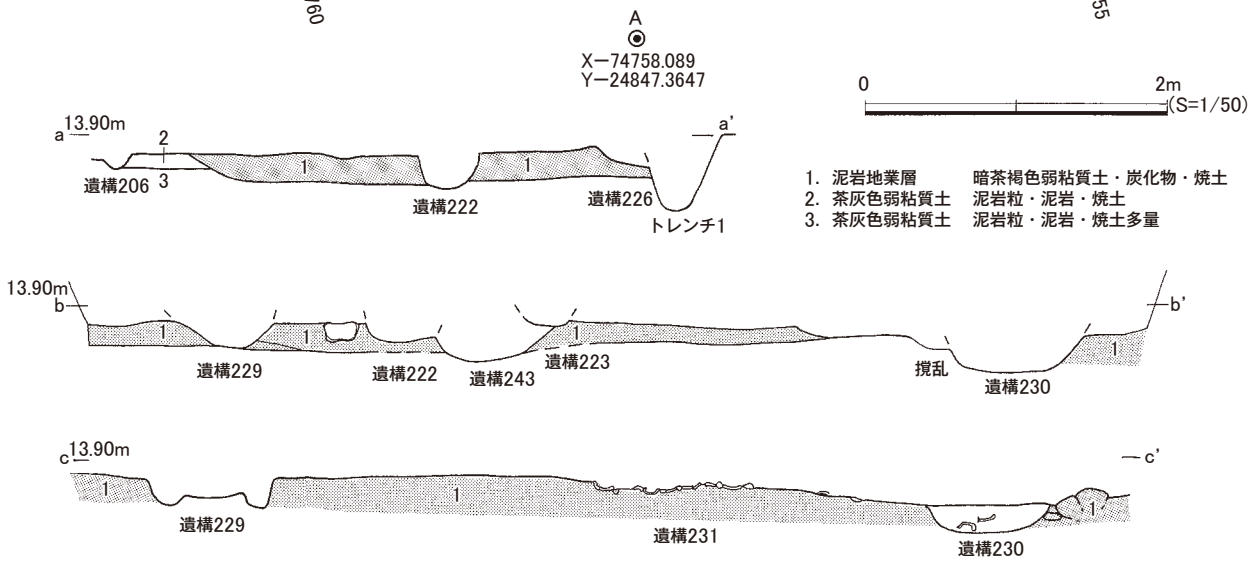
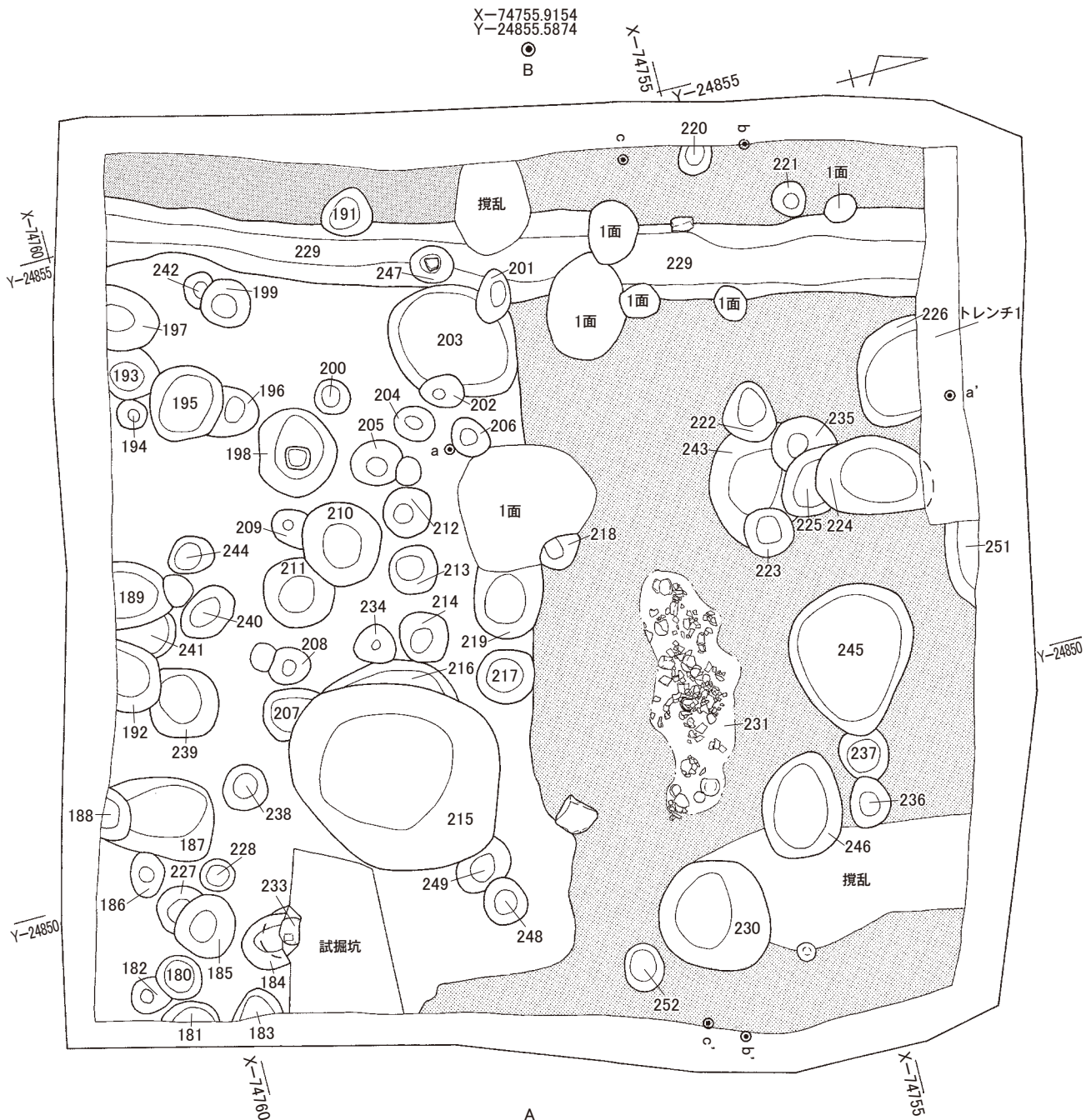


図10 第2面全測図・エレベーション図

2. 第2面の遺構と遺物（図10～図18）

第2面は泥岩細片・泥岩を多く含んだ堅く締まった地業層上で多くの遺構を発見した。発見した遺構はピット46穴・土坑22基・溝1条で、2時期の遺構の切り合いを確認している。調査区北側と、南北に延びる溝の西側には、第2面構成土を掘りこんだ大小泥岩・泥岩細片による更に堅く締まった版築が調査区外に延びることを確認している。また、調査区南側では柱痕の残るピットを複数確認したが建物址の推定は出来なかった。発見した遺物は、かわらけ・青磁・青白磁・褐釉・常滑・瀬戸・山茶碗・備前・東幡系・瓦器質火鉢・瓦・鉄製品・鋳型・鉄滓・石製品・銭である。第2面確認レベルは海拔13.80m。

遺構185（図11・図13）

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-1は瓦器質火鉢。その他にかわらけ・常滑甕・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構187（図11・図13）

楕円形を呈する土坑である。遺構188に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-2は瓦器質火鉢。その他にかわらけ・常滑片口鉢I類・常滑甕が破片で出土している。

遺構188（図11）

調査区外に遺構が延び規模は不明、ピットである。遺構覆土は泥岩粒・炭化物少量を含む暗褐色弱粘質土。遺物にかわらけが破片で出土している。

遺構198（図11）

中央に柱痕の残る不正円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物・黒色粘土を含む明茶褐色弱粘質土。柱痕部分には黒色有機質土が堆積していた。遺物にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構191（図11）

円形を呈するピットである。遺構229を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物にかわらけ・常滑片口鉢II類が破片で出土している。遺構229(溝)に伴う遺構であった可能性もある。

遺構199（図11・図13）

円形を呈するピットである。遺構242を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-3は備前播鉢。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構200（図11）

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩・炭化物少量を含む暗灰褐色弱粘質土。遺物にかわらけが破片で出土している。

遺構201（図11）

円形を呈するピットである。遺構229を切る。遺構覆土は泥岩粒・炭化物少量を含む暗茶褐色弱粘質土。遺構191同様に、遺構229(溝)に伴う遺構であったかもしれない。遺物にかわらけが破片で出土している。

遺構207（図11・図13）

楕円形を呈するピットである。遺構215に切られる。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・黒色粘土少量を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-4は瀬戸折縁深皿。5は銭。その他にかわらけ・瀬戸折縁深皿・スラグ・銭が破片で出土している。また、鉄製品・釘が火熱を受け、溶けて固まった鉄塊が付着したかわらけ片があった。

遺構211（図11・図13）

円形を呈するピットである。遺構210に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・黒色粘土を含

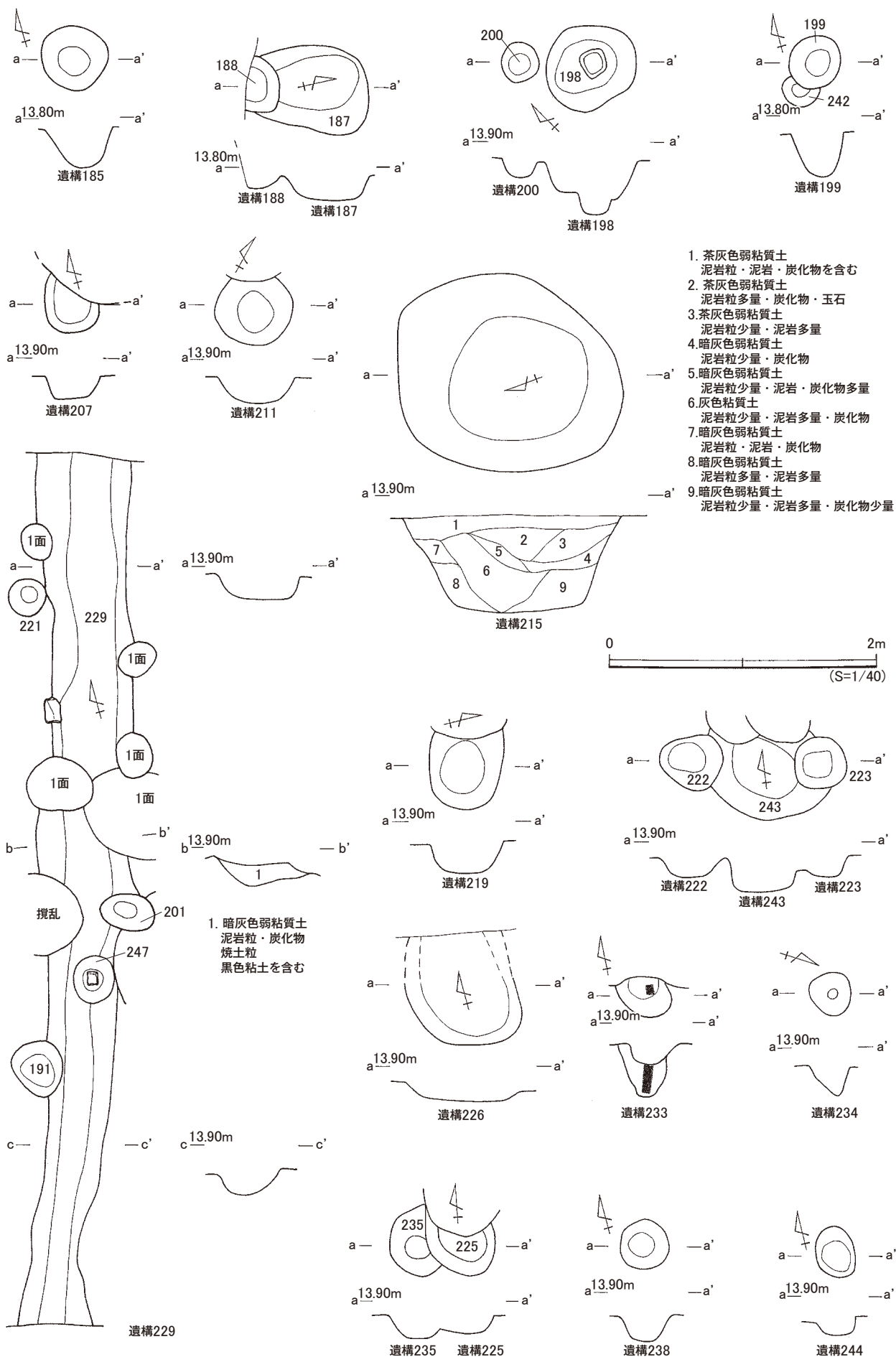


图 11 第 2 面遺構 (1)

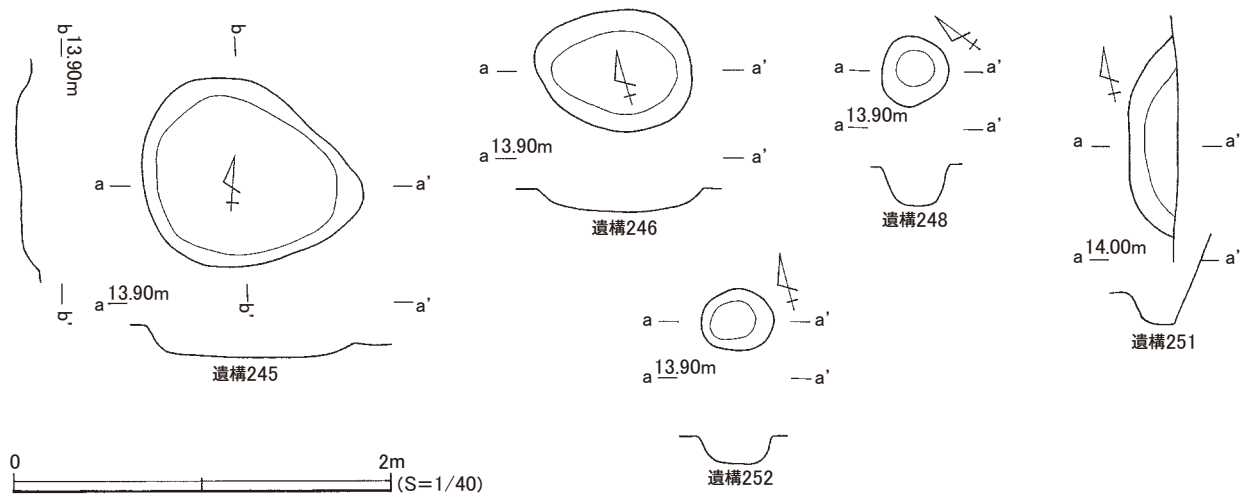


図12 第2面遺構(2)

む暗灰色弱粘質土。出土遺物-6はかわらけ。

遺構215(図11・図13)

円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰褐色弱粘質土(堆積土層図参照)。出土遺物-7~10はかわらけ。11は瀬戸折縁深皿。12~14は常滑甕。15は常滑片口鉢Ⅱ類。その他にかわらけ・瀬戸卸皿・瀬戸壺・常滑片口鉢Ⅱ類・常滑甕・瓦・瓦器質火鉢・鉄製品釘が破片で出土している。また、図示したかわらけは4個体であるが、破片でかわらけ(大)84、かわらけ(小)14個が出土している。

遺構219(図11・図13)

楕円形を呈するピットである。遺構218に切られる。遺構覆土は多量の泥岩粒・泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-16はかわらけ。17は瀬戸卸皿。18は常滑片口鉢Ⅱ類。その他に常滑片口鉢Ⅰ類・銭が破片で出土している。

遺構221(図11)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。遺構191・遺構201とともに、遺構229(溝)に伴う遺構であった可能性もある。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構222(図11・図13)

円形を呈するピットである。遺構243を切る。遺構覆土は多量の泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-19は瓦器質香炉。その他にかわらけ・瀬戸香炉・褐釉壺・常滑甕が破片で出土している。

遺構223(図11・図13)

円形を呈するピットである。遺構243を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-20はかわらけ。その他に土器(器種不明)が出土している。

遺構226(図11・図13)

調査区外に遺構が延びているため、形状・規模は不明。土坑である。遺構覆土は多量の泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰褐色弱粘質土。出土遺物-21はかわらけ。その他に常滑甕・鉄釘が破片で出土している。

遺構229(図11・図13)

北から南に向かって緩やかに走る溝である。調査区外に遺構が延びているため規模は不明。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・焼土粒・黒色粘土を含む暗灰弱粘質土。出土遺物-22~24はかわらけである。24

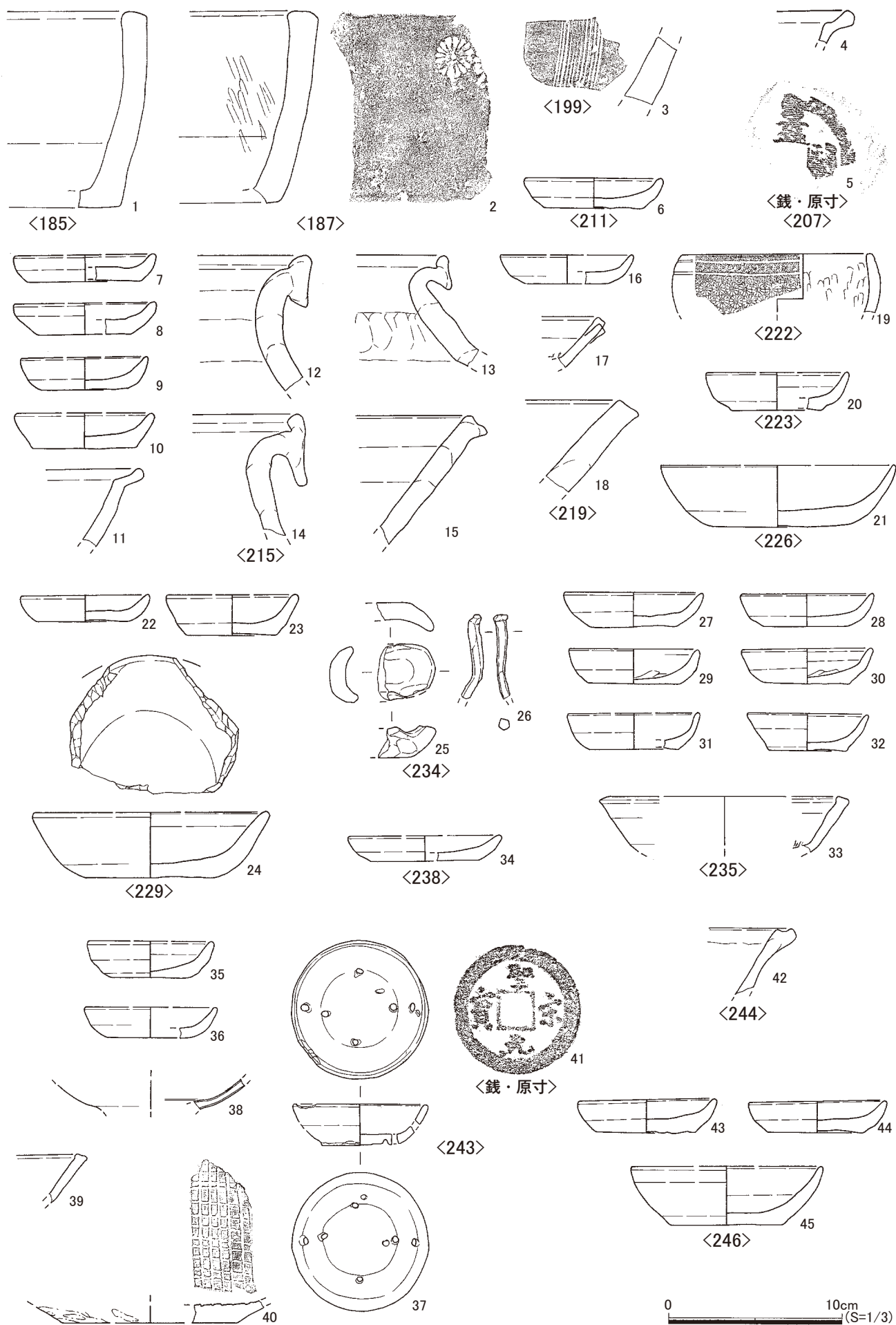


図13 第2面遺構出土遺物(1)

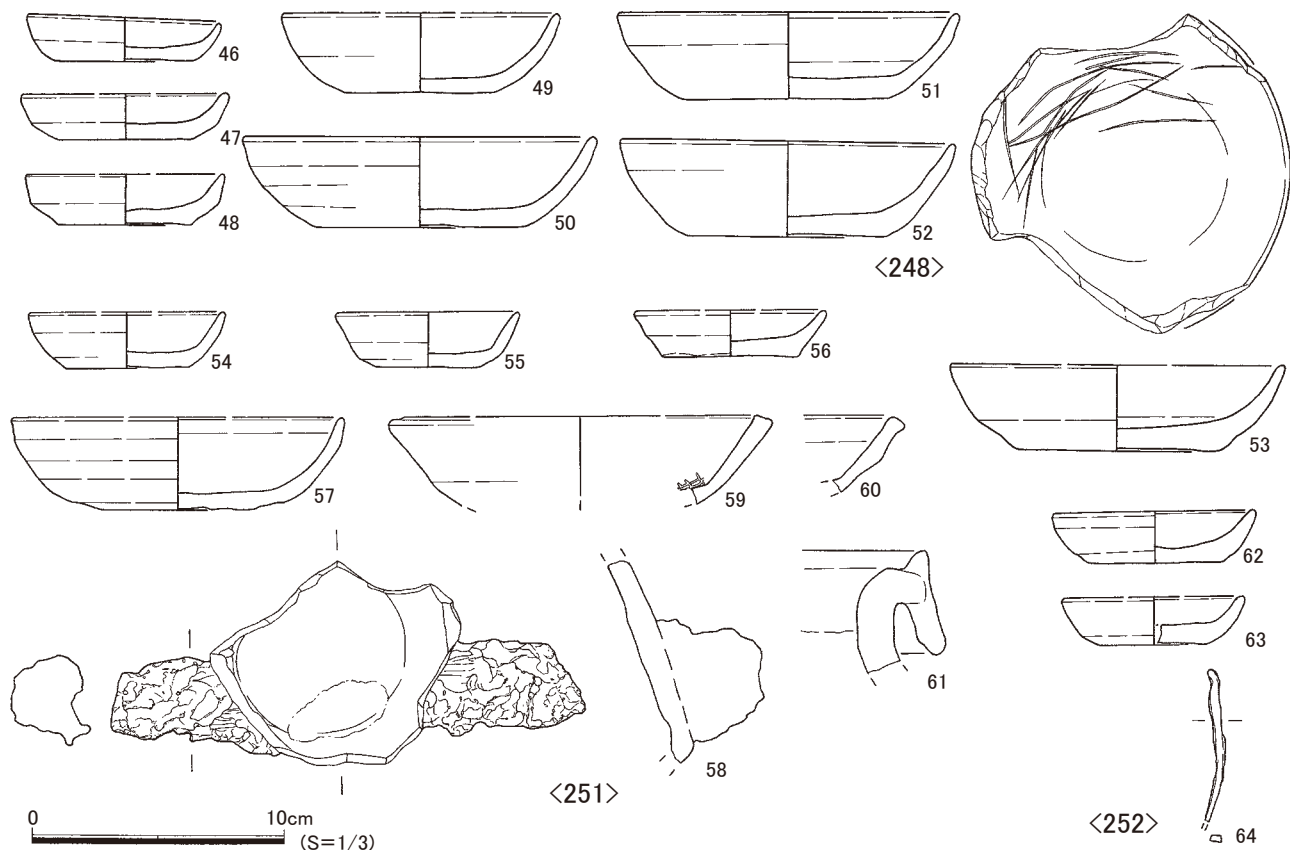


図14 第2面遺構出土遺物(2)

は故意に口唇部を打ち搔いている。その他に常滑甕・瓦器質火鉢が破片で出土している。

遺構230(図15・図16)

円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗灰褐色弱粘質土。出土遺物-1~62はかわらけ。63は常滑片口鉢Ⅱ類。64・65は瓦器質火鉢。66は鉄製品釘。図示したかわらけは62個体であるが、その他に破片でかわらけ(大)486、(小)40個が出土しており、かわらけの一括廃棄土坑と考えている。

遺構231(図17・図18)

調査区北側と溝(遺構229)に切られる調査区西側に残る版築は、第2面構成土を掘りこむ形で地業していた。遺構覆土は泥岩・泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土で、焼土および焼痕の残る泥岩を多く含む。遺構231は版築された地業上でかわらけが集中して発見されたために遺構として報告しているが、地業の一環であった可能性もある。出土遺物-1~49はかわらけ。50は瀬戸折縁深皿。51・52は瀬戸卸皿。53は常滑片口鉢Ⅱ類。54は女瓦。55はかわらけ転用品、円盤状に加工している。56はチャート片。57・58は鉄製品釘。図示したかわらけは49個体であったが、破片ではかわらけ(大)546(中)2(小)99個が出土しており、集中的にかわらけの廃棄が行われた意図が窺える。その他に常滑甕18個が破片で出土している。

遺構233(図11・図13)

試掘坑に切れ形状は不明・柱痕の残るピットである。遺構覆土は少量の泥岩粒・泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗灰色弱粘質土。柱痕部分は黒色有機質土が堆積していた。遺物はかわらけ・土器(器種不明)が破片で出土している。

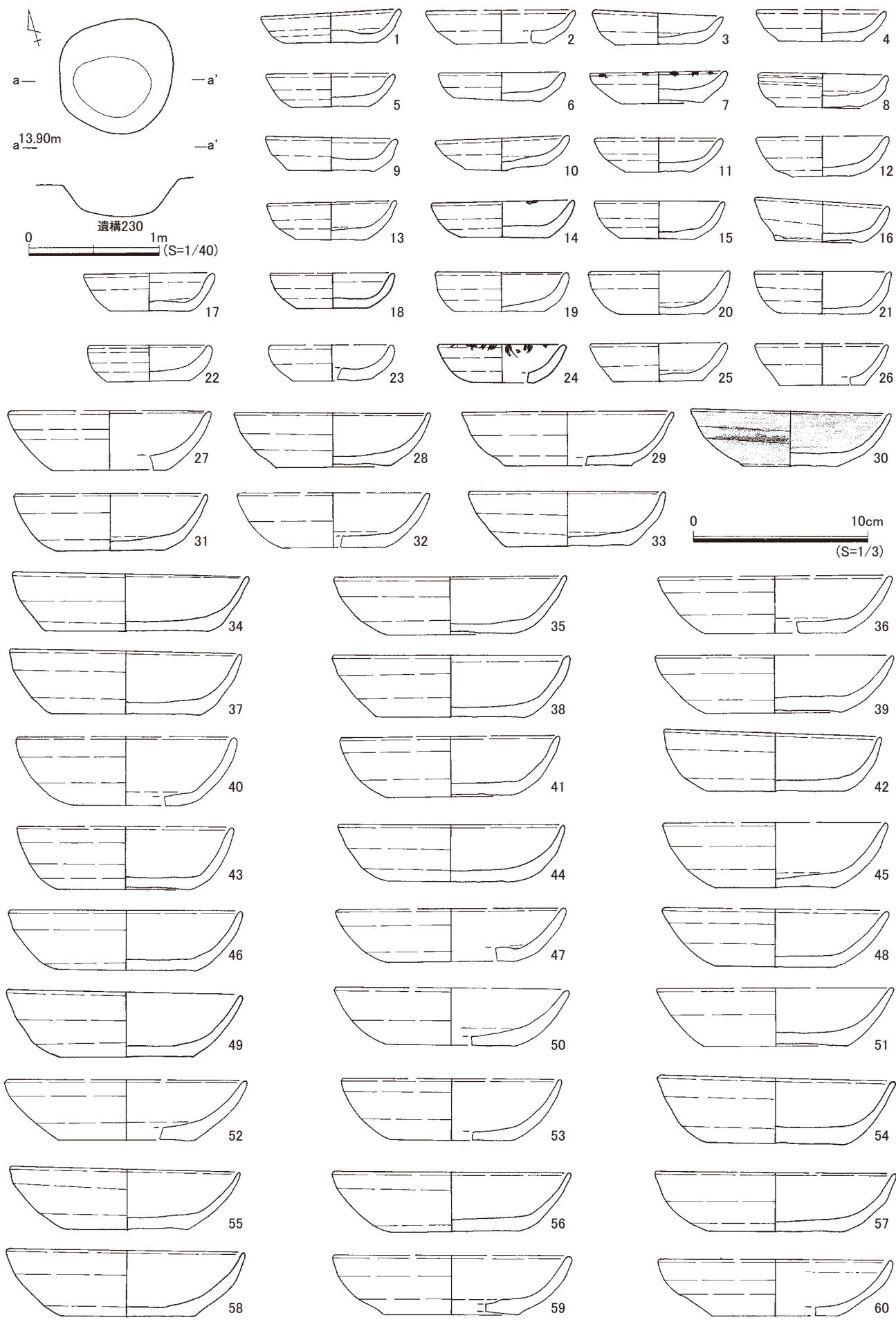


图15 第2面. 遺構230出土遺物(1)

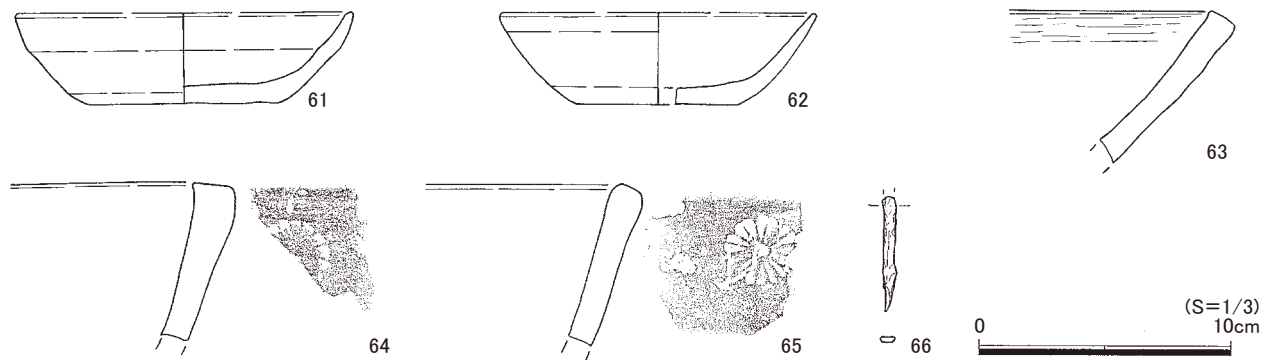


図16 第2面. 遺構230出土遺物(2)

遺構234 (図11・図13)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・焼土粒を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-25はかわらけ、耳皿。26は鉄製品釘。その他に東幡系鉢・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構235 (図11・図13)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は多量の泥岩粒・泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-27～32はかわらけ。33は瀬戸卸皿。その他に鉄製品釘が破片で出土している。

遺構238 (図11・図13)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-34はかわらけ。その他に瀬戸卸皿が破片で出土している。

遺構242 (図11)

円形を呈するピットである。遺構199に切られる。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩多量・炭化物少量を含む暗灰色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構243 (図11・図13)

楕円形を呈する土坑である。遺構222・遺構223に切られる。遺構覆土は多量の泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-35～37はかわらけ。37は見込みに5個、側壁に2個の孔が貫通しており特殊な場での使用であったと考えられる。38は白磁皿。39・40は瀬戸卸皿。41は銭。その他にかわらけ・常滑甕・鉄製品釘が破片で出土しており、図示したかわらけは3個体であるが、破片ではかわらけ(大)80・(小)8個が出土している。

遺構244 (図11・図13)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-42は瀬戸片口鉢。その他にかわらけ・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構245 (図12)

不正円形を呈する浅い土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物はない。

遺構246 (図12・図13)

楕円形を呈する浅い土坑である。遺構覆土は多量の泥岩粒・泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-43～45はかわらけ。

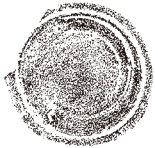
遺構247 (図11)

円形を呈するピットである。遺構底面に不整形な泥岩が遺存する。遺構覆土は泥岩粒多量・泥岩・炭化物多量・黒色粘土を含む暗灰色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。遺構229(溝)に



13.90m
a-a'

a-a'



遺構231(かわらけ集中出土)

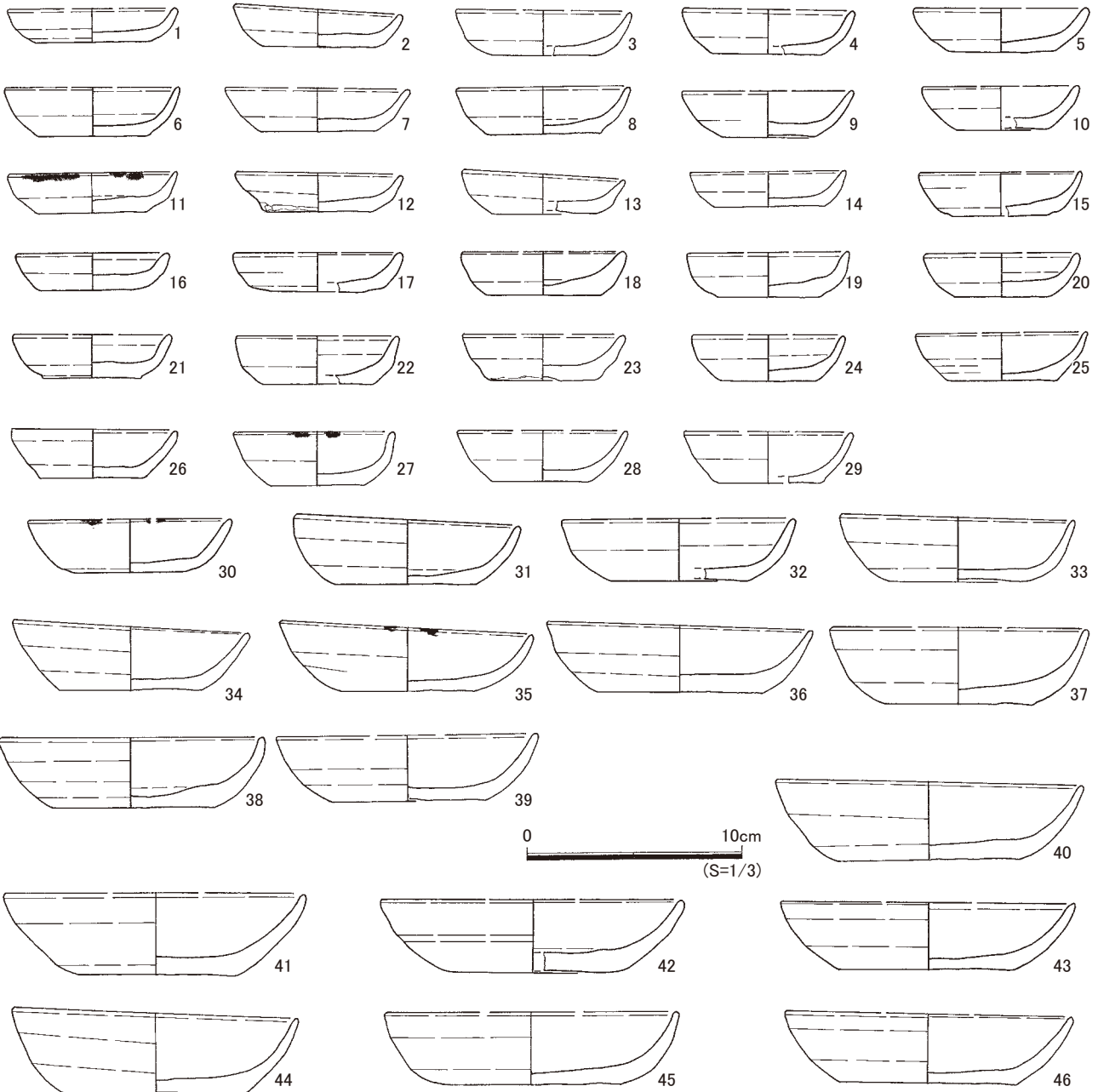


図17 第2面・遺構231出土遺物(1)

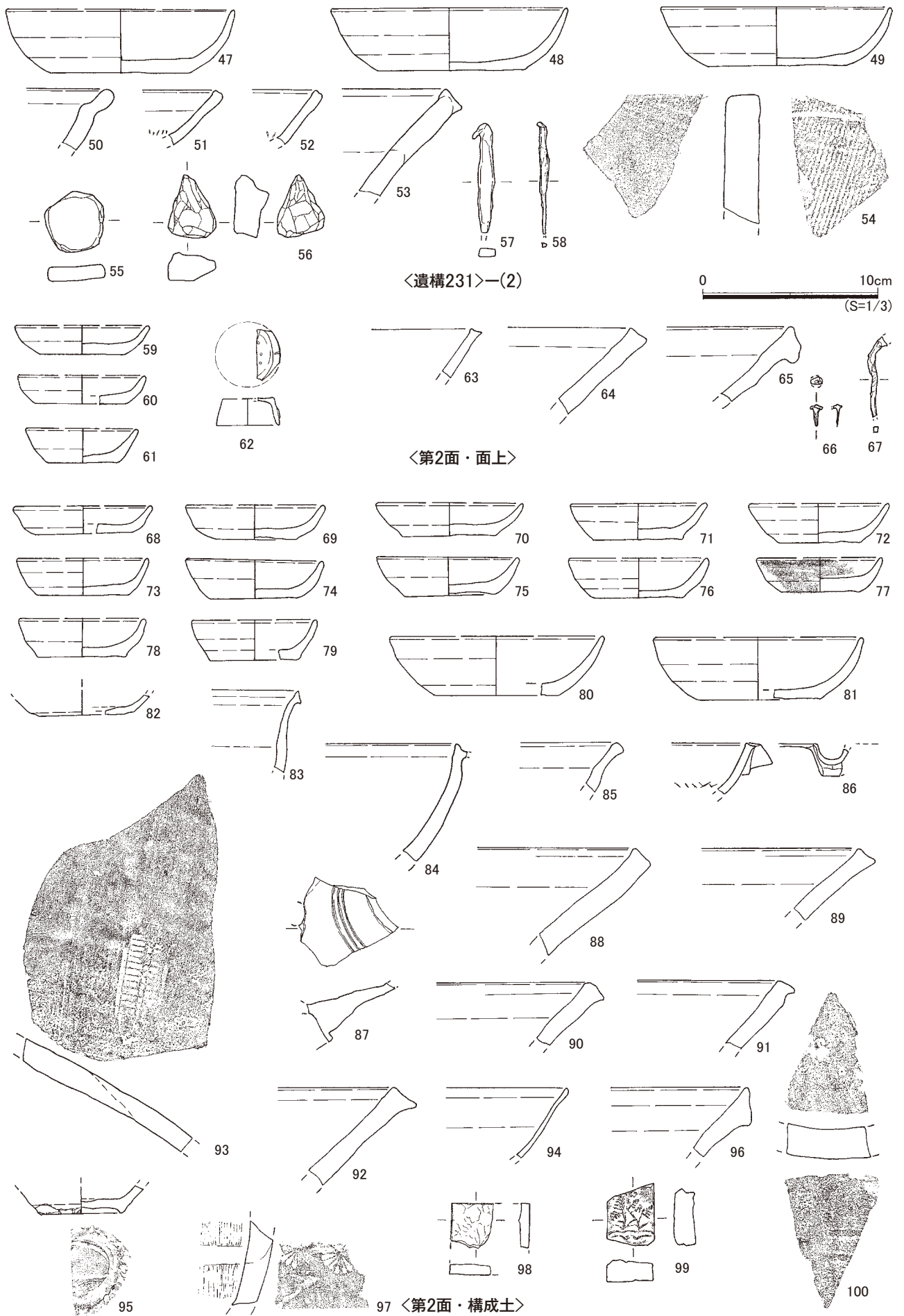


図18 第2面. 遺構231(2)・第2面. 面上・第2面. 構成土出土遺物

伴う遺構であったと考えている。

遺構 248 (図 12・図 14)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物 - 46～53はかわらけ、53は内底部に線刻あり。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。うち、図示したかわらけは8個体であるが、破片でかわらけ(大) 67・(小) 6個が出土しており、小さなピット内に、集中的にかわらけを廃棄した様子である。

遺構 251 (図 12・図 14)

調査区外に遺構が延び形状・規模は不明、土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物 - 54～58はかわらけ。58は鉄塊がかわらけ底部に張り付いていたが、かわらけが火熱を受けた痕跡は確認できない。59・60は瀬戸卸皿。61は常滑甕。その他にかわらけ・鉄滓が破片で出土し、内かわらけ(大) 74・(小) 13個と数多くの破片が出土している。

遺構 252 (図 12・図 14)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物 - 62・63はかわらけ・64は鉄製品釘。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土しているが、内かわらけ(大) 122・(小) 10個と数多くの破片が出土し、集中的にかわらけを廃棄した様子が窺え、遺構 248 に近似する。

第2面面上出土遺物 (図 18)

59～61はかわらけ。62は青白磁梅瓶、蓋。63は瀬戸卸皿。64は常滑片口鉢Ⅱ類。65は東幡系鉢。66は銅製品鉾。67は鉄製品釘。

第2面構成土出土遺物 (図 18)

68～82はかわらけ。82はロクロ成形、白かわらけ。83は白磁壺。84は瀬戸鉢。85・86は瀬戸卸皿。87は瀬戸水注。88～92は常滑片口鉢Ⅱ類。93は常滑甕。94・95は山茶碗。96は東幡系鉢。97は瓦器質火鉢。98は石製品硯。99は滑石製スタンプ。100は女瓦。その他に瀬戸片口鉢・常滑捏ね鉢Ⅰ類・鉄製品釘が破片で出土している。

3. 第3面の遺構と遺物 (図 19～図 25)

第3面は泥岩細片・泥岩を多く含んだ堅く締まった地業層上で多くの遺構を発見した。発見した遺構はピット 86穴・土坑 16基・溝 1条・竈状遺構 1基で、4時期の遺構の切り合いを確認している。調査区北側は泥岩粒・破碎泥岩・大小泥岩によって版築される。版築西側の遺構 354、版築南側の遺構 286は溝状を呈し、区画の土坑であった可能性がある。版築上および、区画内にも建物を推定することは出来なかった。調査区南側は炭化物、焼土を多く含む暗茶褐色弱粘質土上で遺構を確認している。

発見した遺物は、かわらけ・手づくね・青磁・青白磁・白磁・常滑・瀬戸・山茶碗・亀山・瓦器碗・瓦器質火鉢・鞆の羽口・鉄製品・鋳型・鉄滓・石製品・銭・果核である。第3面確認レベルは海拔 13.60m。

遺構 255 (図 20・図 22)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む茶灰色弱粘質土。出土遺物 - 1は瀬戸卸皿。2・3は常滑甕胴部片。その他にかわらけ・瓦器碗・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構 258 (図 20・図 22)

調査区外に遺構が延び、一部を遺構 327 に切られるため形状・規模は不明。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・

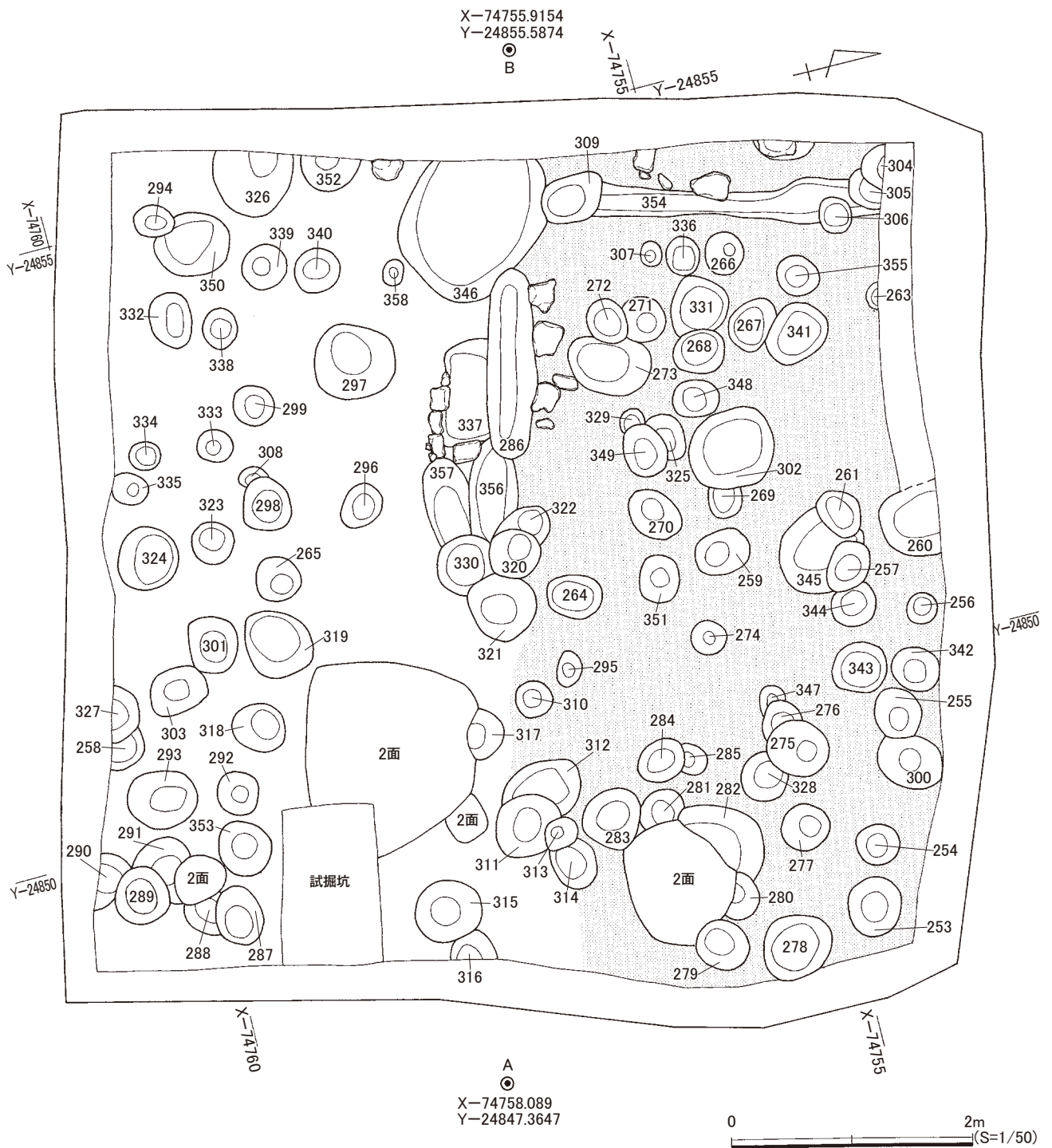


図19 第3面全測図

炭化物・黒色粘土を含む暗茶灰色弱粘質土。出土遺物-4はかわらけ。その他に青磁鎬蓮弁文碗・常滑甕・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構260 (図20・図22)

調査区外に遺構が伸び形状・規模は不明、ピットである。遺構覆土は少量の泥岩粒・泥岩・炭化物を含む茶灰色弱粘質土。出土遺物-5・6はかわらけ。7は白磁口兀皿。その他に常滑甕が破片で出土している。

遺構263 (図20・図22)

調査区外に遺構が伸び形状・規模は不明、ピットである。遺構覆土は少量の泥岩粒・泥岩・炭化物を含む茶灰色弱粘質土。出土遺物-8はかわらけ。9は鉄製品釘。

遺構 264 (図 20・図 22)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－10 はかわらけ。11 は白磁口元皿。その他に常滑甕が破片で出土している。

遺構 269 (図 20)

円形を呈するピットである。遺構 302 に切られる。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物多量を含む暗灰色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構 270 (図 20・図 22)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－12 はかわらけ。

遺構 271 (図 20・図 22)

円形を呈するピットである。遺構 272 に切られる。遺構覆土は泥岩粒・多量の炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－13～18 はかわらけ。その他に瀬戸卸皿が破片で出土している。

遺構 272 (図 20)

楕円形を呈するピットである。遺構 271・遺構 273 を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物少量を含む暗灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構 273 (図 20・図 22)

楕円形を呈するピットである。遺構 271・遺構 272 に切られる。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－19 はかわらけ。その他に常滑片口鉢Ⅱ類・常滑甕が破片で出土している。

遺構 275 (図 20)

円形を呈するピットである。遺構 276 を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑甕が破片で出土している。

遺構 276 (図 20・図 22)

円形を呈するピットである。遺構 275 に切られる。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－20 はかわらけ。その他に常滑甕が破片で出土している。

遺構 278 (図 20・図 22)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・少量の炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－21 は銭。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構 279 (図 20・図 22)

楕円形を呈するピットである。泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。ピット底部に黒色有機質土が堆積していた。柱痕か。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構 280 (図 22)

上層の遺構に切れ形状・規模は不明。ピットである。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。遺構図は個別に図示していない。出土遺物－22・23 はかわらけ。その他に常滑甕が破片で出土している。

遺構 284 (図 20・図 22)

楕円形を呈するピットである。遺構 285 を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・多量の炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－24・25 はかわらけ。24 は内外面に油煤痕。

遺構 285 (図 20)

円形を呈するピットである。遺構 284 に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物はない。

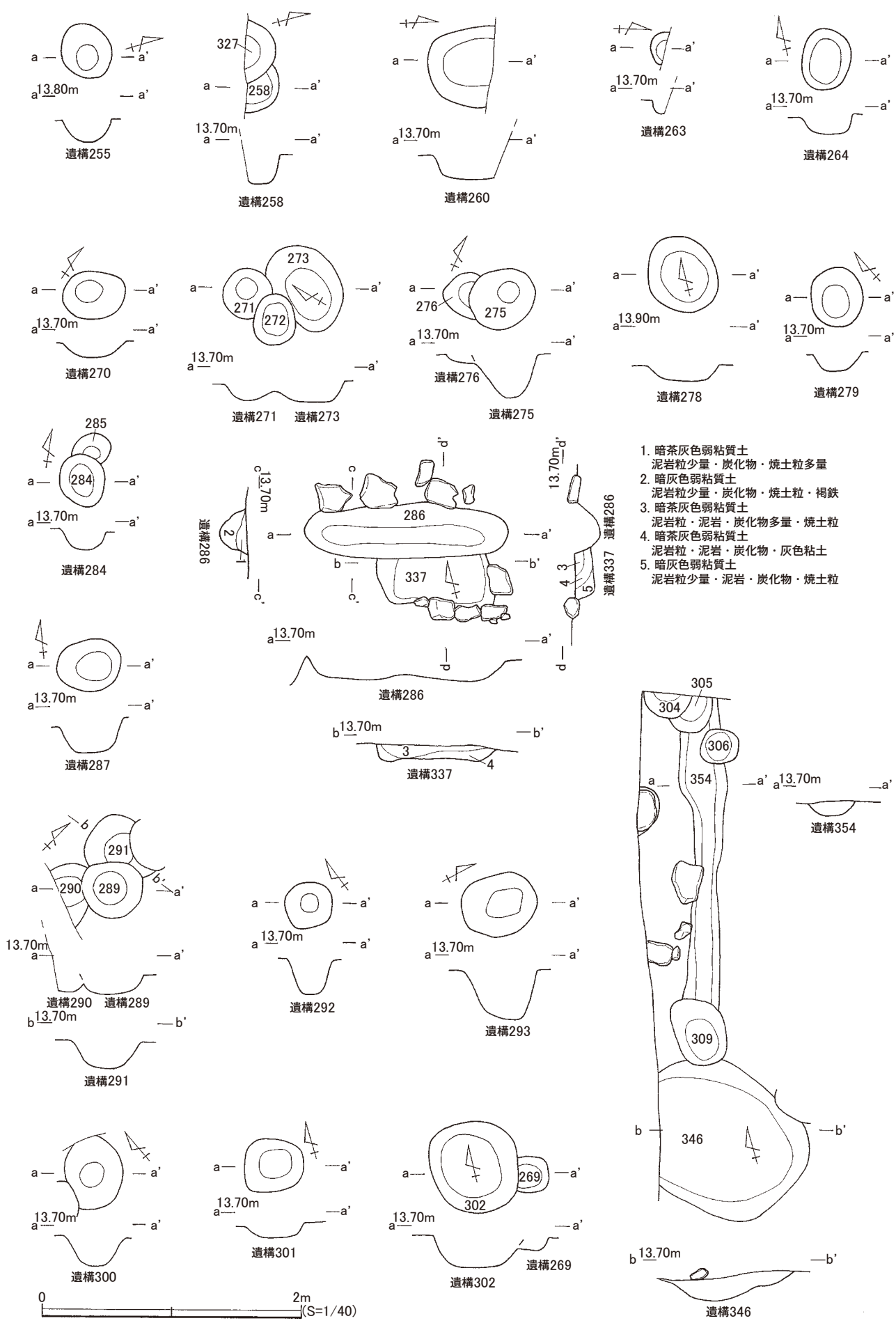


図20 第3面遺構(1)

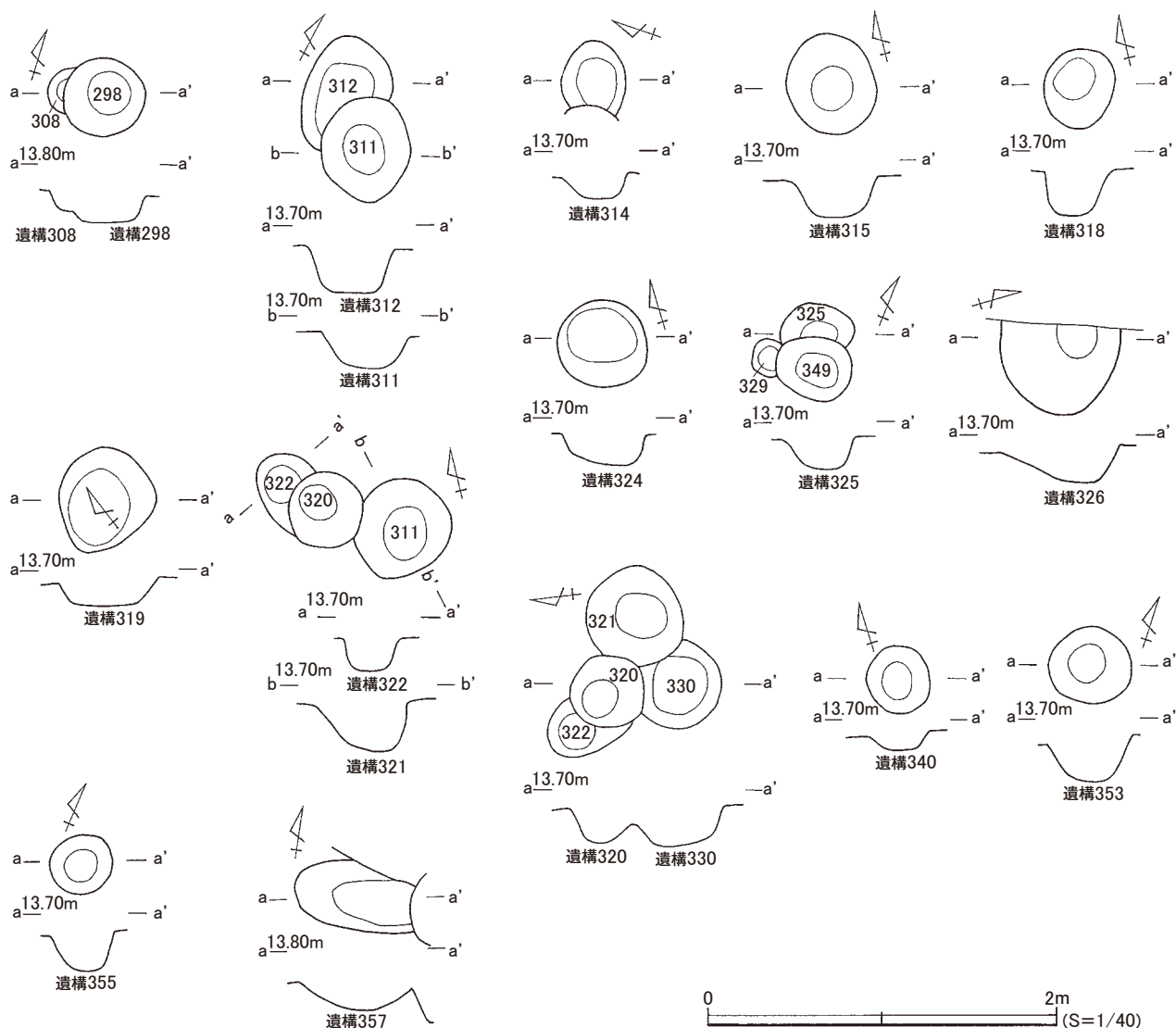


図21 第3面遺構(2)

遺構286 (図20・図22)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・多量の焼土を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物-26は常滑甕。27は常滑片口鉢Ⅱ類。28～31は銭、銭はまとまって出土している。その他にかわらけ・手づくね・青白磁梅瓶・鋳型・鉄製品釘が破片で出土し、復元は出来なかったが、かわらけは81個を数える。

遺構287 (図20・図22)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-32～35はかわらけ。その他に常滑甕・瓦器質火鉢・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構289 (図20)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・常滑甕・瓦器質火鉢。鉄製品釘が破片で出土している。

遺構290 (図20・図22)

調査区外に遺構が延び、遺構289に切られる為に形状・規模は不明、ピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-36はかわらけ。

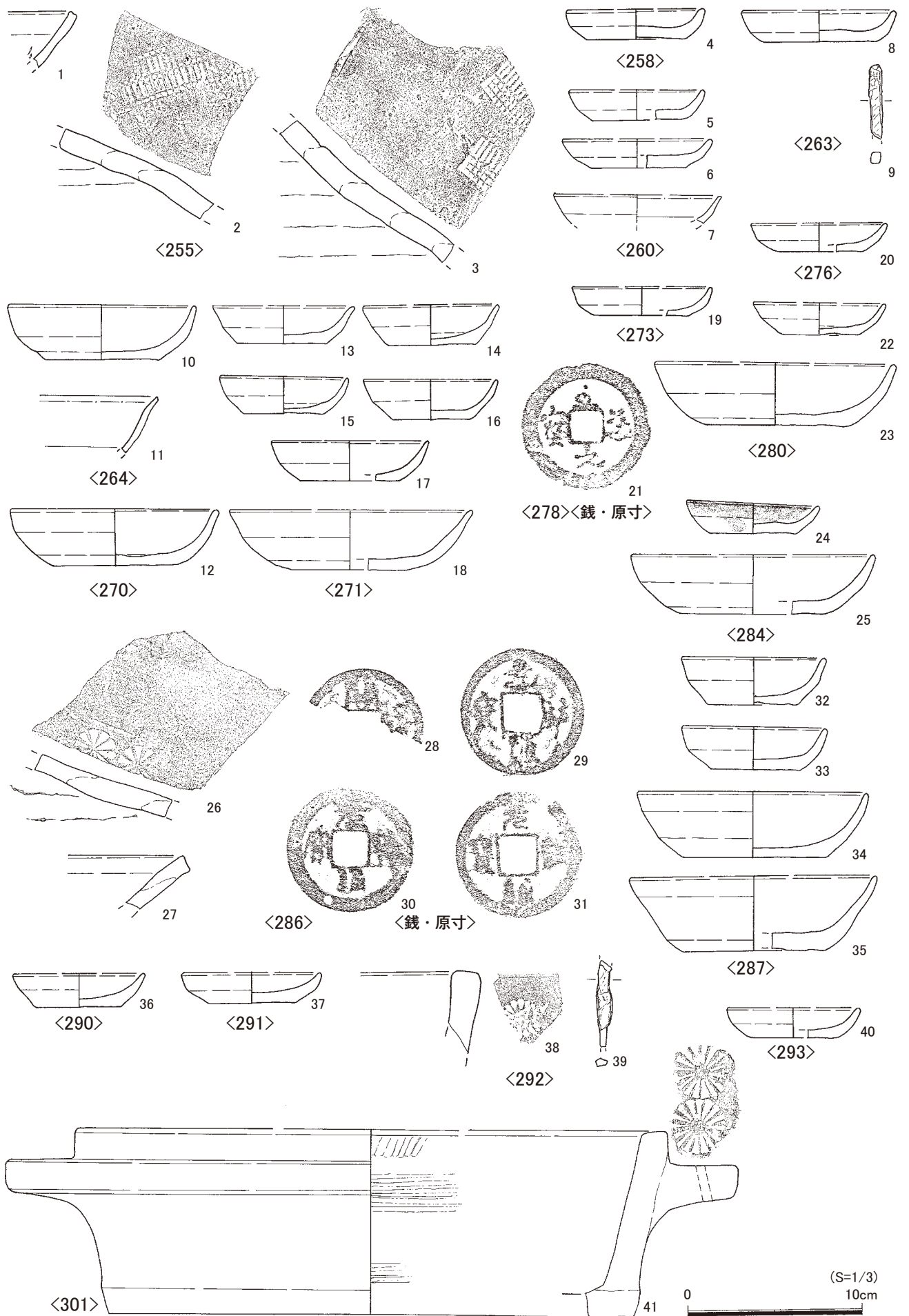


図22 第3面遺構出土遺物(1)

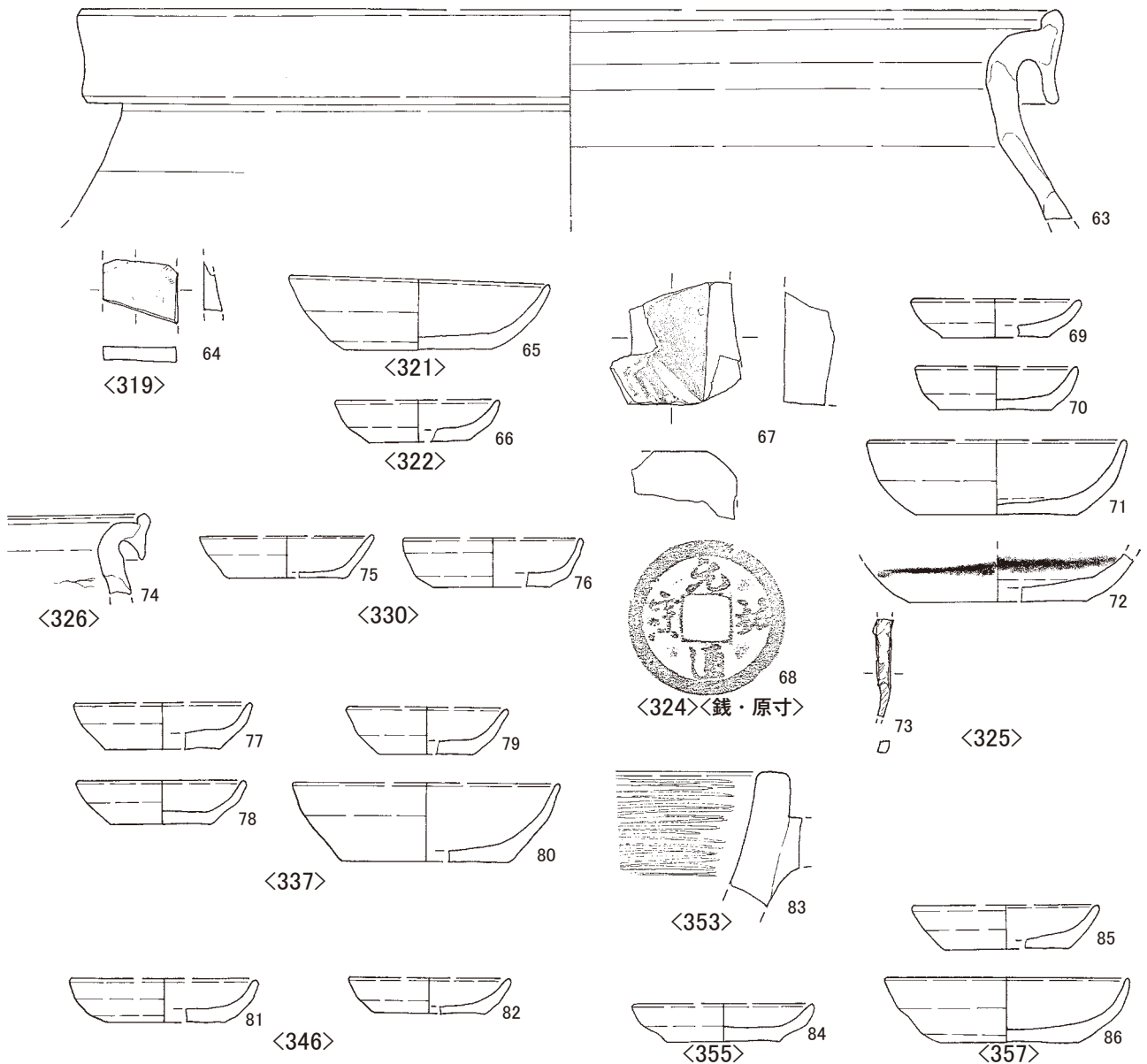
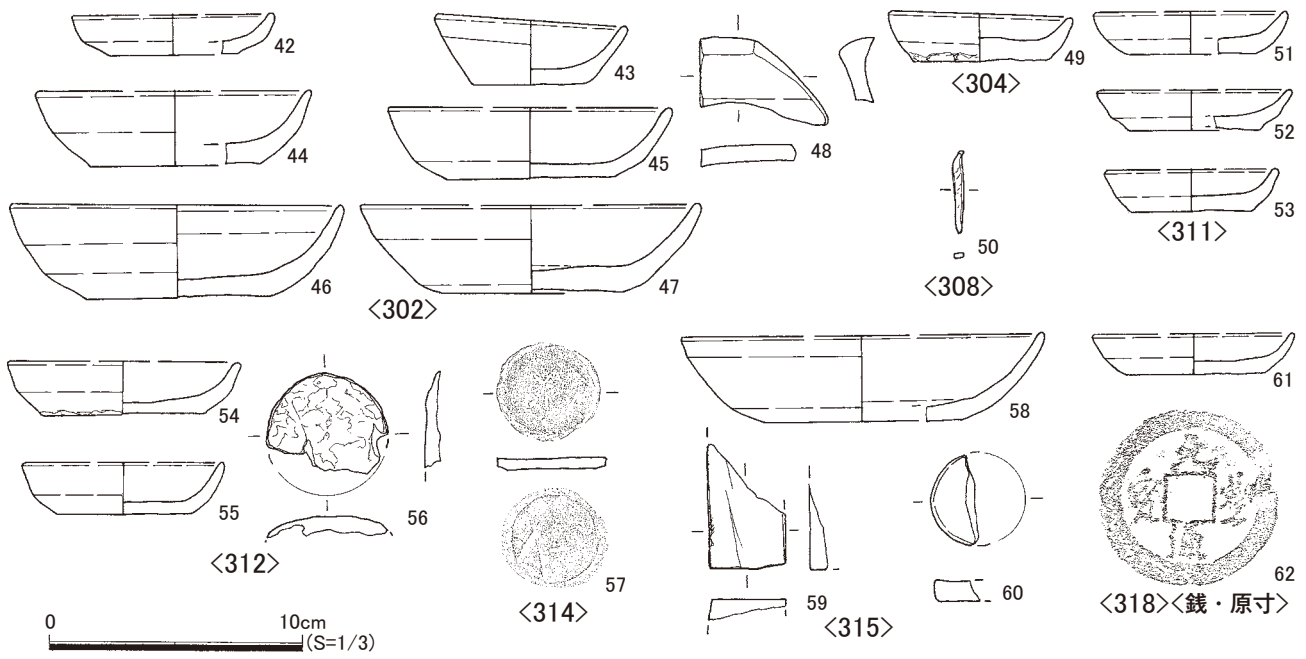


図23 第3面遺構出土遺物(2)

遺構291 (図20・図22)

円形を呈するピットである。遺構289に切られる。遺構覆土は多量の泥岩粒・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-37はかわらけ。その他に手づくねが破片で出土している。

遺構292 (図20・図22)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・焼土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-38は瓦器質火鉢。39は鉄製品釘。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構293 (図20・図22)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・焼土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-40はかわらけ。その他に常滑甕・山茶碗・瓦器質火鉢が破片で出土している。

遺構298 (図21)

円形を呈するピットである。遺構308を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩多量・炭化物少量を含む茶灰色弱粘質土。出土遺物はない。

遺構300 (図20)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・焼土を含む茶灰色弱粘質土。遺物にかわらけ・瀬戸壺・常滑片口鉢Ⅱ類・常滑甕・瓦器質火鉢・鍔釜・鋳型・鉄製品釘・銭が破片で出土している。復元は出来なかったが、かわらけは(大)84・(小)11個を数えた。かわらけ集中廃棄の土坑である。

遺構301 (図20・図22)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-41は瓦器質火鉢。

遺構302 (図20・図23)

円形を呈する土坑である。遺構269を切る。遺構覆土は炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-42～47はかわらけ。48は東幡系鉢、転用品。側面が摩耗。

遺構304 (図20・図23)

調査区外に遺構が延び形状・規模不明、ピットである。遺構305を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・焼土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-49はかわらけ。

遺構305 (図20)

円形を呈するピットである。調査区外に遺構が延び規模は不明。遺構354を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩少量・炭化物多量を含む暗灰色弱粘質土。遺物にかわらけが破片で出土している。

遺構306 (図20)

円形を呈するピットである。遺構354を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。遺物にかわらけが破片で出土している。

遺構308 (図21・図23)

遺構298に切られ、形状・規模は不明、ピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む茶灰色弱粘質土。出土遺物-50は鉄製品釘。その他にかわらけ・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構309 (図20)

楕円形を呈するピットである。遺構346・遺構354を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物少量を含む暗灰色弱粘質土。遺物にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構311 (図21・図23)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む茶灰色弱粘質土。出土遺物－51～53はかわらけ。

遺構312 (図21・図23)

円形を呈するピットである。遺構311に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・焼土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－54・55はかわらけ。56は鉄製品用途不明、蓋か。

遺構314 (図21・図23)

楕円形を呈するピットである。遺構313に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－57は瀬戸入子底部片。内外面に不鮮明な線刻残る。

遺構315 (図21・図23)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・焼土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－58はかわらけ。59は石製品砥石。60はかわらけ、転用品。

遺構318 (図21・図23)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－61はかわらけ。62は銭。

遺構319 (図21・図23)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・焼土を含む茶灰色弱粘質土。出土遺物－63は常滑甕。64は石製品砥石。

遺構320 (図21)

円形を呈するピットである。遺構321・遺構322を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩多量・炭化物微量を含む茶灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・手づくね成形の白かわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構321 (図21・図23)

円形を呈するピットである。遺構320に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－65はかわらけ。

遺構322 (図21・図23)

円形を呈するピットである。遺構320に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－66はかわらけ。

遺構324 (図21・図23)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－67は石製品砥石。68は銭。

遺構325 (図21・図23)

楕円形を呈するピットである。遺構349に切られる。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－69～72はかわらけ。73は鉄製品釘。

遺構326 (図21・図23)

調査区外に遺構が延び形状・規模は不明。土坑である。出土遺物－74は常滑甕。

遺構327 (図20)

調査区外に遺構が延び、形状・規模は不明。ピットである。遺構258を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩少量・炭化物少量・黒色粘土少量を含む茶灰色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構329 (図21)

円形を呈するピットである。遺構325・遺構349に切られる。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭

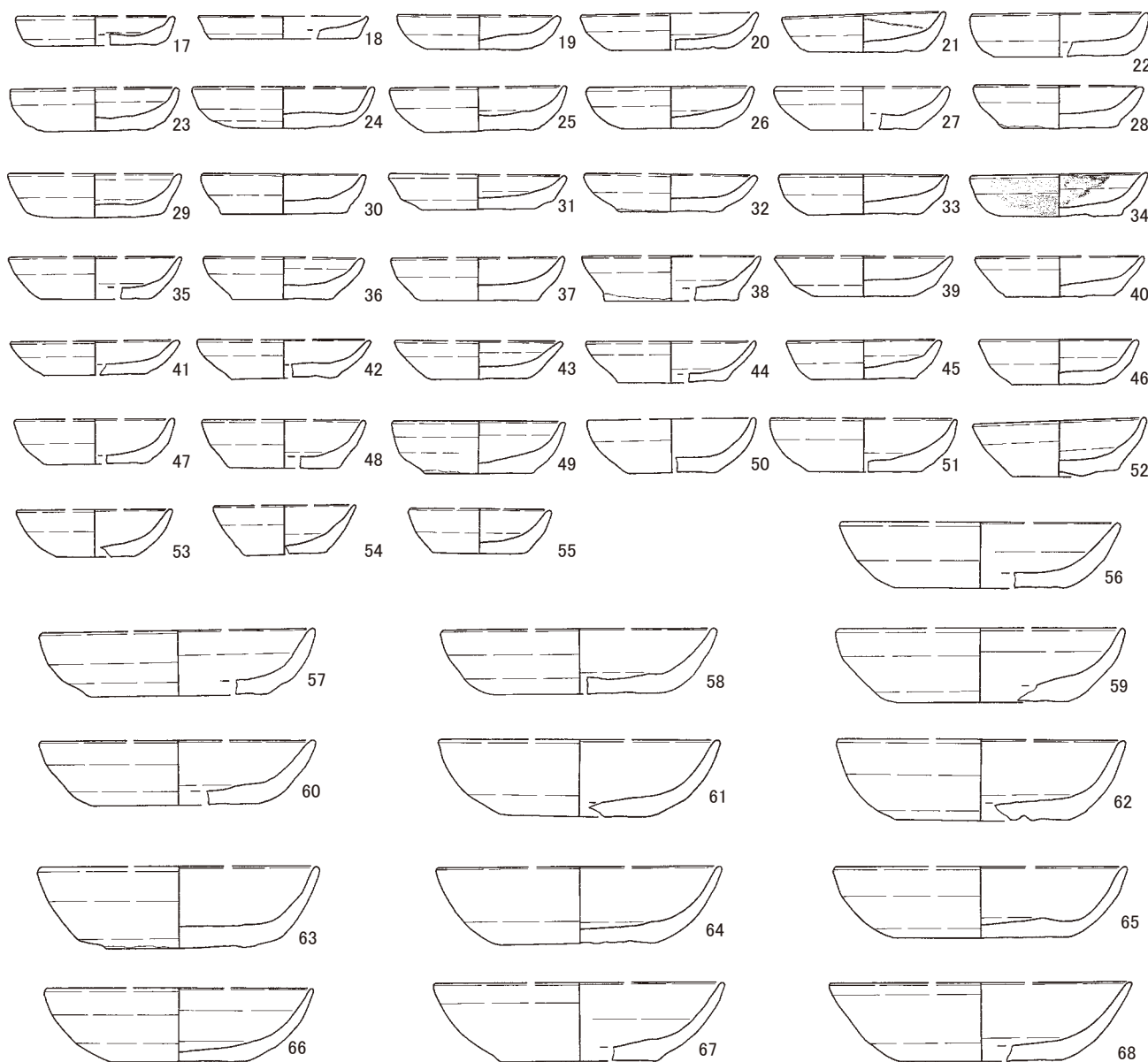
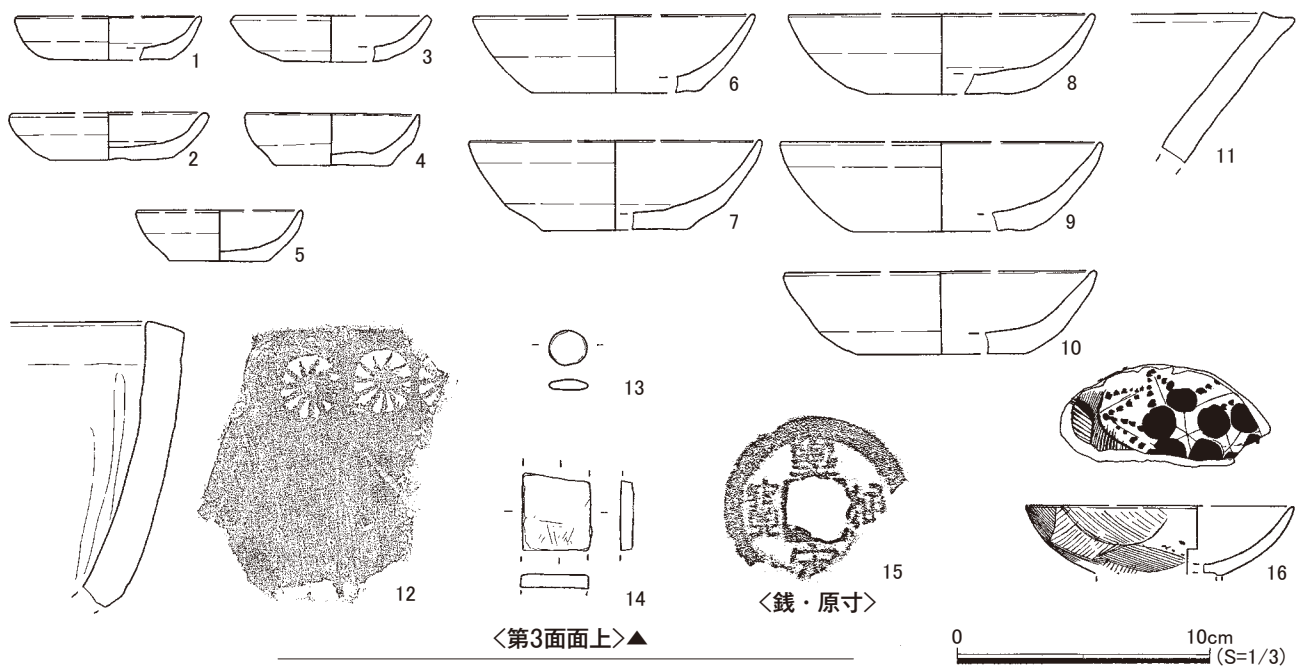


图24 第3面. 面上・構成土出土遺物(1)

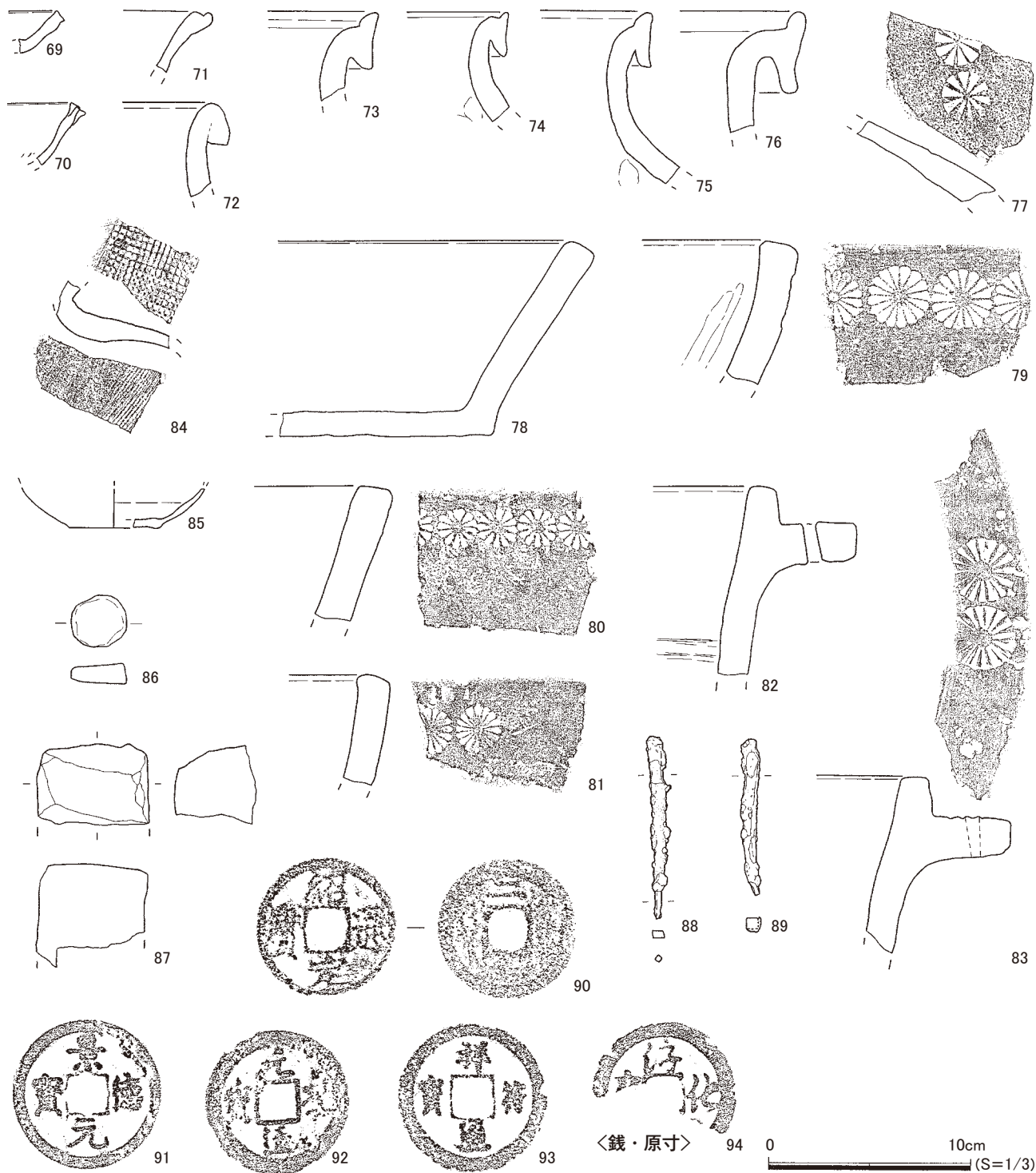


図25 第3面. 面上・構成土出土遺物(2)

化物少量を含む暗灰色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構330(図21・図23)

円形のピットである。遺構320・遺構321に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・焼土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-75・76はかわらけ。

遺構337(図20・図23)

方形を呈する土坑である。遺構286に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩とともに、多量の炭化物・焼土・炭を含む暗茶褐色弱粘質土である。不整形な泥岩が遺構周囲を囲んでいたが、泥岩に火熱を受けた痕跡

は確認できなかった。遺構底面は破碎泥岩・泥岩によって固められていた。竈の可能性を考えている。出土遺物－77～80はかわらけ。その他に常滑甕・鉄製品釘・鉄滓が破片で出土している。

遺構340(図21)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・焼土を含む茶灰色弱粘質土。

遺構346(図20・図23)

調査区外に遺構が延び規模不明、土坑である。遺構354を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・多量の焼土を含む茶灰色弱粘質土。出土遺物－81・82はかわらけ。

遺構349(図21)

楕円形を呈するピットである。遺構325・遺構329を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩多量・炭化物少量を含む茶灰色弱粘質土。出土遺物はない。

遺構353(図21・図23)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・焼土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－83は瓦器質火鉢。

遺構354(図20)

遺構北側は調査区外に遺構が延び、南側は遺構346に切られる溝状の土坑で、調査区北に広がる版築状の地業を掘りこんでいる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。遺物はかわらけ、鉄製品釘が破片で出土している。

遺構355(図21・図23)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－84はかわらけ。

遺構357(図21・図23)

楕円形を呈する土坑である。遺構330・遺構356に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・多量の焼土を含む茶灰色弱粘質土。出土遺物－85・86はかわらけ。

第3面面上出土遺物(図24)

1～10はかわらけ。11は常滑片口鉢Ⅱ類。12は瓦器質火鉢。13・14は石製品。14は砥石。15は銭。16は漆器、碗。内面に梅と枝、波の施文、外面に波の施文。

第3面構成土出土遺物(図24・図25)

17～68はかわらけ。69・70は瀬戸卸皿。71は瀬戸片口鉢。72は常滑壺。73～77は常滑甕。78は土器質火鉢。79～83は瓦器質火鉢。84は亀山甕。85は瓦器碗。86はかわらけ、転用品。87は石製品砥石。88・89は鉄製品釘。90～94は銭。その他に手づくね・手づくね成形の白かわらけ・瀬戸折縁深皿・山茶碗・獣骨が破片で出土している。

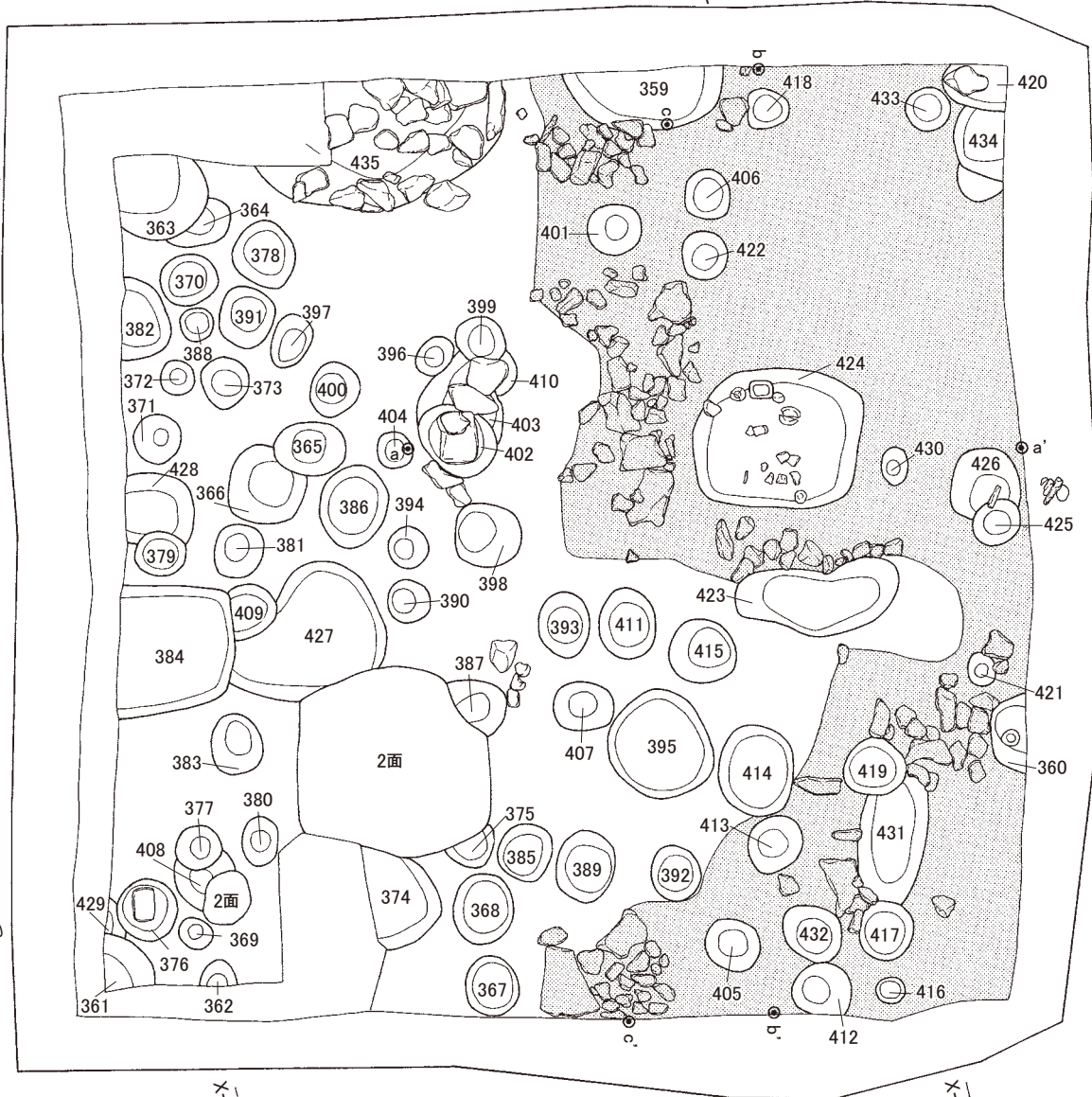
X-74755.9154
Y-24855.5874

⊙
B

X-74755
Y-24855



X-74760
Y-24855



Y-24850

Y-24850

X-74760

X-74755

⊙
A

X-74758.089
Y-24847.3647

a 13.60m



遺構402

遺構424



b 13.60m



遺構418

遺構424

遺構423

遺構414

遺構413

c 13.60m



遺構359

遺構411

遺構395

図26 第4面全測図

4. 第4面の遺構と遺物 (図26～図29)

第4面は泥岩細片・大型の泥岩を多く含んだ堅く締まった地業層上で多くの遺構を発見した。発見した遺構はピット67穴・土坑10基で、3時期の遺構の切り合いを確認している。調査区北側は泥岩粒・破碎泥岩・大小泥岩によって固く版築されていたが、大型泥岩を多く含み、やや雑な地業である。調査区南側は泥岩粒・泥岩・焼土を含む茶灰色弱粘質土で遺構を確認している。発見した遺物は、かわらけ・手づくね・青磁・青白磁・瀬戸・常滑・瓦器碗・瓦・瓦器質火鉢・石製品・鉄製品がある。第4面確認レベルは海拔13.40m。

遺構359 (図27・図28)

調査区外に遺構が延びているため規模は不明、土坑である。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土を含む暗褐色弱粘質土。出土遺物-1・2はかわらけ。図示したかわらけは2個体だが、破片数はかわらけ(大)63・(小)8個と数多く出土している。

遺構360 (図27・図28)

調査区外に遺構が延びているために規模は不明、ピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。遺構底面に炭化物が多量に堆積していた。出土遺物-3・4はかわらけ。内外側面、口唇部に油煤痕。その他に瀬戸卸皿・瀬戸折縁深皿・常滑甕が破片で出土している。

遺構363 (図27・図28)

調査区外に遺構が延びているために規模は不明、浅い土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-5はかわらけ。内外側面、口唇部に油煤痕。

遺構364 (図27)

楕円形を呈するピットである。遺構363に切られる。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物少量を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構384 (図27・図28)

調査区外に遺構が延び規模は不明、方形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-6は鉄製品、蓋か。その他にかわらけ・常滑甕・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構386 (図27・図28)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物-7は銭。その他にかわらけ・常滑甕・瓦器質火鉢・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構387 (図27・図28)

上層の遺構に切られ規模は不明、ピットである。遺構覆土は多量の泥岩粒・泥岩・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。出土遺物-8はかわらけ。その他に常滑甕が破片で出土している。

遺構391 (図27・図28)

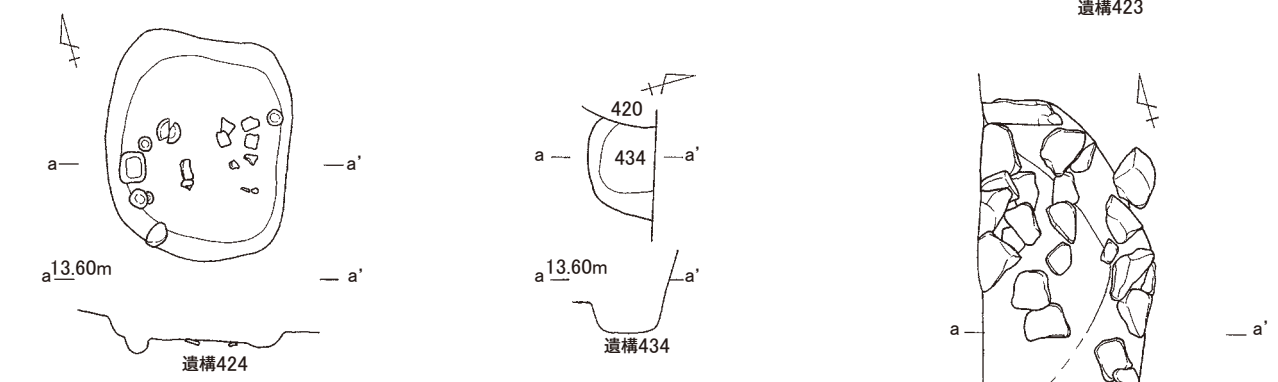
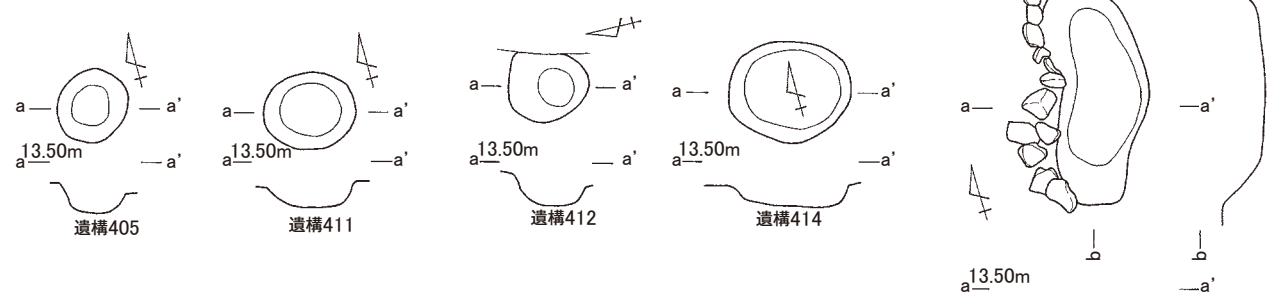
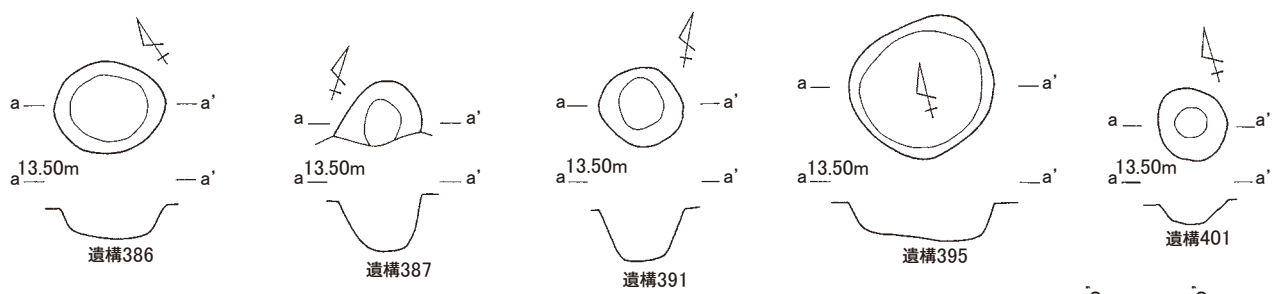
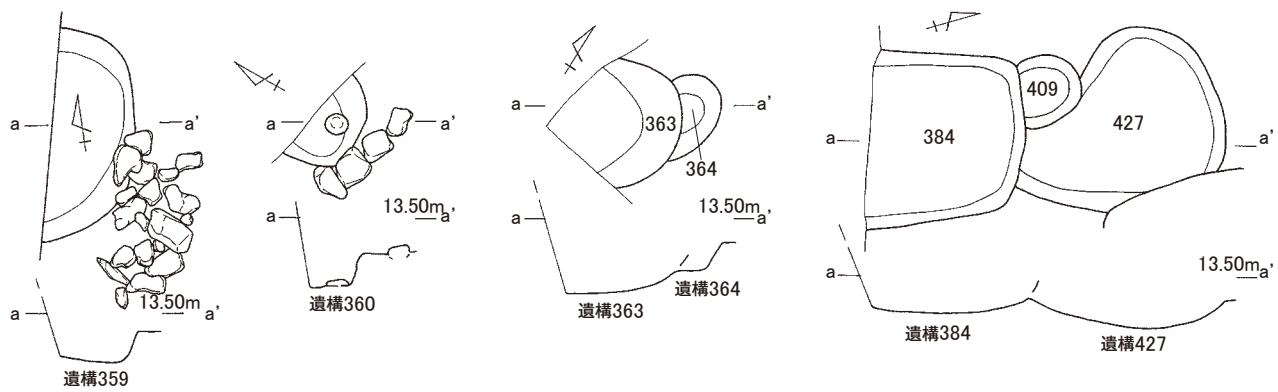
円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物-9は瀬戸折縁小皿。

遺構395 (図27・図28)

円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物-10はかわらけ。その他に青磁碗・常滑片口鉢I類・常滑甕が破片で出土している。

遺構401 (図27・図28)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・多量の炭化物を含む暗灰色弱粘質土。出土遺



〈遺構435 土層註記〉

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1. 暗茶褐色弱粘質土 | 泥岩粒・泥岩多量・炭化物・燒土粒 |
| 2. 暗灰色弱粘質土 | 泥岩粒・泥岩・炭化物・燒土粒 |
| 3. 暗灰色弱粘質土 | 泥岩粒多量・泥岩多量・炭化物・玉石 |
| 4. 暗茶褐色弱粘質土 | 泥岩粒多量・泥岩・炭化物少量 |
| 5. 茶灰色粘質土 | 泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物少量 |

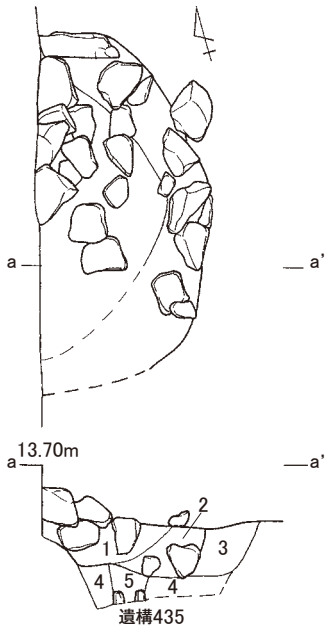
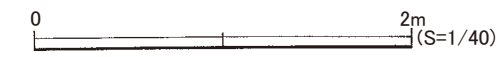


図27 第4面遺構

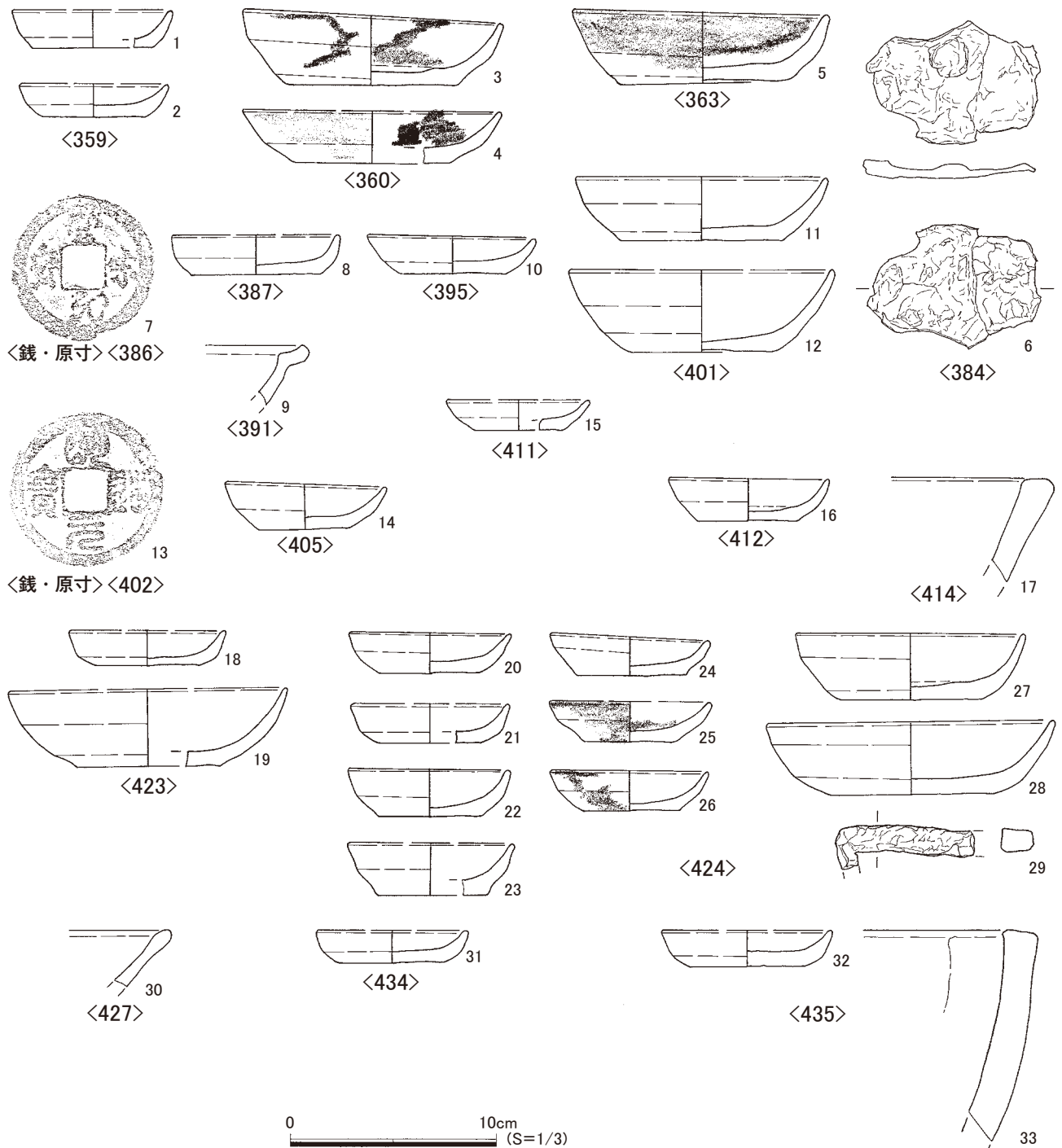


図28 第4面. 遺構 出土遺物

物-11・12はかわらけ。

遺構402 (図28)

個別に図示していない。土坑である。覆土内に大型の泥岩を含むが、地業の一環であった可能性もある。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む灰色弱粘質土。出土遺物-13は銭。その他にかわらけ・手づくね成形の白かわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構405 (図27・図28)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩少量・炭化物を含む灰色弱粘質土。出土遺物-14はかわらけ。

遺構409 (図27)

円形を呈するピットである。遺構384に切られる。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物多量を含む暗灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構411 (図27・図28)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩少量・炭化物少量を含む灰色弱粘質土。出土遺物-15はかわらけ。その他に常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類が破片で出土している。

遺構412 (図27・図28)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩少量・炭化物を含む灰色弱粘質土。出土遺物-16はかわらけ。

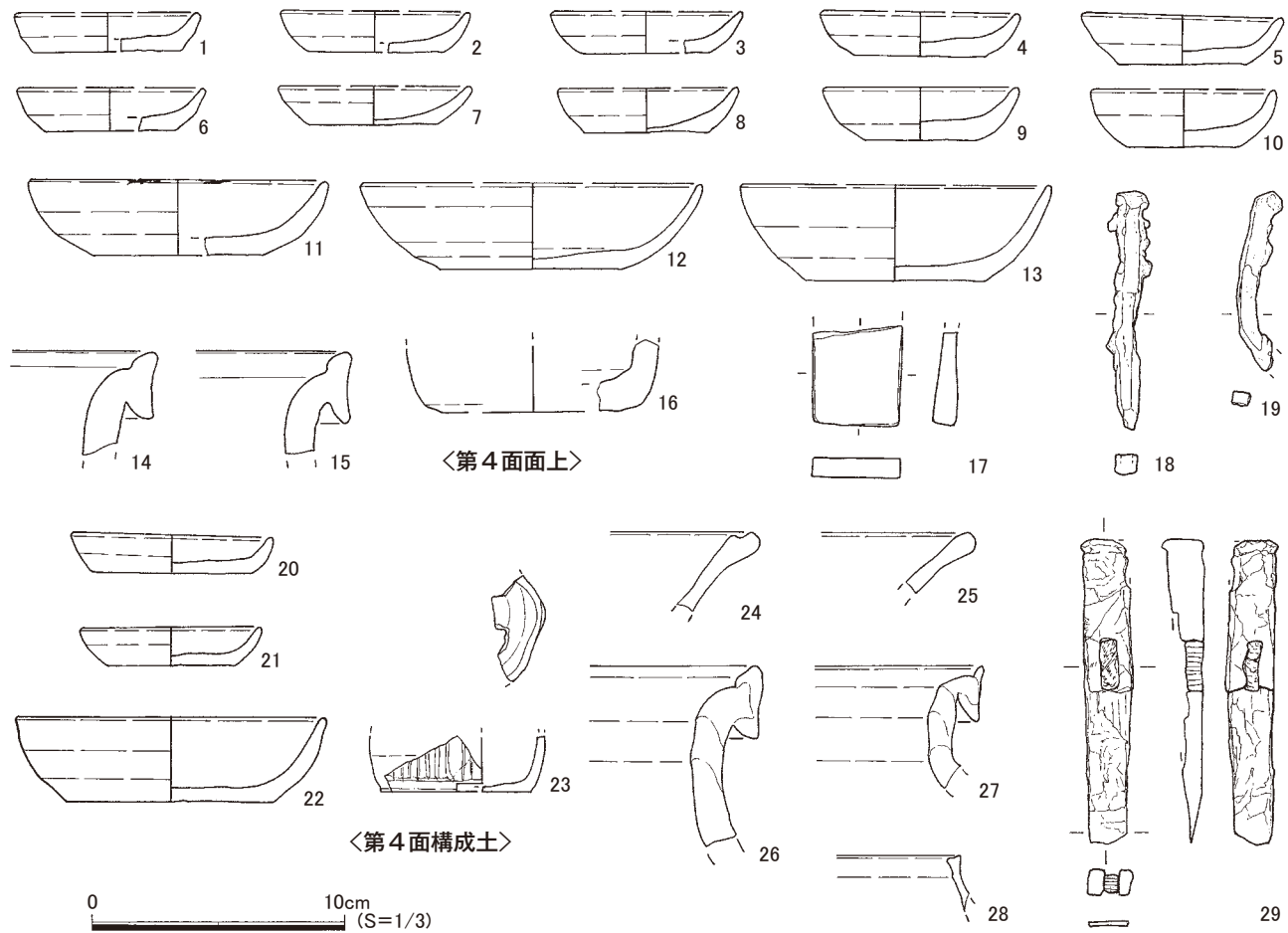


図29 第4面. 面上・構成土出土遺物

遺構414 (図27・図28)

楕円を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩少量・炭化物を含む灰色弱粘質土。出土遺物-17は土器質火鉢。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構423 (図27・図28)

不正円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物-18・19はかわらけ。

遺構424 (図27・図28)

方形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩少量・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。覆土内にかわらけを多く含んでいた。出土遺物-20～28はかわらけ。29は鉄製品、掛け金具。図示できたかわ

らは8点であるが、その他にかわらけ(大) 93・かわらけ(小) 25個、常滑甕・瓦器質火鉢が破片で出土している。

遺構427(図27・図28)

遺構384・遺構409に切られ形状規模は不明、土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物-30は山茶碗。その他にかわらけ・常滑片口鉢Ⅱ類・常滑甕が破片で出土している。

遺構434(図27・図28)

遺構が調査区外に延び。一部遺構420に切られるために形状・規模は不明、ピットである。遺構覆土

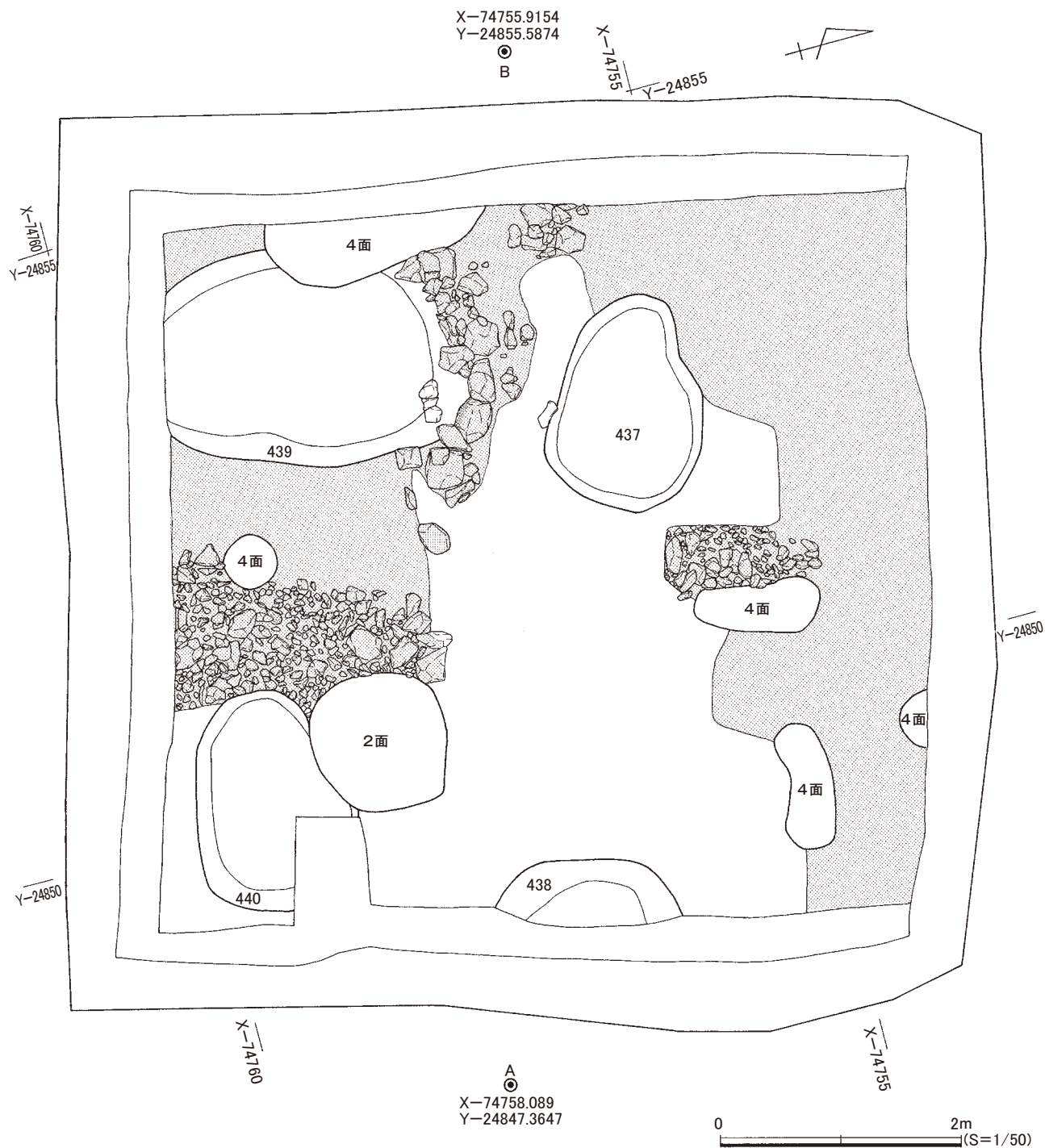


図30 第5面全測図

は泥岩粒・泥岩・炭化物多量を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物-31はかわらけ。

遺構435 (図27・図28)

調査区外に遺構が延び。形状・規模は不明、土坑である。遺構覆土泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。遺構上層に大型の泥岩・破碎泥岩を含む。地業の一環であったかもしれない。出土遺物-32はかわらけ・33は瓦器質火鉢。その他に青白磁壺・常滑甕・石製品砥石が破片で出土している。

第4面面上出土遺物 (図29)

1～13はかわらけ。14・15は常滑甕。16は土器質壺。17は石製品砥石。18・19は鉄製品釘。

第4面構成土出土遺物 (図29)

20～22はかわらけ。23は白磁香炉。24は瀬戸片口鉢。25は常滑片口鉢I類。26・27は常滑甕。28は東海系鏝鍋。29は不明鉄製品。その他に青白磁梅瓶・常滑片口鉢II類・常滑壺・瓦器碗・瓦器質火鉢・石製品砥石・滑石鍋・鉄製品釘が破片で出土している。

5. 第5面の遺構と遺物 (図30～図33)

第5面は泥岩粒・破碎泥岩・泥岩を多く含んだ堅く締まった地業である。発見した遺構は大型の土坑4基であるが、いずれの遺構覆土も泥岩を多く含んだ覆土であり、地業の一環であった可能性を考えている。調査区中央付近に破碎泥岩を厚く敷き詰め、やや盛りあがった地業が断続的に南北に走ることを確認した。道路遺構の可能性も考えたが、上層の遺構によって壊されており調査区壁の堆積土層でも確認は出来なかった。また、第5面構成土下層には炭化物層が広がることを観察しているが、調査区の約北半分は約10cm、南半分は20～25cmと、南側に向かって厚く炭化物層は堆積していた。発見した遺物は、かわらけ・手づくね・青磁・白磁・青白磁・瀬戸・常滑・山茶碗・瓦器・瓦器質火鉢・石製品・鉄製品である。第5面確認レベルは海拔13.20m。

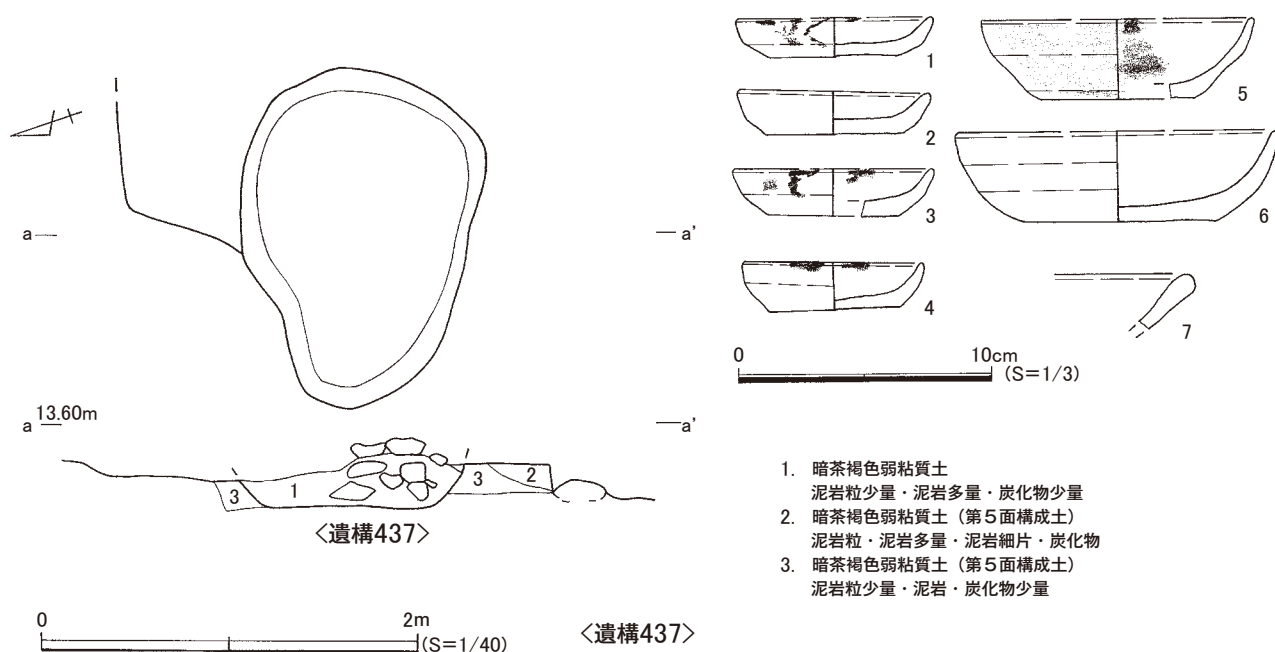
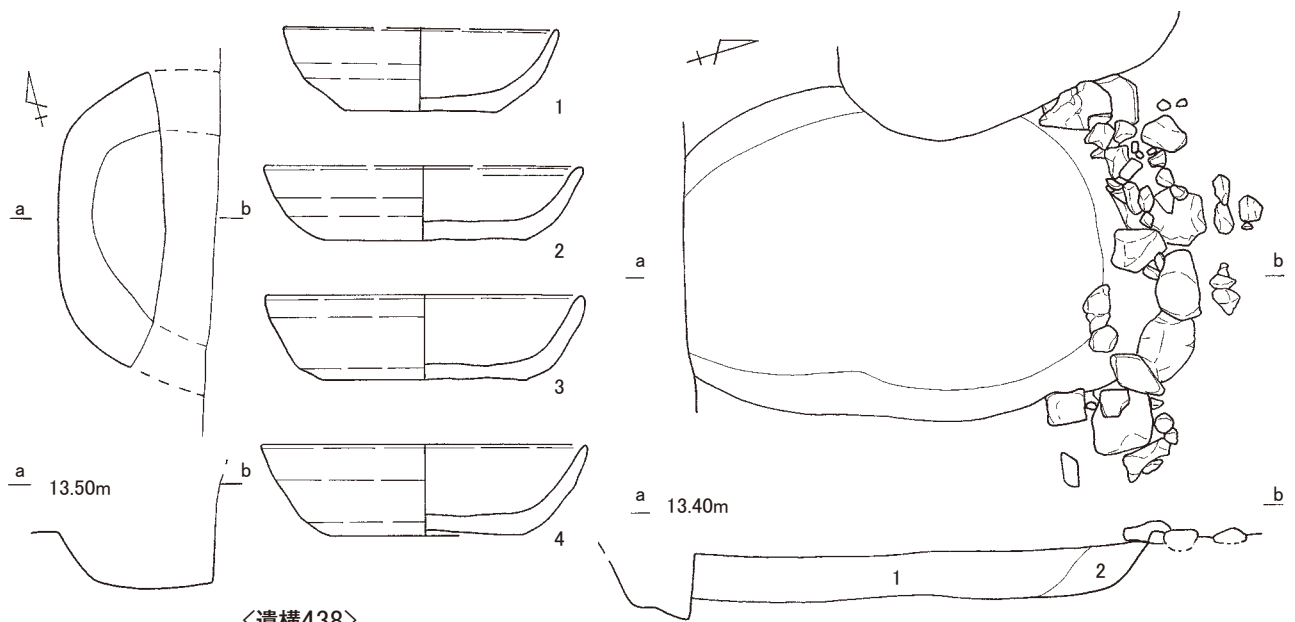
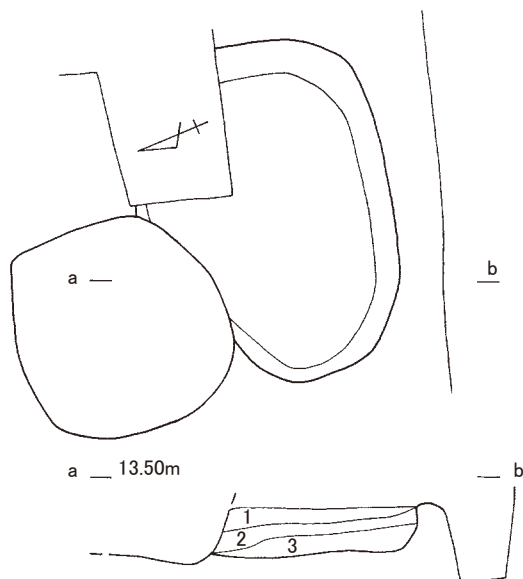


図31 第5面遺構437

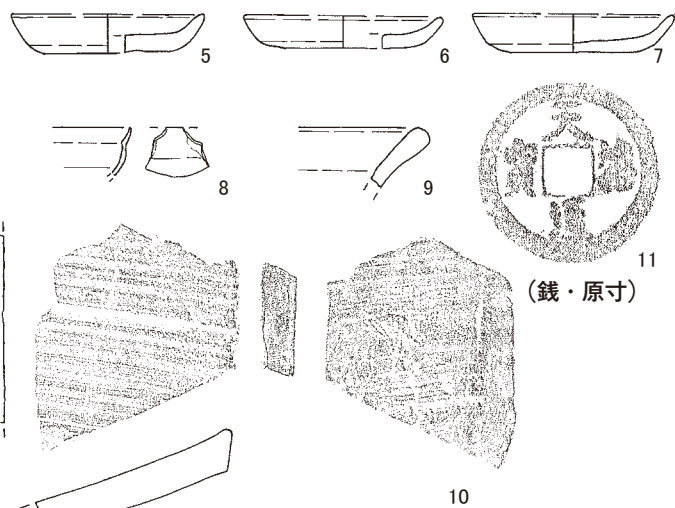


〈遺構438〉

- 1. 暗茶褐色弱粘質土
泥岩粒少量・泥岩・玉石・炭化物
- 2. 暗茶褐色弱粘質土
泥岩粒少量・炭化物多量

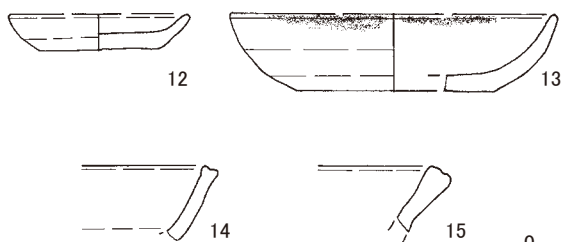


- 1. 茶褐色弱粘質土
泥岩粒多量・泥岩多量・炭化物少量
- 2. 暗灰色弱粘質土
泥岩粒・泥岩・炭化物少量
- 3. 暗灰色弱粘質土
泥岩粒多量・泥岩・炭化物少量



(錢・原寸)

〈遺構439〉



〈遺構440〉

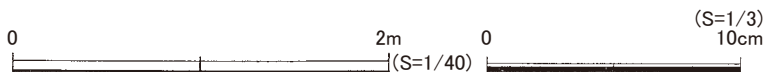


図32 第5面. 遺構438・遺構439・遺構440

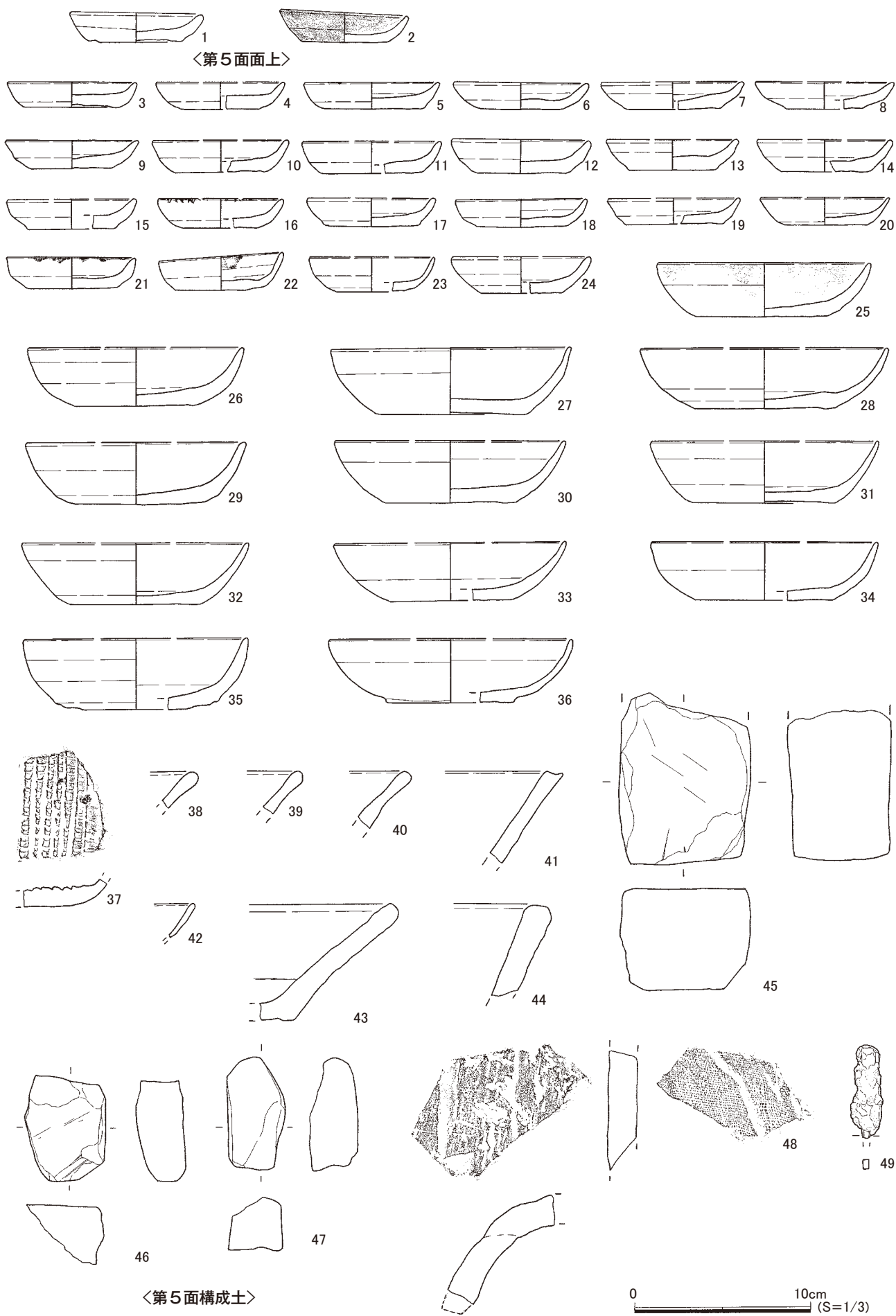


図33 第5面. 面上・構成土出土遺物

遺構437 (図31)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩多量・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。遺構覆土内に多量に泥岩を含み、地業の一環であったかもしれない。出土遺物-1～6はかわらけ。7は常滑片口鉢Ⅰ類。その他に青白磁梅瓶・瓦器質火鉢・鉄製品釘を破片で出土している。

遺構438 (図32)

調査区外に遺構が延び形状・規模は不明。土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩多量・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。地業の一環であったかもしれない。出土遺物-1～4はかわらけ。その他に常滑甕を破片で出土している。

遺構439 (図32)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・破碎泥岩・泥岩・玉石多量・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物-5～7はかわらけ。8は瀬戸・器種不明、入子か。19は常滑片口鉢Ⅰ類。10は女瓦。11は銭。その他に青磁鎬蓮弁文碗・白磁口元皿・瀬戸壺・常滑甕・瓦器碗・瓦器質火鉢・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構440 (図32)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒多量・破碎泥岩多量・泥岩多量・炭化物を含む暗灰色弱粘質土。地業の一環であったかもしれない。出土遺物-12・13はかわらけ。14は瀬戸卸皿。15は常滑片口鉢Ⅰ類。16は瓦器質火鉢。17・18は銭。その他に常滑甕が破片で出土している。

第5面面上出土遺物 (図33)

1・2はかわらけ。2は内外面に油煤痕。

第5面構成土出土遺物 (図33)

1～36はかわらけ。37は瀬戸卸皿。38～40は常滑片口鉢Ⅰ類。41は常滑片口鉢Ⅱ類。42は瓦器質黒縁皿。43・44は瓦器質火鉢。45～47は石製品砥石。48は男瓦。49は鉄製品釘。その他にてづくね・青磁折縁皿・青磁壺・青白磁梅瓶・常滑甕・山茶碗が破片で出土している。

6. 第6面の遺構と遺物 (図34～図39)

第6面は泥岩粒・泥岩を厚く含んだ地業層上で検出したが、粗く大型の泥岩が調査区北側隅に集中する。調査区中央辺りで地業約20cm南に向かって下がり北側は緩く壇状になる。南側には南北に並ぶ不整形の泥岩を確認した。また、地業の境目で溝状の遺構を発見しているが、下層の第6面でも同位置に溝を発見しており、東西に延びる溝であった可能性が高い。北側で発見した遺構の覆土には大きめの炭を含む炭化物が含まれる。発見した遺構は少ないが、遺構覆土の観察から少なくとも3時期に分かれる。発見した遺構はピット17穴・土坑9基・溝状土坑1基である。発見した遺物はかわらけ・手づくね・青磁・白磁・青白磁・常滑・渥美・瓦器・瓦・伊勢系土鍋・石製品・鉄製品・木製品が出土している。第6面確認レベルは海拔13.00m。

遺構442 (図36)

調査区外に遺構が延びてしまい、形状・規模は不明。個別に図面は図示していない。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・炭化物少量・褐色有機質土少量を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-1はかわらけ。その他に常滑片口鉢Ⅰ類・常滑甕が破片で出土している。

遺構443 (図35・図36)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物・灰色粘土・褐色有機質土を含む灰褐色弱粘質土。出土遺物-2・3はかわらけ。その他に常滑甕が破片で出土している。

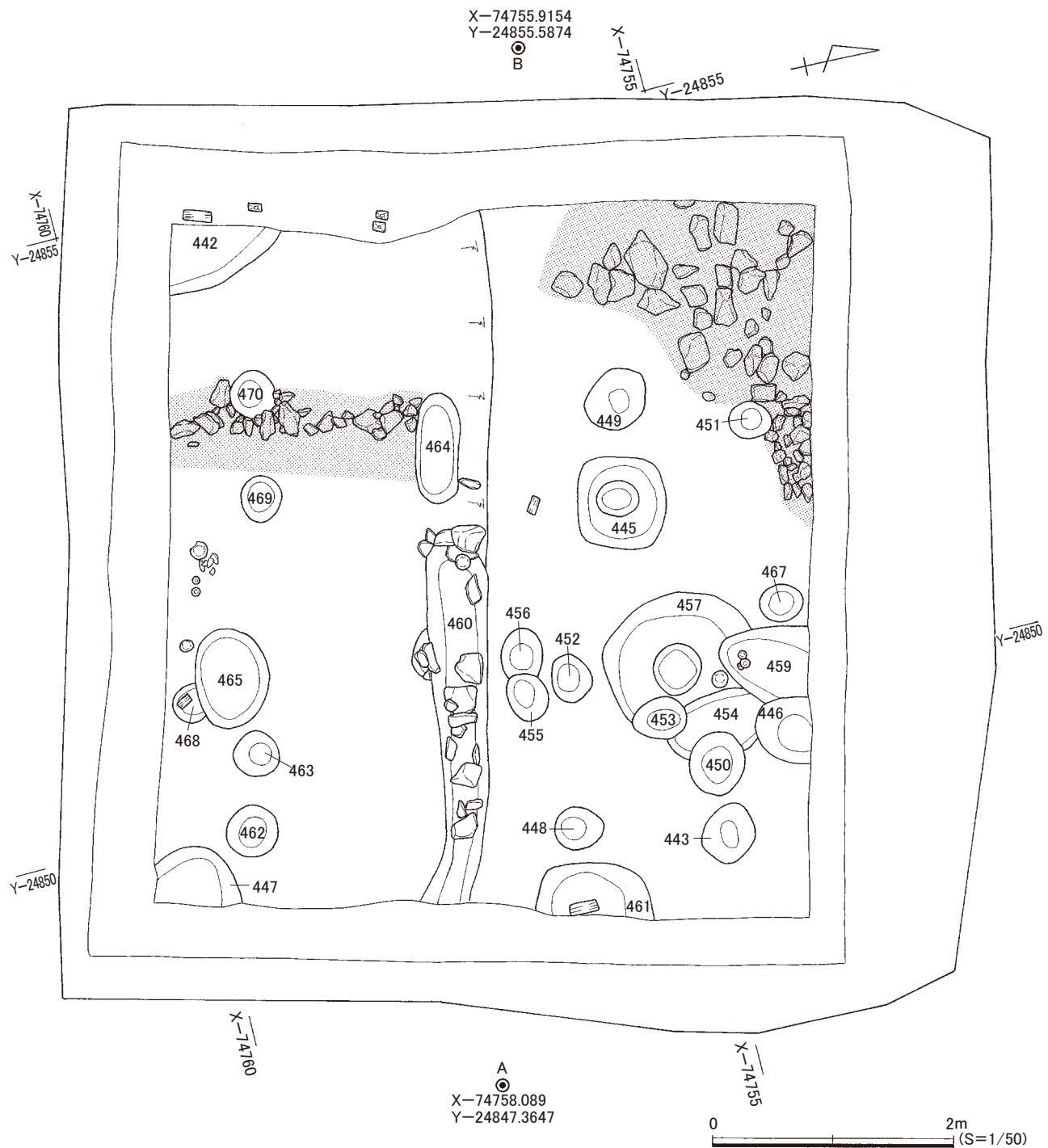


図34 第6面全測図

遺構445 (図35・図36)

方形を呈する土坑である。土坑中央に楕円形のピットを有する。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩微量・炭化物少量・灰色粘土・褐色有機質土を含む暗灰色弱粘質土。遺構中央ピットの遺構覆土内には炭化物・褐色有機質土が多量に含まれていた。柱穴か。出土遺物-4は常滑甕。その他にかわらけが破片で出土

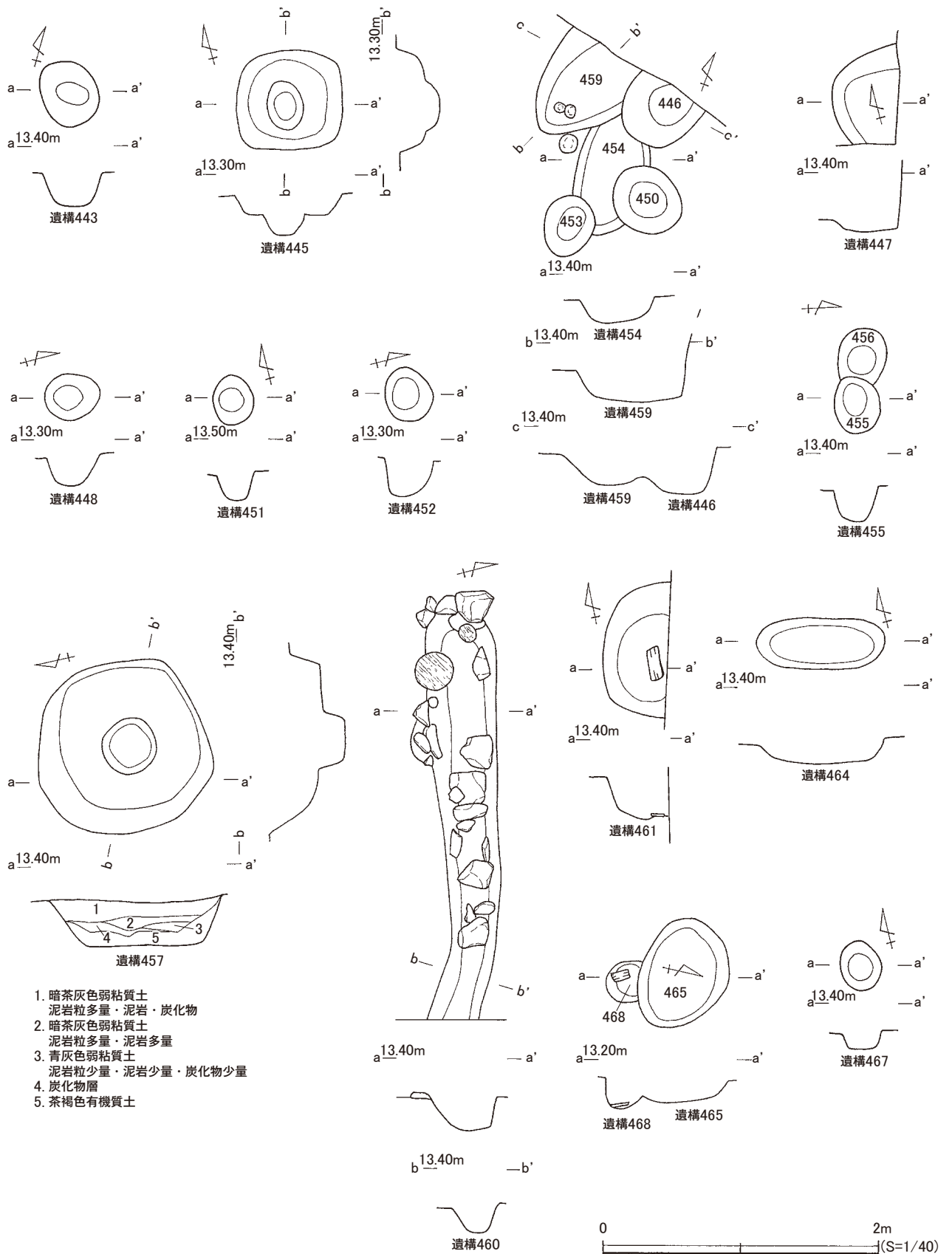


図35 第6面遺構

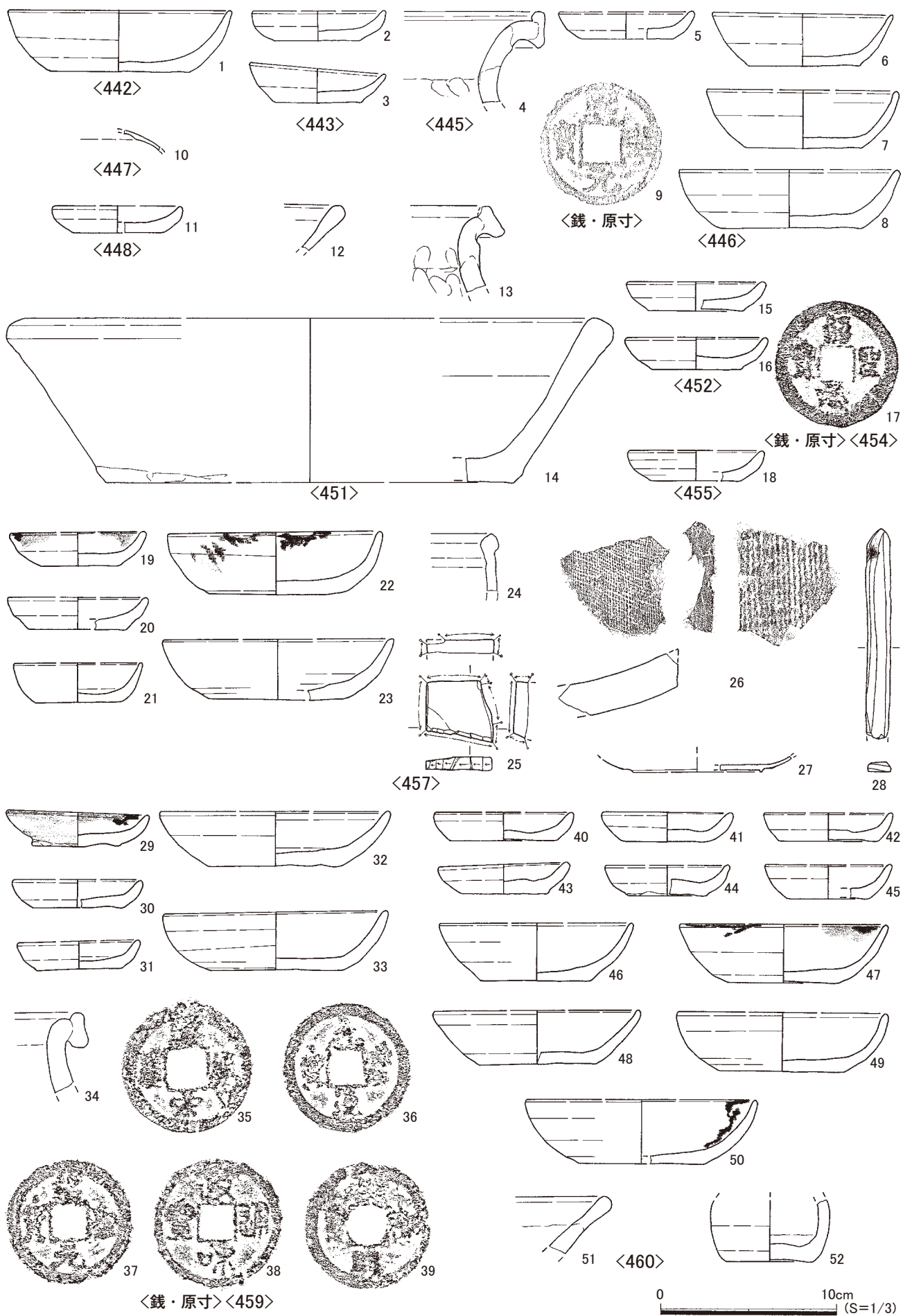


図36 第6面. 遺構出土遺物(1)

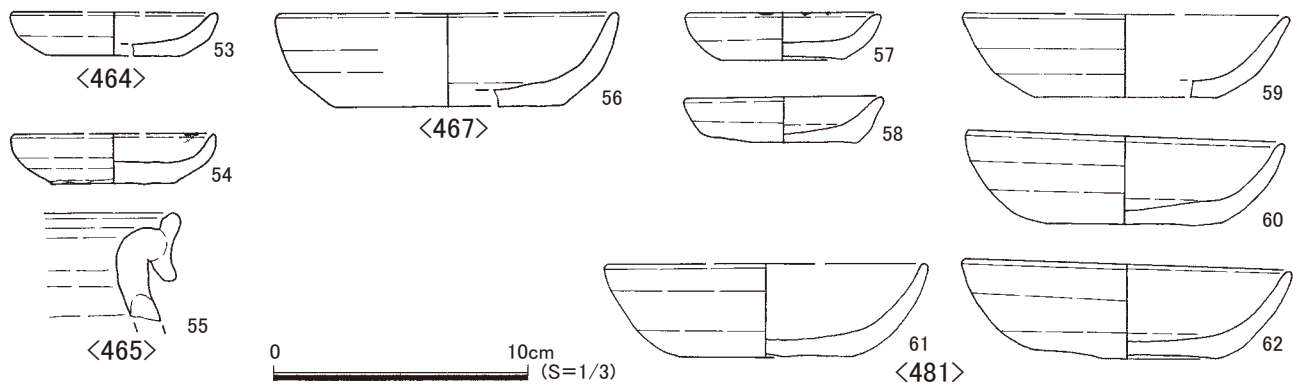


図37 第6面. 遺構出土遺物(2)

している。

遺構446(図35・図36)

調査区外に遺構が延び規模は不明。土坑である。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物多量・灰色粘土・褐色有機質土少量を含む灰色弱粘質土。出土遺物-5~8はかわらけ。9は銭。その他に青磁鎚蓮弁文碗・常滑片口鉢I類が破片で出土している。

遺構447(図35・図36)

調査区外に遺構が延び規模は不明。土坑である。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・炭化物多量・灰色粘土・褐色有機質土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-10は白磁器種不明。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構448(図35・図36)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩少量・炭化物多量・灰色粘土・褐色有機質土少量を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-11はかわらけ。

遺構450(図35)

円形を呈するピットである。遺構454を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物多量・灰色粘土・褐色有機質土を含む暗灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構451(図35・図36)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物少量・灰色粘土・褐色有機質土少量を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-12は常滑片口鉢I類。13は常滑甕。14は瓦器質火鉢。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構452(図35・図36)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・灰色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-15・16はかわらけ。その他に常滑甕が破片で出土している。

遺構453(図35)

楕円形を呈するピットである。遺構454を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物・灰色粘土を含む暗灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構454(図35・図36)

楕円形を呈する土坑である。遺構446・遺構450・遺構453・遺構459に切られる。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物少量・灰色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-17は銭。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構 455 (図 35・図 36)

楕円形を呈するピットである。遺構 456 を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物・灰色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物 - 18 はかわらけ。その他に常滑甕が破片で出土している。

遺構 456 (図 35)

楕円形を呈するピットである。遺構 455 に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩少量・炭化物少量・灰色粘土を含む暗灰色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構 457 (図 35・図 36)

円形を呈する土坑である。土坑中央に円形のピットがあく。遺構覆土は多量の泥岩粒とともに、遺構下層に炭化物・褐色有機質土が多量に堆積する暗茶褐色弱粘質土。中央ピットの遺構覆土は泥岩粒多量・炭化物・灰色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物 - 19 ~ 23 はかわらけ。24 は黄釉盤。25 は石製品砥石。26 は女瓦。27 は漆器皿。28 は木製品用途不明。その他にロクロ成形白かわらけ・青磁鎗蓮弁文碗・白磁口元皿・青白磁梅瓶・常滑甕・瓦器碗・滑石鍋が破片で出土している。

遺構 459 (図 35・図 36)

調査区外に遺構が延び規模は不明。土坑である。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物多量・灰色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物 - 29 ~ 33 はかわらけ。34 は常滑甕。35 ~ 39 は銭。その他に青磁鎗蓮弁文碗・青白磁梅瓶・鉄滓が破片で出土している。

遺構 460 (図 35・図 36)

溝状の土坑である。遺構プラン確認時には、調査区中央東西に遺構が延びていることを確認していたが、遺構西側は遺存状態が悪く、確認できた範囲を図示している。下層の第 7 面で東西に延びる溝 (遺構 480) を同位置で発見している。遺構覆土は泥岩粒多量・泥岩多量・炭化物多量を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物 - 40 ~ 50 はかわらけ。51 は常滑片口鉢 I 類。52 は土製品壺。その他に常滑甕・鉄製品釘・骨製品筭が破片で出土している。

遺構 461 (図 35)

調査区外に遺構が延び規模は不明。土坑である。土坑底面に礎板が遺存していたが、遺構 461 に伴うものは不明。遺構覆土は泥岩粒多量・泥岩少量・炭化物多量を含む暗灰色弱粘質土。炭化物は土坑底面に厚く堆積していた。遺物はかわらけ・常滑甕・瓦器器種不明が破片で出土している。

遺構 464 (図 35・図 37)

楕円形を呈する土坑である。遺構 460 と繋がり区画の溝であったのかもしれないと考えている。遺構覆土は泥岩粒・泥岩少量・炭化物多量・褐色有機質土を含む暗茶灰色弱粘質土。出土遺物 - 53 はかわらけ。その他に青白磁梅瓶・常滑甕・滑石鍋が破片で出土している。

遺構 465 (図 35・図 37)

楕円形を呈する土坑である。遺構 468 を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物少量・灰色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物 - 54 はかわらけ。55 は常滑甕。

遺構 467 (図 35・図 37)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・炭化物少量を含む灰色弱粘質土。出土遺物 - 56 はかわらけ。

遺構 468 (図 35・図 37)

円形を呈するピットである。遺構 465 に切られる。覆土上層に礎板が遺存していた。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物を含む灰色弱粘質土。57 ~ 62 はかわらけ。

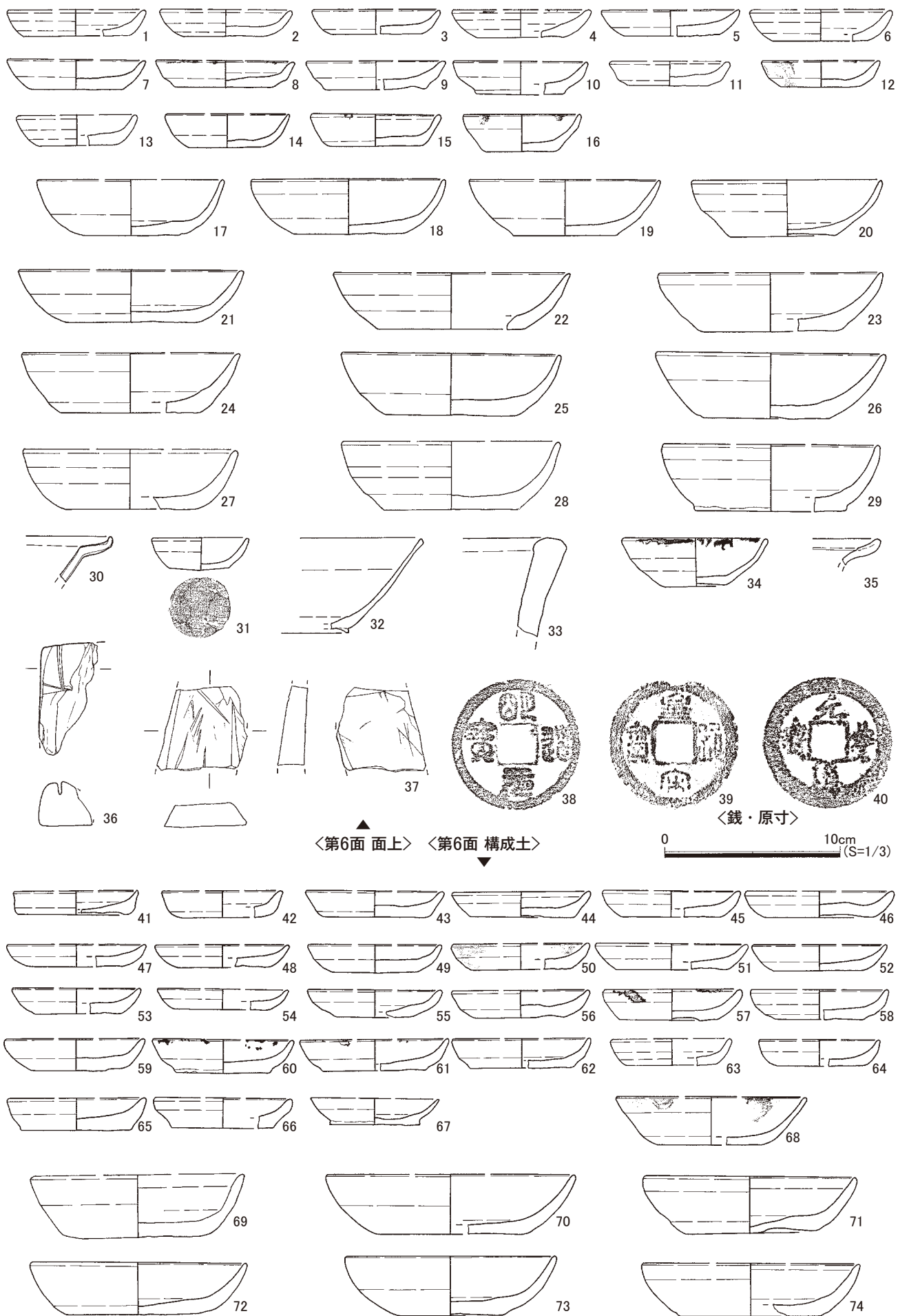
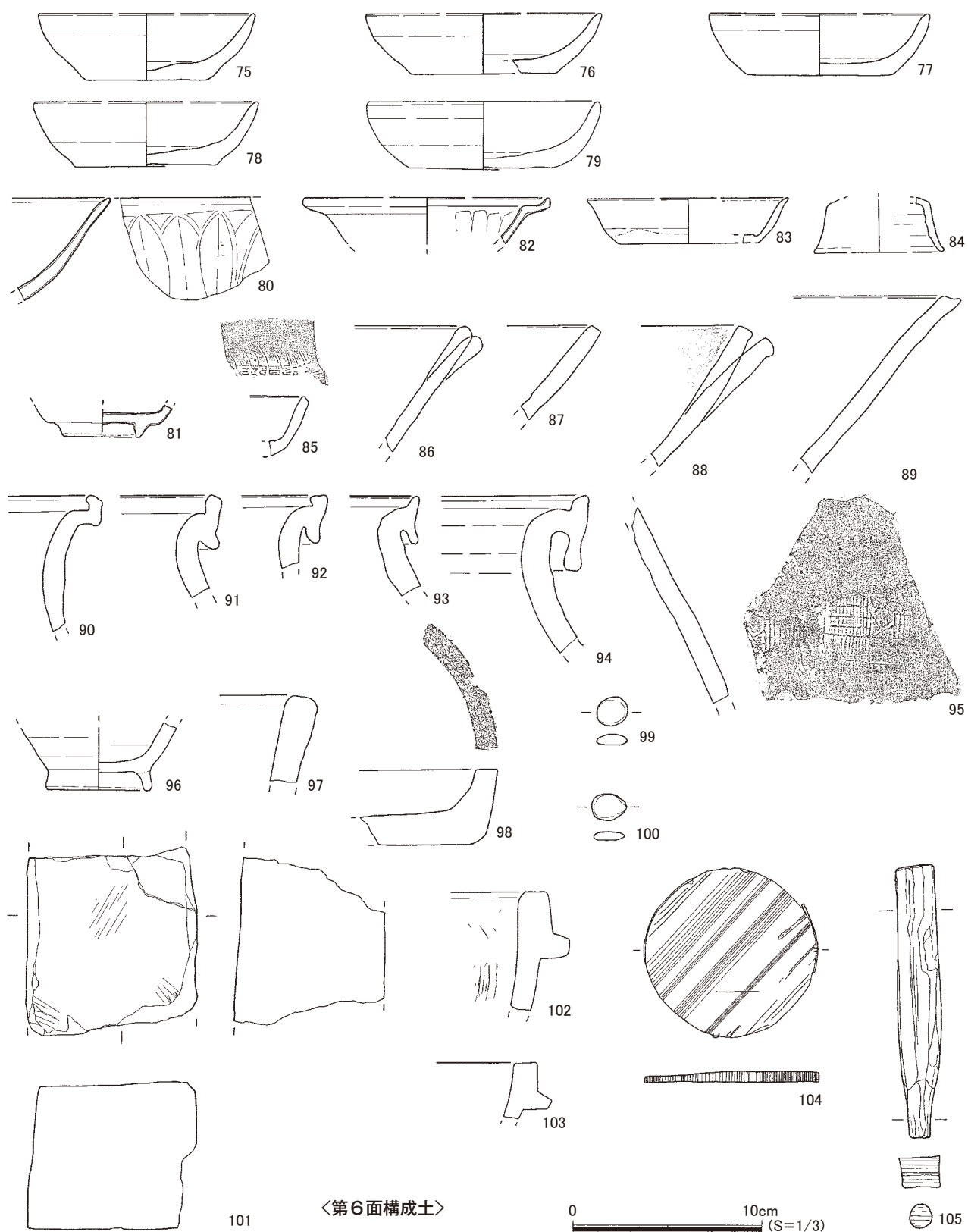


图38 第6面. 面上・構成土出土遺物(1)



〈第6面構成土〉

0 10cm (S=1/3)

105

図39 第6面. 面上・構成土出土遺物(2)

第6面面上出土遺物(図38)

1～29はかわらけ。30は青磁折縁鉢。31は瀬戸入子。32は山茶碗。33は瓦器質火鉢。34は吉備系椀。35は南伊勢系鍋。36は滑石鍋転用途中。37は石製品砥石。38～40は銭。その他に青白磁壺・常滑片

7. 第7面の遺構と遺物 (図40～図50)

第7面は泥岩粒・破碎泥岩を含んだ黄褐色弱粘質土による地業層で検出した。上層の遺構によって削平を受け、しっかりと遺存する地業は調査区北側に一部が残るのみであったが、調査区壁堆積土層からも第7面の地業を確認している。調査区中央には板材を用いた側壁を持つ東西に延びる溝を検出した。溝壁は2時期に亘っており、短期間に造り替えが行われた様子である。溝を挟んで調査区北側では、礎板が遺存する掘立柱建物址を検出したが、東西、南北ともに調査区外に遺構が延びており、建物の規模はわからない。また、建物址柱穴(遺構526)下層で常滑の甕を据えた土坑を検出した。溝南側でも、礎板の遺存するピット、囲炉裏などを検出しているが、建物址を推定することは出来なかった。第7面の遺構は覆土の観察から4時期に分かれる。発見した遺構は建物1軒・ピット47穴・土坑7基・溝2条・囲炉裏1基である発見した遺物はかわらけ・手づくね・青磁・白磁・青白磁・常滑・渥美・瓦器・瓦・滑石鍋・伊勢系土鍋・石製品・鉄製品・木製品が出土している。第7面確認レベルは海拔12.70m。

遺構471 (図41・図46)

土坑である。調査区外に遺構が延び形状・規模は不明。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物-1・2はかわらけ。3・4は木製品用途不明。

遺構473 (図41・図46)

不正円形を呈するピットである。遺構508を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物微量・暗灰色粘土を含む青灰色粘質土。出土遺物-5・6はかわらけ。7は滑石製鍋転用品、硯か。

遺構474 (図41)

遺構475に切られる。遺構底部に礎板を有するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・常滑片口鉢Ⅱ類・常滑甕・滑石鍋・木製品・果核・獣骨・貝が破片で出土している。

遺構475 (図41・図46)

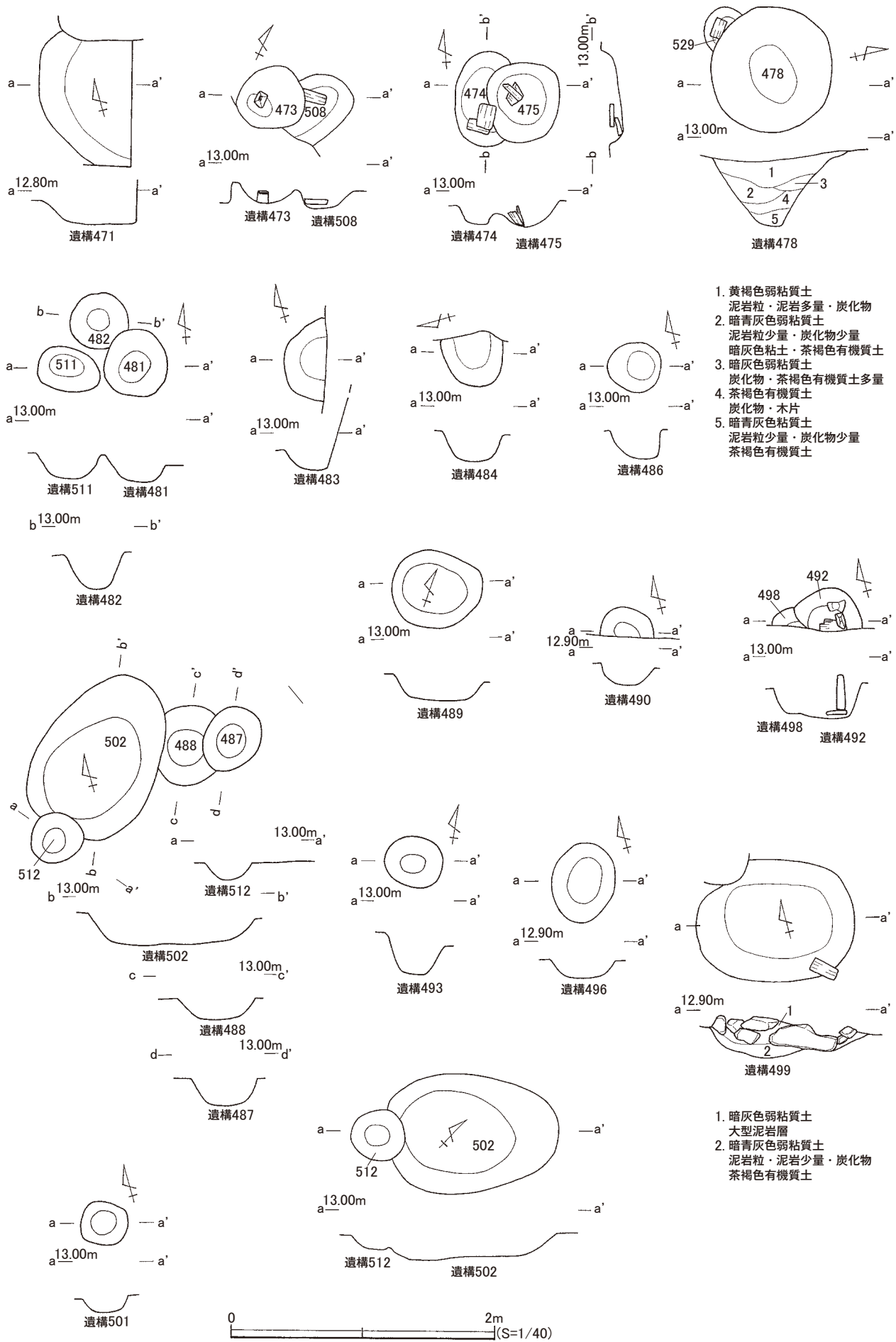
遺構474を切る。遺構底部に礎板を有するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・暗灰色粘土・黒色有機質土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物-8は渥美甕。9は骨製品。その他にかわらけ・ロクロ成形白かわらけ・青白磁梅瓶が破片で出土している。

遺構478 (図41・図46)

円形を呈する土坑である。遺構529を切る。遺構覆土は下層に褐色有機質土が堆積していた(セクション図参照)。出土遺物-10～20はかわらけ。21は青磁鎚蓮弁文碗。22は白磁口兀皿。23は緑釉盤。24～28は箸状木製品。その他に手づくね・青白磁梅瓶・常滑甕・女瓦・木製品が破片で出土し、木製品は図示した箸状木製以外に篋状・棒状木製品・部材などがあり、特に箸状木製品が数多く出土している。

遺構480 (図43・図46・図47)

調査区内を東西に走る溝である。流下方向は不明、底面はほぼ平坦なレベルを保つ。溝北側の側面には側板が遺存していた。側板は溝側面に横板を置き、内側から細かく立てた縦板と杭によって横板を止めている。遺構覆土は底面に褐色有機質土を多く含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-29は手づくねかわらけ。30～38はかわらけ。39は青磁無文碗。40は青磁端反碗。41は瓦器碗。42は女瓦。43は滑石製鍋、転用品。44は漆器皿。45は漆器椀。46～49は木製品。溝の掘り方から出土した遺物-50・51はかわらけ。52は常滑甕。53は木製品連歯下駄。その他にてづくね成形の白かわらけ・内折れかわらけ・青磁鎚蓮弁文碗・青磁折縁深皿・白磁口兀皿・常滑片口鉢Ⅰ類・箸状木製品・獣骨・貝が破片で出土している。



1. 黄褐色弱粘質土
泥岩粒·泥岩多量·炭化物
2. 暗青灰色弱粘質土
泥岩粒少量·炭化物少量
3. 暗灰色弱粘質土
炭化物·茶褐色有機質土多量
4. 茶褐色有機質土
炭化物·木片
5. 暗青灰色粘質土
泥岩粒少量·炭化物少量
茶褐色有機質土

1. 暗灰色弱粘質土
大型泥岩層
2. 暗青灰色弱粘質土
泥岩粒·泥岩少量·炭化物
茶褐色有機質土

圖 41 第 7 面遺構 (1)

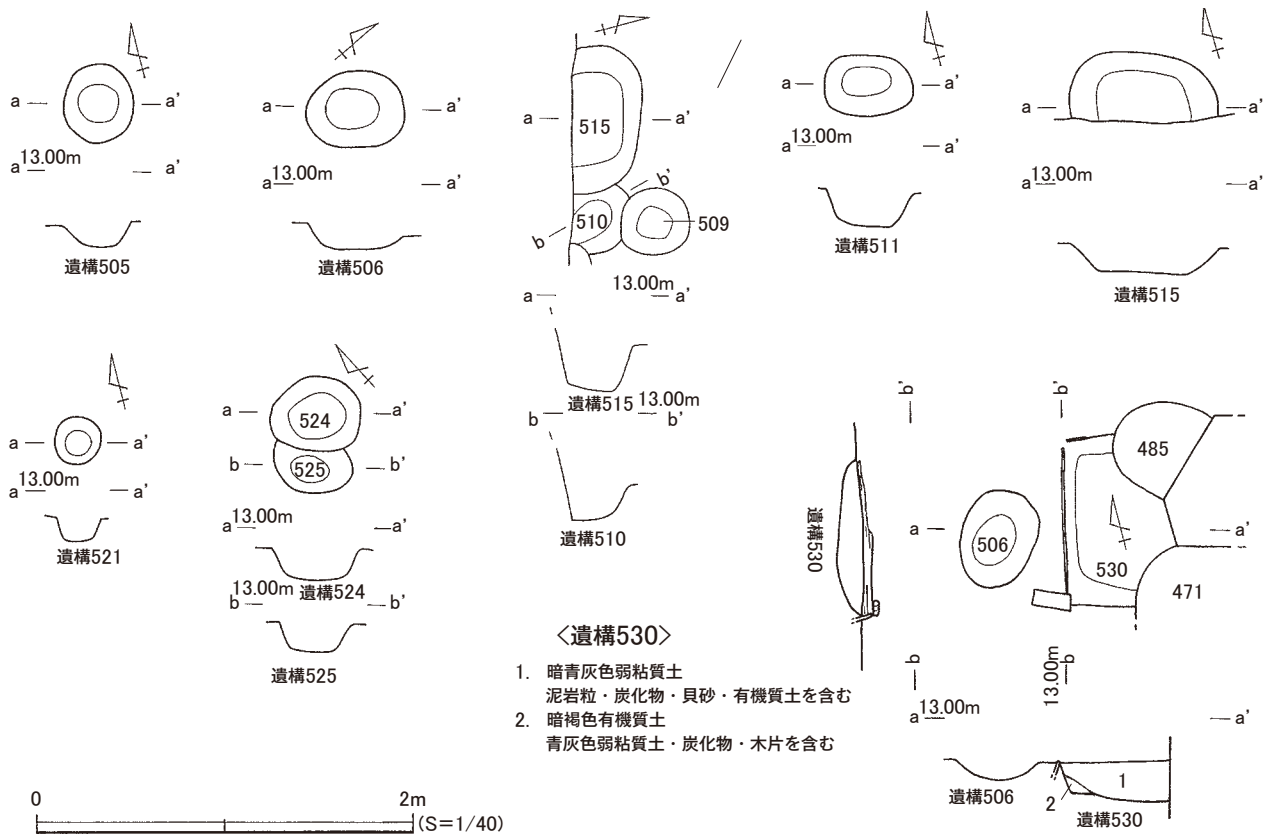


図42 第7面遺構(2)

遺構481(図41)

円形を呈するピットである。遺構482を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・瀬戸折縁深皿・箸状木製品・折敷・板草履が破片で出土している。

遺構482(図41・図47)

円形を呈するピットである。遺構481に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・暗灰色粘土・褐色有機質土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物-54は緑釉盤。55は木製品糸巻き部品。その他にかわらけ・青磁鎗蓮弁文碗・常滑甕・箸状木製品が破片で出土している。

遺構483(図41・図47)

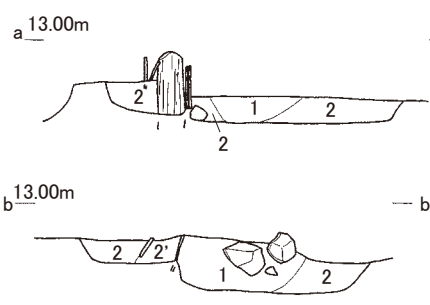
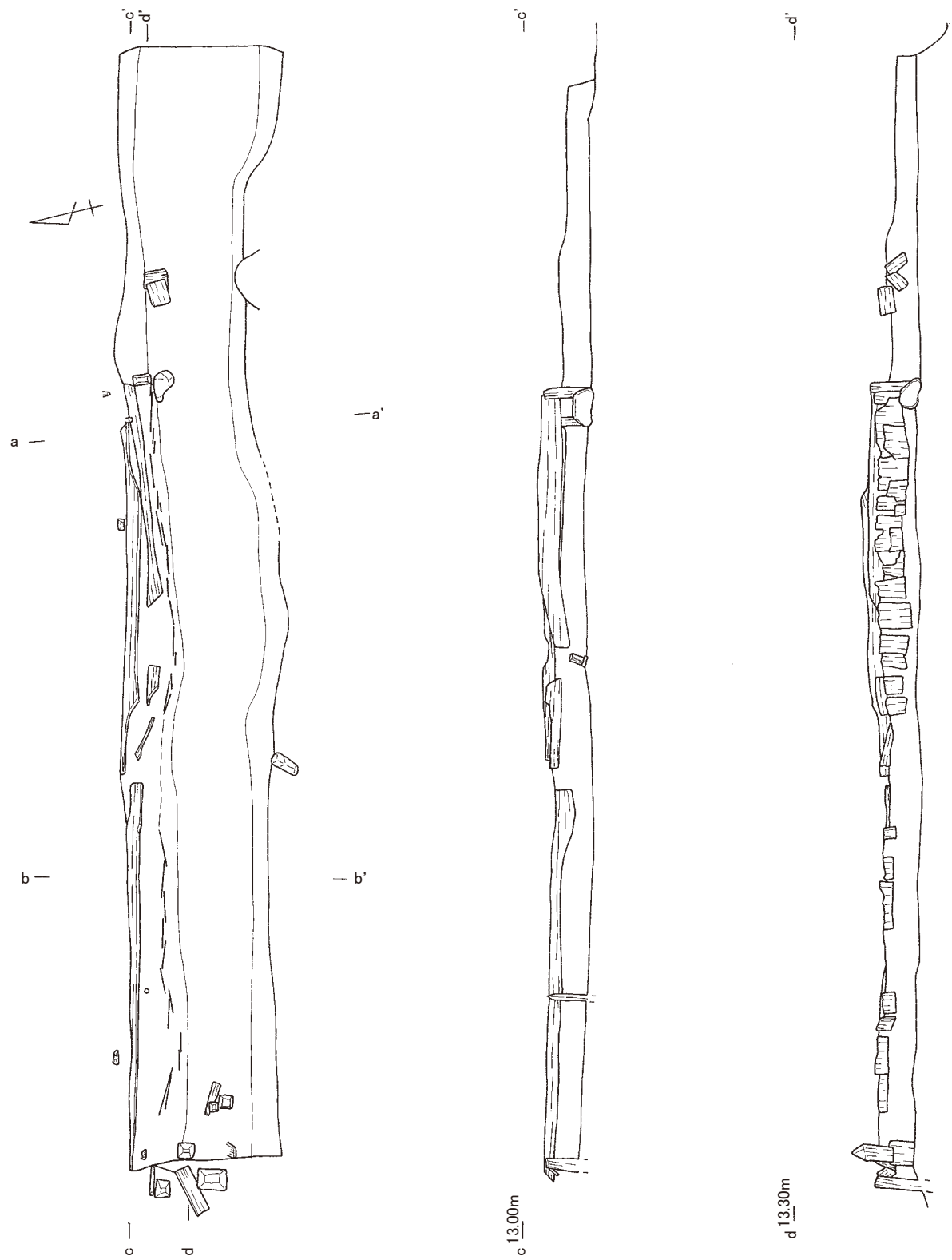
調査区外に遺構が延びてしまい規模、形状は不明。ピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物少量・褐色有機質土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物-56はかわらけ。その他に白磁壺・青白磁梅瓶・箸状木製品が破片で出土している。

遺構484(図41・図47)

調査区外に遺構が延びてしまい規模、形状は不明。ピットである。遺構覆土は泥岩粒・炭化物微量・暗青灰色粘土・褐色有機質土を多量に含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物-57は内折れかわらけ。58は常滑片口鉢I類。その他にかわらけ・青磁鎗蓮弁文碗・常滑甕が破片で出土している。

遺構486(図41・図47)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色有機質土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物-59はかわらけ。60は青白磁合子蓋。その他に常滑甕・滑石製鍋・棒状木製品が破片で出土している。



1. 暗青灰色弱粘質土 泥岩粒、泥岩多量、炭化物、暗灰色粘土・褐色有機質土少量
 2. 暗青灰色弱粘質土 泥岩粒少量、泥岩、炭化物・暗灰色粘土・褐色有機質土少量

1. 暗青灰色弱粘質土 泥岩粒、泥岩多量、炭化物、暗灰色粘土・褐色有機質土少量
 2. 暗青灰色弱粘質土 泥岩粒少量、泥岩、炭化物・暗灰色粘土・褐色有機質土少量
 2'. 暗青灰色弱粘質土 泥岩粒少量、泥岩、炭化物・暗灰色粘土少量、褐色有機質土



図43 第7面. 遺構480

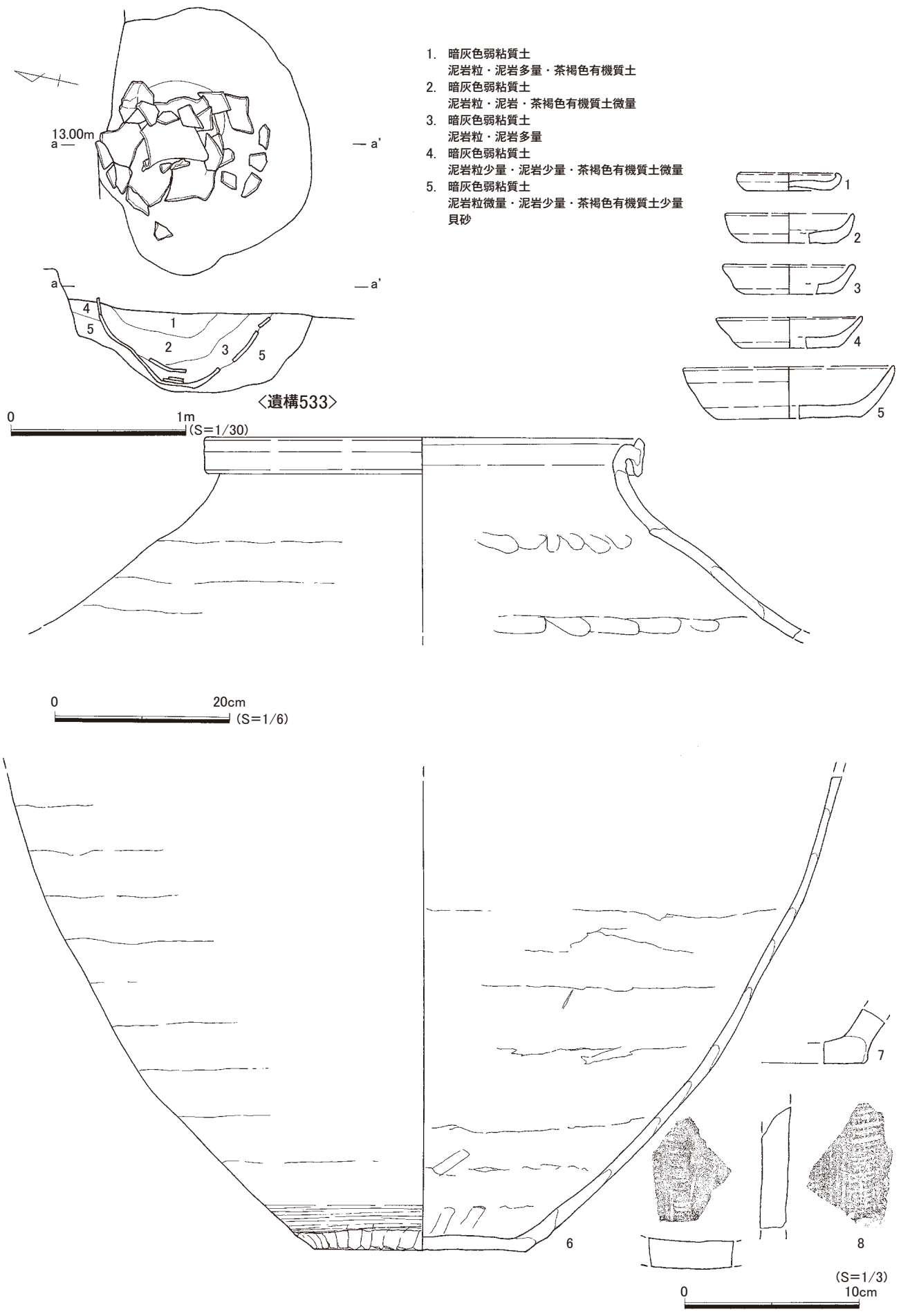


図44 第7面. 遺構533

遺構487 (図41)

円形を呈するピットである。遺構488を切る。遺物はかわらけ・常滑片口鉢Ⅰ類が破片で出土している。

遺構488 (図41・図47)

遺構487・遺構502に切られる、ピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物少量・褐色有機質土少量を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物－61～64はかわらけ。65は鉄製品釘。その他に白磁壺・常滑甕が破片で出土している。

遺構489 (図41・図47)

円形を呈する浅いピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色有機質土を含む暗青褐色弱粘質土。出土遺物－66・67はかわらけ。68は男瓦。69は漆器皿。その他に箸状木製品・木製品部材が破片で出土している。

遺構490 (図41・図47)

調査区外に遺構が延びてしまい規模、形状は不明。ピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩多量・炭化物少量・褐色有機質土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物－70はかわらけ。

遺構492 (図41・図47)

調査区外に遺構が延びてしまい規模、形状は不明。ピットである。ピット底面には礎板が遺存し柱が立つ。柱周囲は泥岩による根固めが行われていたことを、土層堆積状況から確認している。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色有機質土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物－71・72はかわらけ。73は青磁鎚蓮弁文碗。その他に常滑甕・箸状木製品・木製品部材が破片で出土している。

遺構493 (図41・図48)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・暗褐色粘土・褐色有機質土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物－74はかわらけ。75は鉄製品釘。その他に常滑片口鉢Ⅰ類・常滑壺・箸状木製品・棒状木製品が破片で出土している。

遺構496 (図41・図48)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物微量・褐色有機質土少量を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物－76は箸状木製品。その他にかわらけ・常滑甕・板草履が破片で出土している。

遺構497 (図45・図48)

後ページ、柱穴列で記載

遺構498 (図41)

調査区外に遺構が延び、遺構492に切られ形状・規模は不明。ピットである。遺構覆土は泥岩粒多量・泥岩・炭化物微量・褐色有機質土を含む暗青灰色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構499 (図41・図48)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は上層に大型の不整形な泥岩が堆積し、下層に泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色有機質土を含む暗青灰色弱粘質土が堆積していた。出土遺物－79はかわらけ。80は漆器皿。81は木製品円板。82～84は箸状木製品。その他に常滑甕・果核・獣骨・貝が破片で出土している。

遺構501 (図41・図48)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物少量・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物－85はかわらけ。86は常滑甕、転用品。その他に箸状木製品・木製品部材が破片で出土している。

遺構502 (図41・図48)

楕円形を呈する土坑である。遺構512に切られる。遺構覆土は泥岩少量・泥岩粒少量・炭化物微量・暗灰色粘土・褐色有機質土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物-87は漆器雲形。88は木製品。

遺構505 (図42・図48)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・炭化物微量・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物-89は常滑甕。その他にかわらけ・手づくね・箸状木製品・土師器甕が破片で出土している。

遺構506 (図42・図48)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・炭化物微量・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物-90・91はかわらけ。その他に手づくね・白磁口元皿・常滑甕・瓦器質火鉢・箸状木製品・棒状木製品が破片で出土している。

遺構508 (図41)

楕円形を呈するピットである。遺構473に切られる。遺構底面に礎板が遺存する。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物少量・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・箸状木製品が破片で出土している。

遺構509 (図42)

円形を呈するピットである。遺構510を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・炭化物多量・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物はない。

遺構510 (図42・図48)

楕円形を呈するピットである。遺構509・遺構515に切られる。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物微量・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物-92はかわらけ。93は箸状木製品。

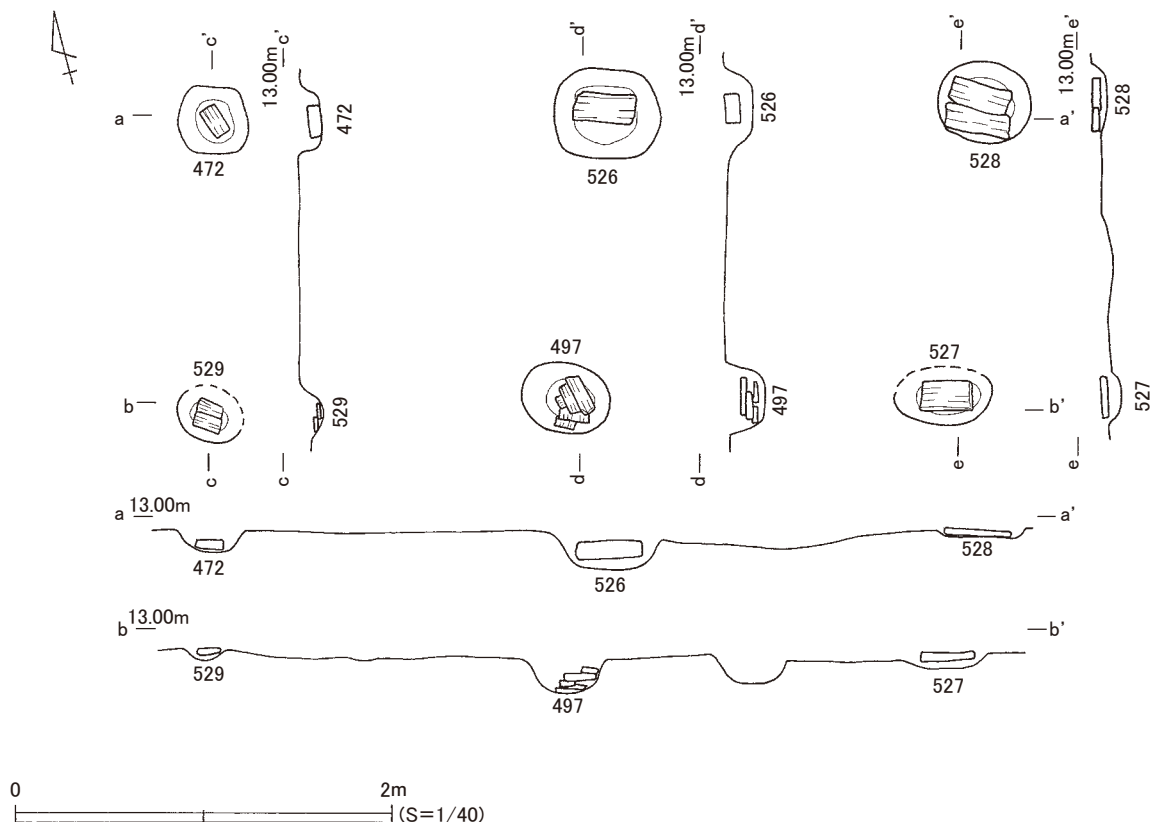


図45 第7面柱穴列

遺構511 (図42・図48)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物少量・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物－94・95はかわらけ。96は常滑壺。その他に常滑甕・箸状木製品が破片で出土している。

遺構512 (図41)

円形を呈するピットである。遺構502を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物少量・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構513 (図48)

個別に図示していない。円形を呈するピットである。遺構514に切られる。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物多量・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物－97・98はかわらけ。99・100は箸状木製品。その他に渥美甕・常滑甕が破片で出土している。

遺構514 (図48)

個別に図示していない。円形を呈するピットである。遺構513を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物少量・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物－101はかわらけ。

遺構515 (図42・図48)

調査区外に遺構が延び規模は不明、土坑である。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物少量・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物－102はかわらけ。103は緑釉盤。その他に常滑甕・箸状木製品・棒状木製品が破片で出土している。

遺構521 (図42・図48)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒少量を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－104は滑石加工途中、スタンプか。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構524 (図42・図48)

円形を呈するピットである。遺構525を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物少量・暗灰色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－105はかわらけ。その他に青白磁梅瓶が破片で出土している。

遺構525 (図42・図48)

円形を呈するピットである。遺構524に切られる。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物少量・暗灰色粘土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－106は瀬戸四耳壺。その他にかわらけ・滑石鍋が破片で出土している。

遺構530 (図42・図48)

試掘坑によって遺構が切られる。方形を呈し遺構底面は平坦、遺構の北側・西側には側板が遺存する。側板は細い杭によって内側から固定されていた。側板の上部には焼痕が残り、覆土内に炭化物、灰などが遺存していた。囲炉裏であったと考えている。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色有機質土・貝砂・灰を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物－107～109はかわらけ。110・111は板草履。その他に青磁蓮弁文碗・白磁口元皿・常滑甕・箸状木製品が破片で出土している。

遺構533 (図44)

遺構が調査区外に延び規模は不明、土坑である。遺構内には常滑・甕がほぼ完形の状態で据えられ、甕底部には礎板状の板材が下支えとして置かれていた。建物址の柱穴・遺構526に切られる形で確認したが、建物址に伴う据え甕ではない。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色有機質土・貝砂を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－1～5はかわらけ。6・7は常滑甕。8は女瓦。その他に内折れかわらけ・青磁鎬蓮弁文碗・青白磁合子蓋・青白磁梅瓶・褐釉壺・瓦器質火鉢・箸状木製品・棒状木製品・貝が破片で出土している。

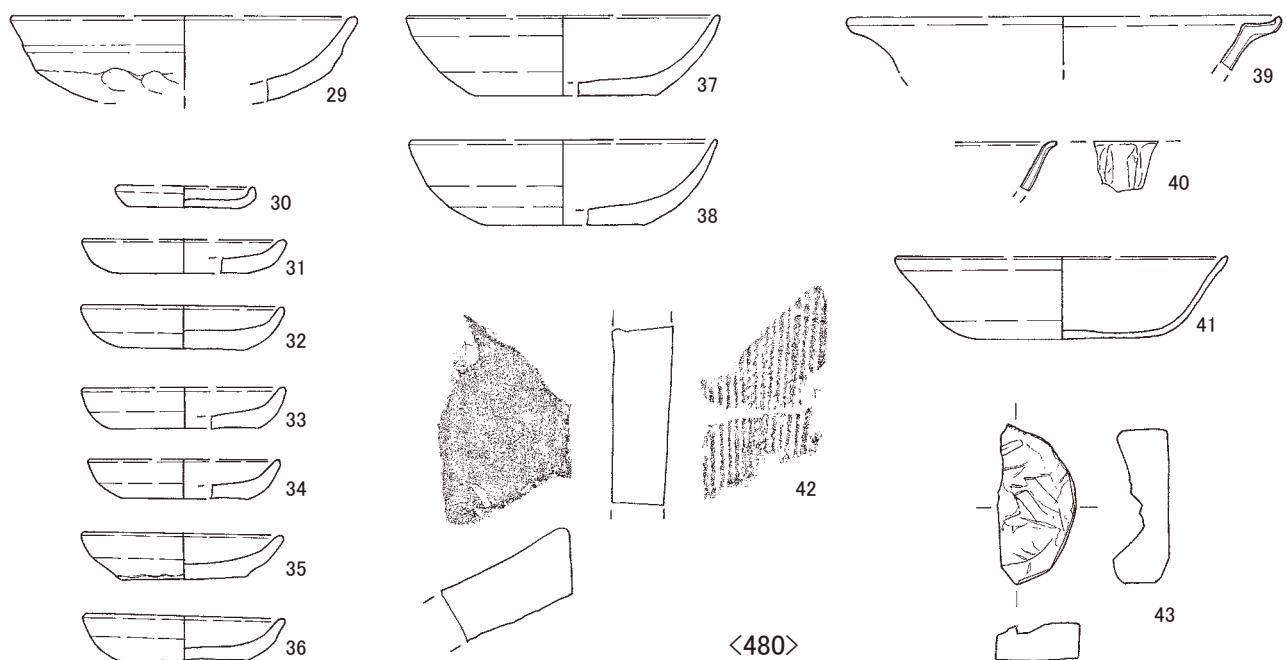
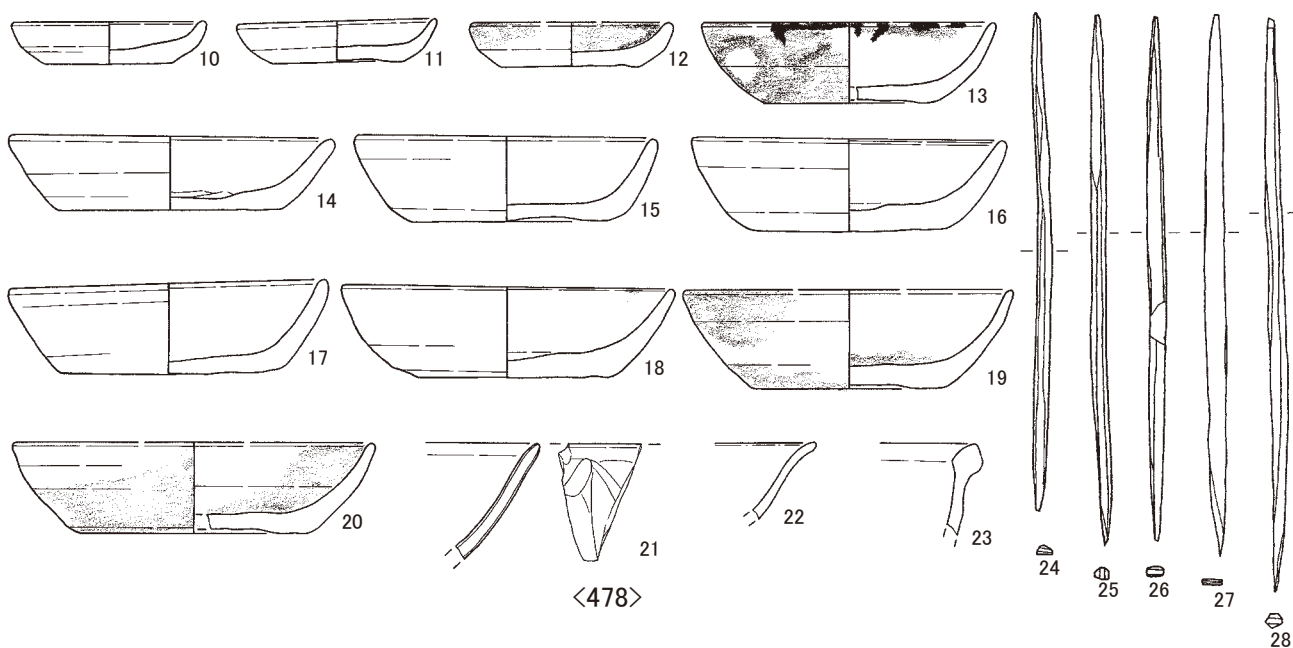
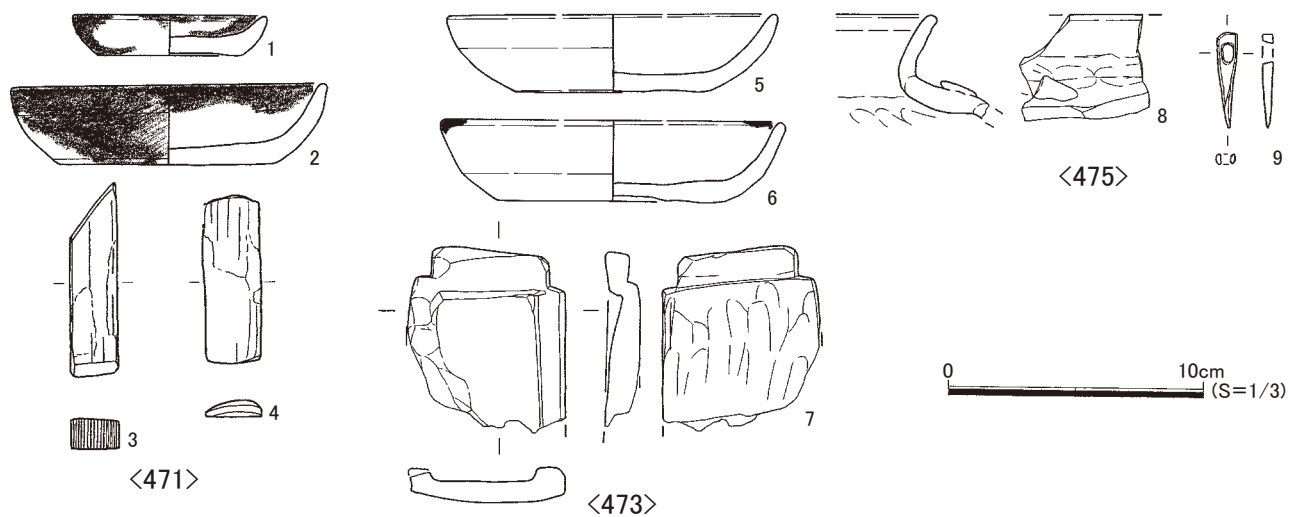


图46 第7面. 遺構出土遺物(1)

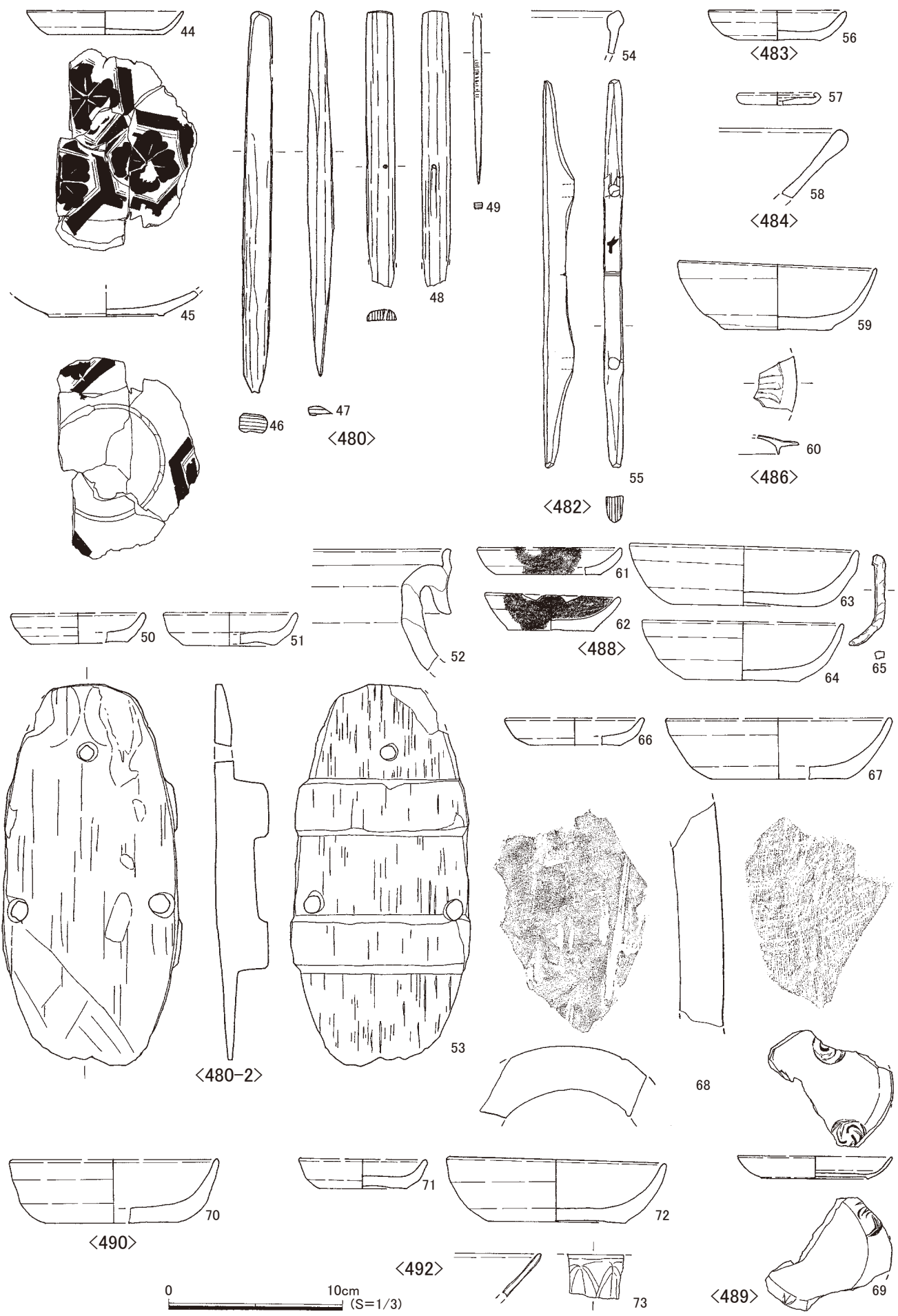


图47 第7面. 遺構出土遺物(2)

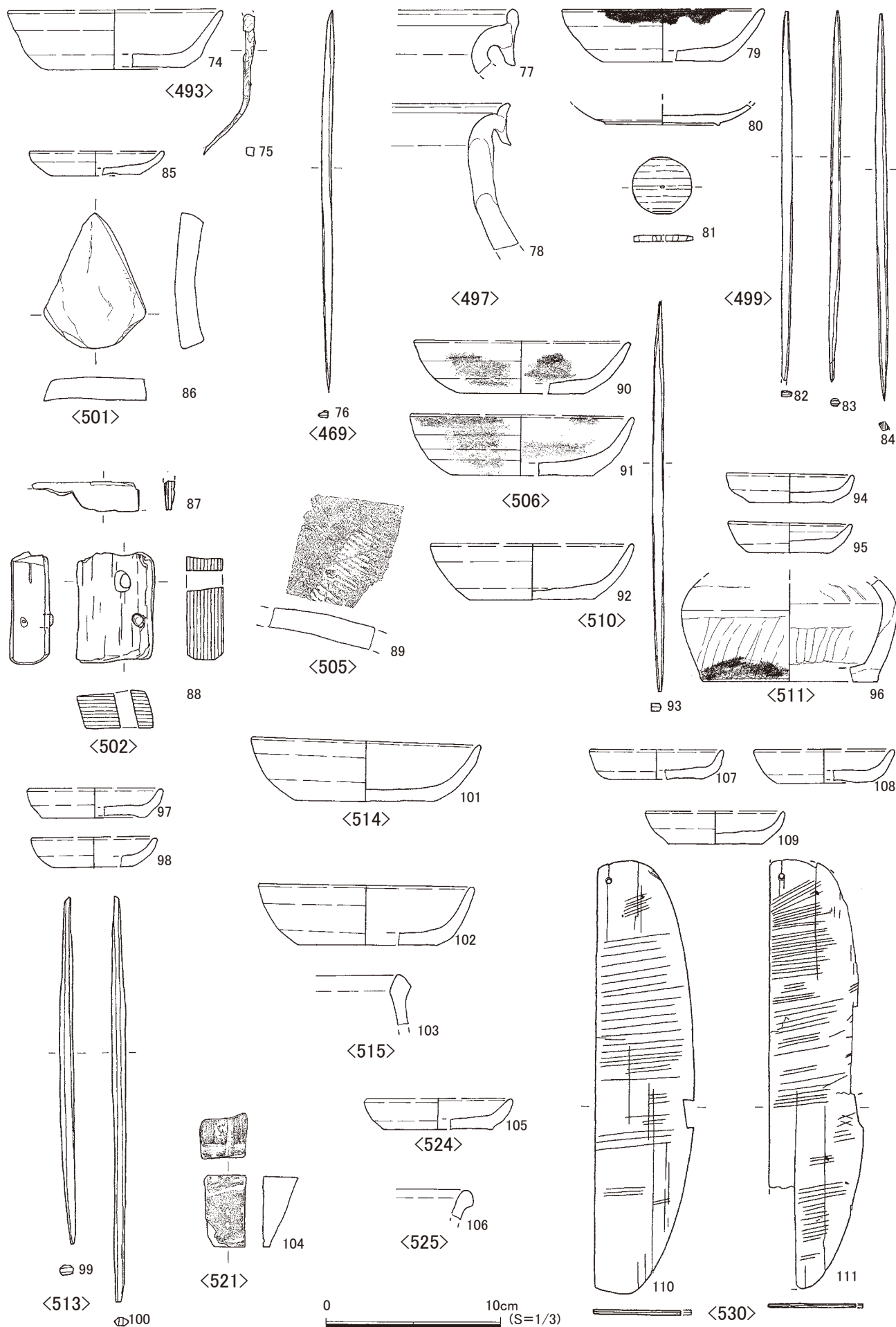
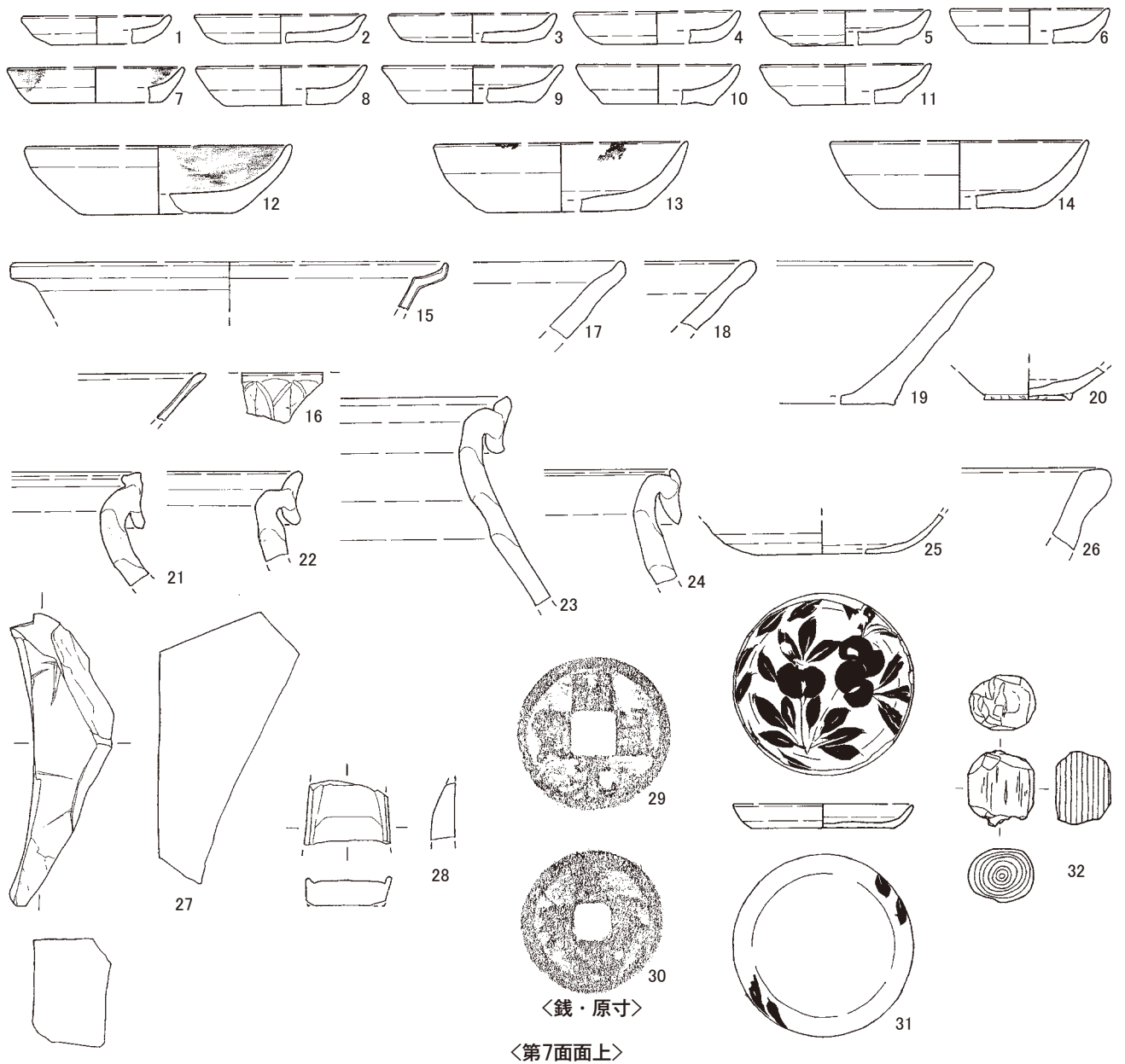
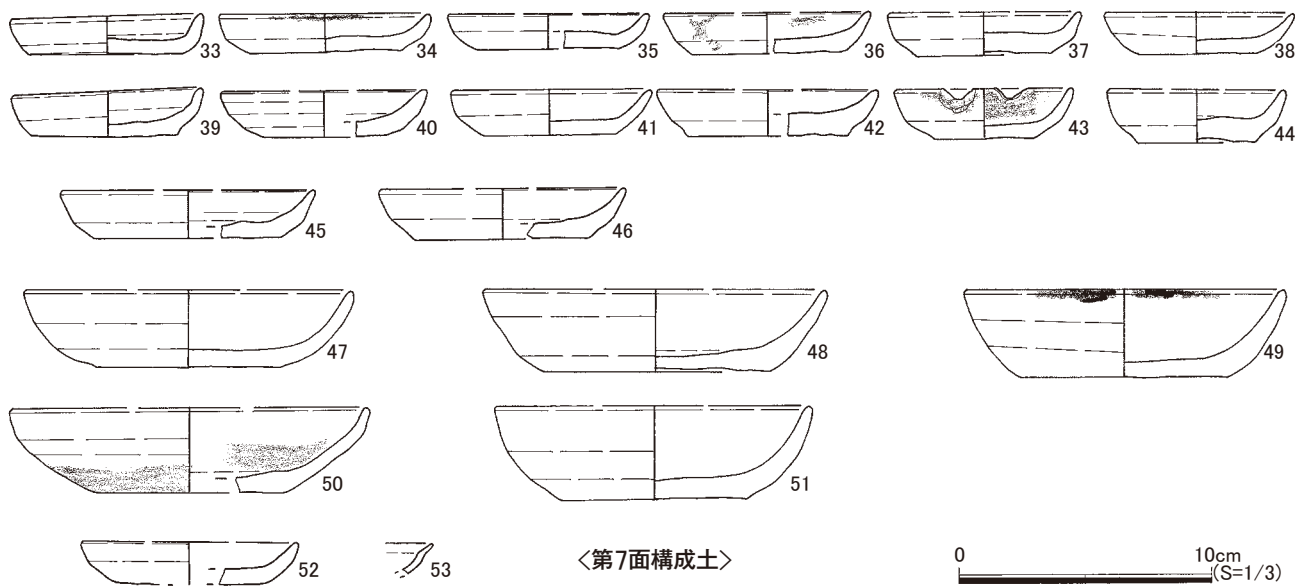


图48 第7面. 遺構出土遺物(3)



〈第7层面上〉



〈第7面構成土〉

图49 第7面. 面上・構成土出土遺物(1)

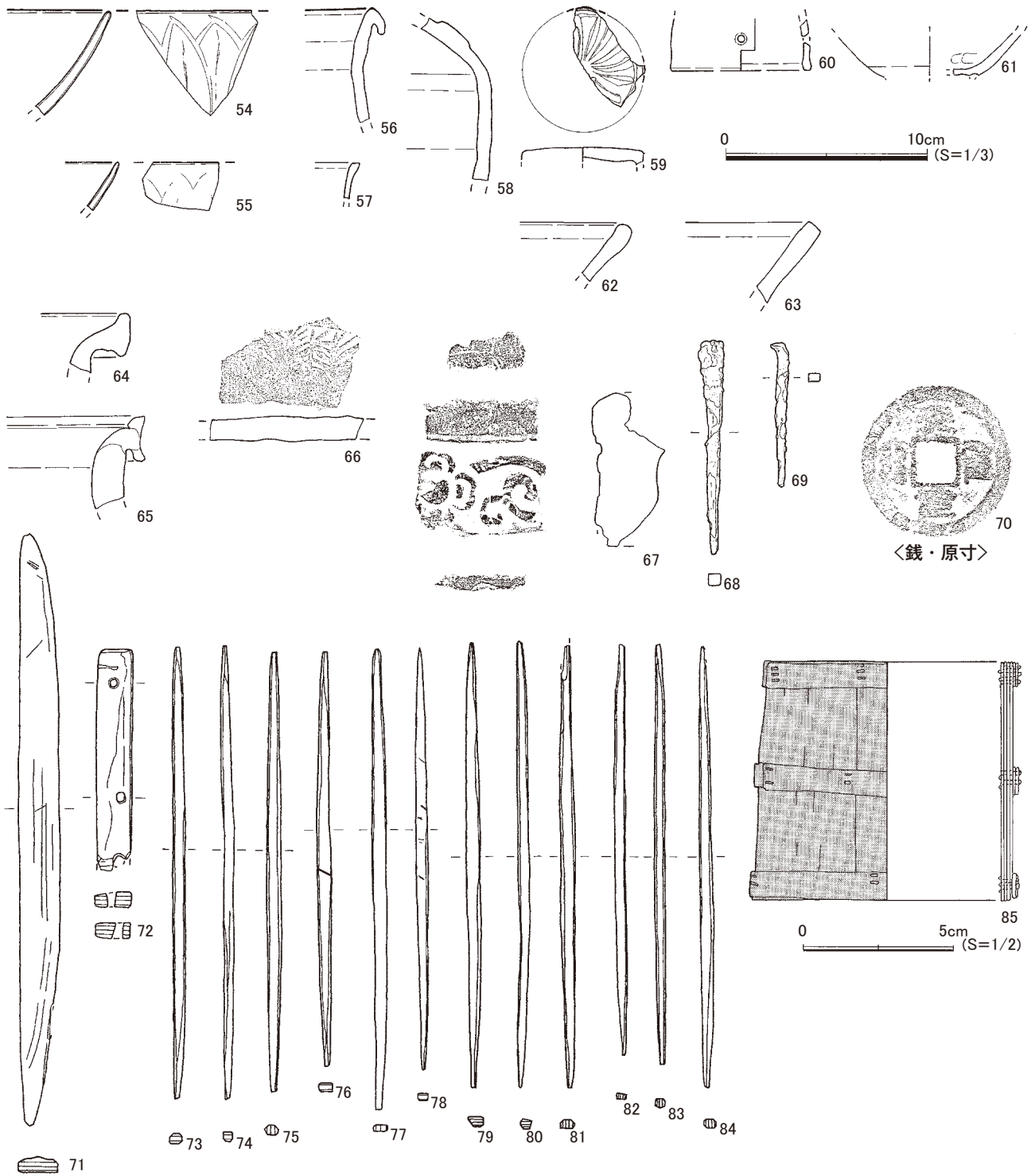


図50 第7面. 構成土出土遺物(2)

柱穴列(遺構472・遺構497・遺構526・遺構527・遺構528・遺構529)(図45・図48)

遺構底面に礎板が遺存する柱穴列である。確認した規模は東西2間(約400cm)、南北1間(約150cm)。

各柱穴の柱間を芯芯距離で計測すると、東西方向は約200cmであった。柱穴底部には礎板が遺存していた。礎板は建材などの端材を使用しており一定の規格を有さず、遺存していた礎板の接合を試みたが接合する礎板はなかった。遺構472は礎板の上に柱痕が遺存し、柱痕の周囲を泥岩によって根固めして

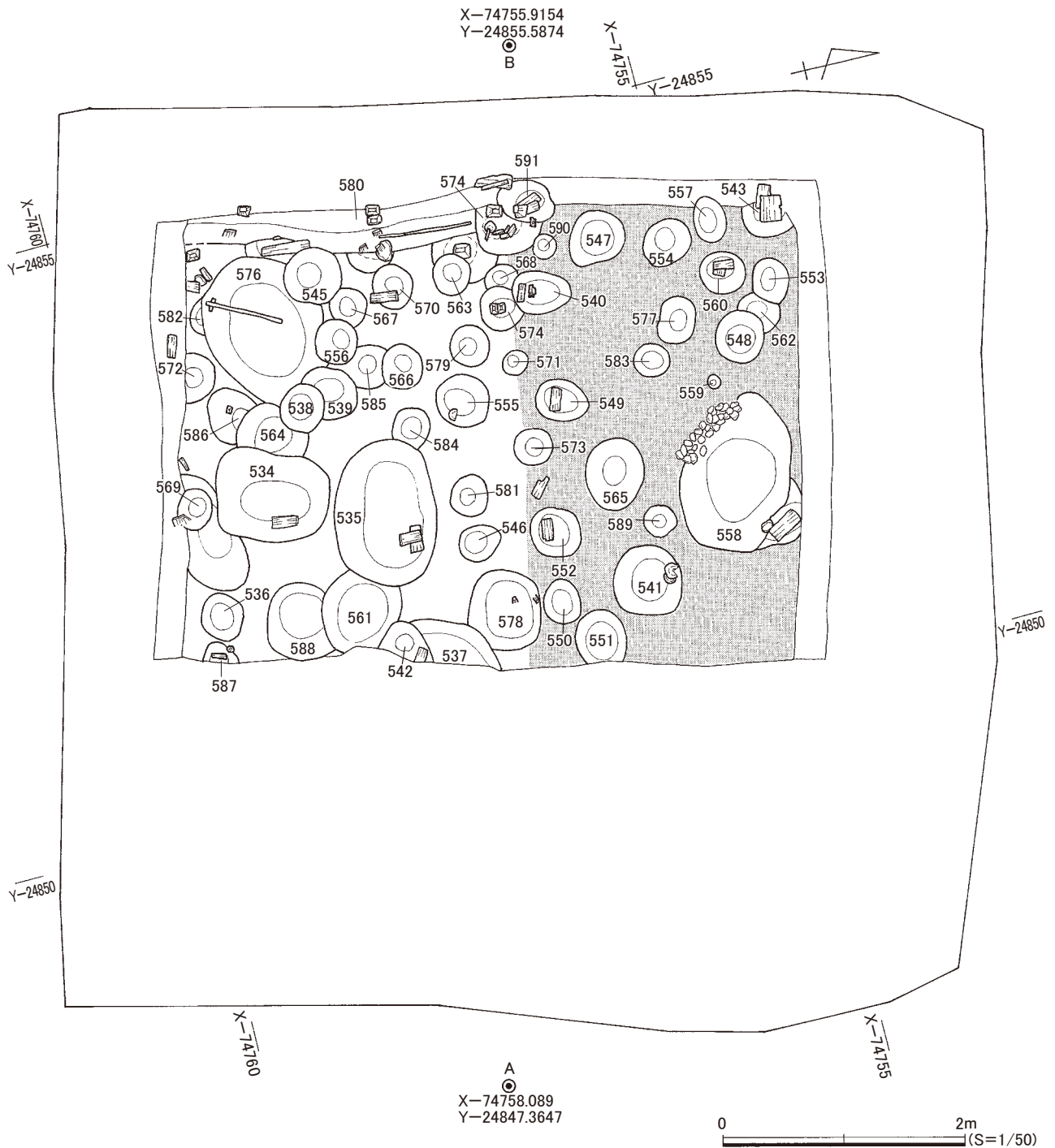


図51 第8面全測図

いたことを覆土堆積状況から確認している。遺構覆土は泥岩粒多量・泥岩多量・炭化物微量・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・常滑片口鉢Ⅱ類が破片で出土している。遺構497で検出した礎板は数枚を重ねて使用し、礎板上面に柱痕が残っていた。遺構472同様に柱痕の周囲を泥岩によって根固めしていたことを覆土堆積状況から確認している。遺構覆土は泥岩粒多量・泥岩・暗灰色粘土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物-77・78は常滑甕。遺構526の遺構覆土は泥岩粒多量・泥岩多量・褐色有機質土をわずかに含む暗青灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・手づくねかわらけ・常滑甕が破片で出土している。遺構527の遺構覆土は泥岩粒多量・泥岩多量・褐色有機質土を含む暗青灰色弱粘質土。出

土遺物はない。遺構529は遺構478に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩多量・炭化物微量・褐色有機質土を含む暗青灰色弱粘質土。出土遺物はない。

第7面面上出土遺物(図49)

1～14はかわらけ。15は青磁折縁鉢。16は青磁鉢。17～19は常滑片口鉢Ⅰ類。20は山茶碗。21～24は常滑甕。25は瓦器碗。26は土器質火鉢。27は石製品砥石。28は石製品硯。29・30は銭。31は漆器皿。32は木製品。その他にロクロ成形白かわらけ・青白磁梅瓶・渥美甕・常滑片口鉢Ⅱ類・常滑壺・伊勢系土鍋・滑石鍋・軽石・木製品が破片で出土している。

第7面構成土出土遺物(図49・図50)

33～51はかわらけ。52・53は手づくねの白かわらけ。54・55は青磁鎬蓮弁文碗。56～58は白磁壺。59は青白磁梅瓶蓋。60は青白磁天目台。61は褐釉器種不明。62は常滑片口鉢Ⅰ類。63は片口鉢Ⅱ類。64～66は常滑甕。67は字瓦。68・69は鉄製品・釘。70は銭。71～85は木製品。78～84は箸状・85は曲物。その他にてづくね成形白かわらけ・青磁無文碗・白磁碗・白磁口元皿・青白磁梅瓶・青白磁合子・緑釉器種不明・常滑壺・鍔釜・伊勢系土鍋・鑄型・滑石鍋が破片で出土している。

8. 第8面の遺構と遺物(図51～図60)

第8面は泥岩粒・破碎泥岩・貝砂を含む暗灰色弱粘質土で検出した。調査区の北半分は泥岩粒・破碎泥岩によって固く地業される。遺構底面に礎板が遺存するピットを数穴発見しているが、建物址を推定することは出来なかった。しかし、調査区北に位置する遺構558は遺構周囲に黒色の石を配し、遺構覆土には籌木と考える木片が多く廃棄され、便所遺構であった可能性が高く、近辺に住居の存在があったことを裏付ける。調査区南西端には溝を発見している。調査区外に遺構の大半が延びてしまっているために溝の幅、長さ等は不明であるが、1辺5～13cm、残存する長さ43cm～68cmと大型の角材を伴っていることから大きな溝を想定させる。

第8面の遺構は覆土の観察から3時期に分かれる。発見した遺構はピット45穴・土坑10基・溝1条である。発見した遺物はかわらけ・手づくね・青磁・白磁・青白磁・緑釉陶器・褐釉陶器・瀬戸・常滑・渥美・瓦器・瓦・石製品・鉄製品・木製品が出土している。第8面確認レベルは海拔12.50m。

遺構534(図52・図53)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物・褐色有機質土多量を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-1～4はかわらけ。5・6は木製品用途不明。7～10は箸状木製品。11・12は板草履。13は鉄製品。その他に部材・漆製品・篋状木製品・果核・貝が破片で出土し、掲載した箸状木製品は4本だが破片では193本を数えている。

遺構535(図52・図53)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は多量の褐色有機質土・木片を含む暗褐色弱粘質土。出土遺物-14～15はかわらけ。16は漆器皿。17は篋状木製品。その他に青磁鎬蓮弁文碗・常滑甕・漆器皿・箸状木製品・折敷・貝が破片で出土している。

遺構536(図52・図53)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・暗灰色粘土・貝砂・褐色有機質土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-18はかわらけ。19は漆器皿。その他に常滑甕・漆器、器種不明・獣骨が破片で出土している。

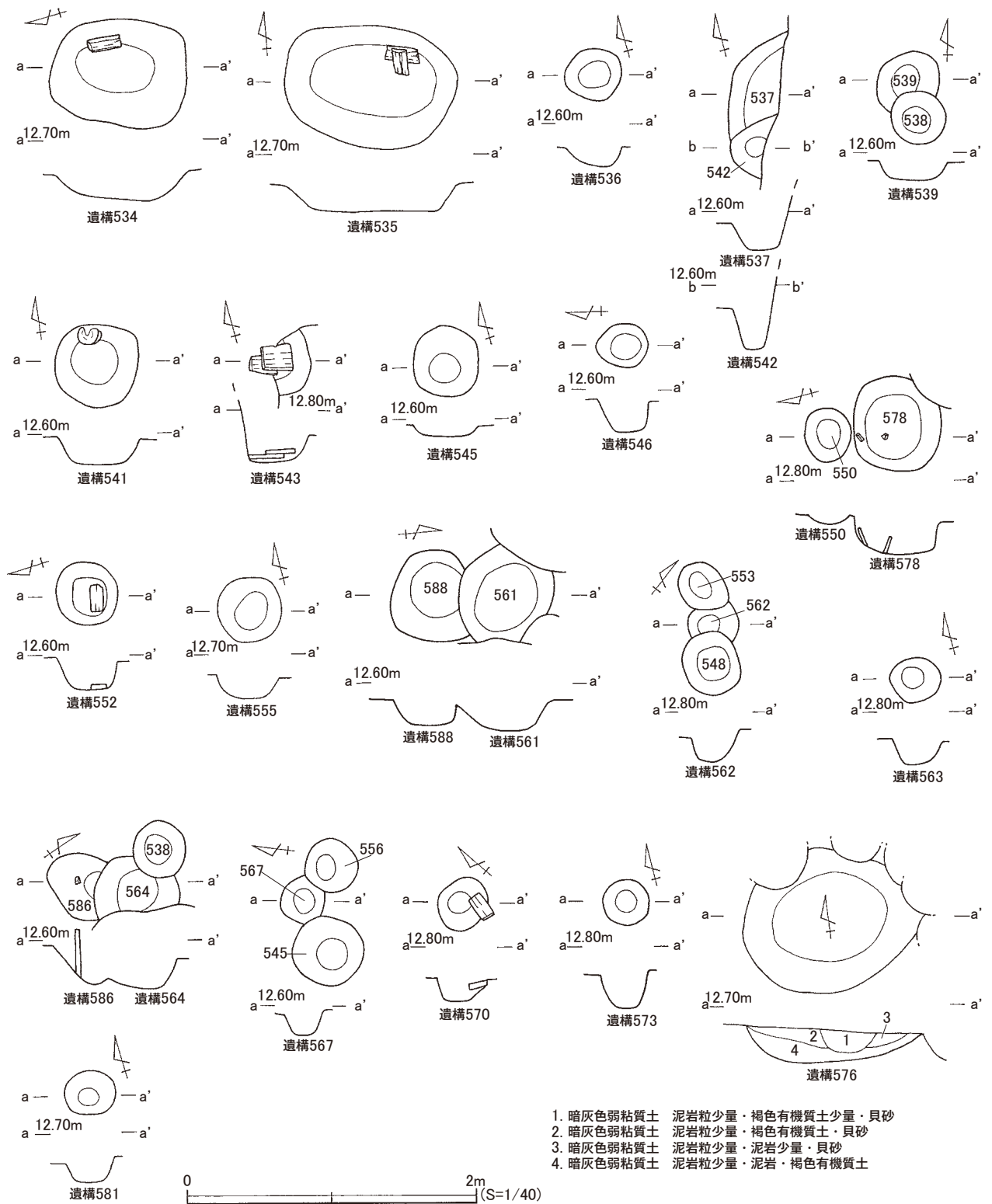


図52 第8面遺構

遺構 537 (図52・図53)

調査区外に遺構が延び形状・規模は不明。土坑である。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物少量・暗灰色粘土・褐色有機質土多量を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物-20は常滑片口鉢Ⅰ類。21は山茶碗。22は石製品砥石。その他にかわらけ・常滑甕・箸状木製品・貝が破片で出土している。

遺構 538 (図52)

円形を呈するピットである、遺構539を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物少量・暗灰色粘土・褐

色有機質土を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物は箸状木製品が破片で出土している。

遺構 539 (図 52・図 53)

円形を呈するピットである、遺構 538 に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・暗灰色粘土・貝砂・褐色有機質土を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物 - 23 は常滑片口鉢 I 類。その他にかわらけ・常滑甕・箸状木製品が破片で出土している。

遺構 541 (図 52・図 53)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・暗灰色粘土・貝砂・褐色有機質土少量を含む暗灰色弱粘質土。覆土内で検出したかわらけは、小型のかわらけを合わせ、その上から大型のかわらけで小型のかわらけを蓋をした形で発見された。合わせの小型かわらけの内部には覆土に近似した土が入っていた。出土遺物 - 24 ~ 26 はかわらけ。その他に破片で手づくね・青磁鎬蓮弁文碗・褐釉壺・常滑片口鉢 I 類・常滑甕・土師器甕・貝が破片で出土している。

遺構 542 (図 52・図 53)

調査区外に遺構が延び規模は不明、ピットである。遺構 537 を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・暗灰色粘土・貝砂・褐色有機質土少量を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物 - 27 はかわらけ。その他に手づくねが破片で出土している。

遺構 543 (図 52・図 53)

調査区外に遺構が延び規模は不明、遺構底面に礎板を伴うピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・暗灰色粘土・貝砂・褐色有機質土少量を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物 - 28 はかわらけ。29 は木製品用途不明。その他に常滑甕が破片で出土している。

遺構 545 (図 52・図 53)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物微量・暗灰色粘土・褐色有機質土多量を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物 - 30 はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕が破片で出土している。

遺構 546 (図 52・図 53)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・暗灰色粘土・褐色有機質土少量を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物 - 31 は瀬戸四耳壺。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構 548 (図 52)

円形を呈するピットである。遺構 562 を切る。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・暗灰色粘土・貝砂・褐色有機質土少量を含む。遺物はかわらけ・常滑甕・板草履・木製品が破片で出土している。

遺構 550 (図 52)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・貝砂・褐色有機質土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物はない。

遺構 552 (図 52・図 53)

円形を呈するピットである。遺構底面に礎板が遺存する。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・貝砂・褐色有機質土少量を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物 - 32 は鉄製品釘。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構 553 (図 52)

円形を呈するピットである。遺構 562 を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・貝砂・褐色有機質土少量を含む暗灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・青磁壺・渥美甕が破片で出土している。

遺構 555 (図 52・図 53)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・炭化物・暗灰色粘土・貝砂・褐色有機質

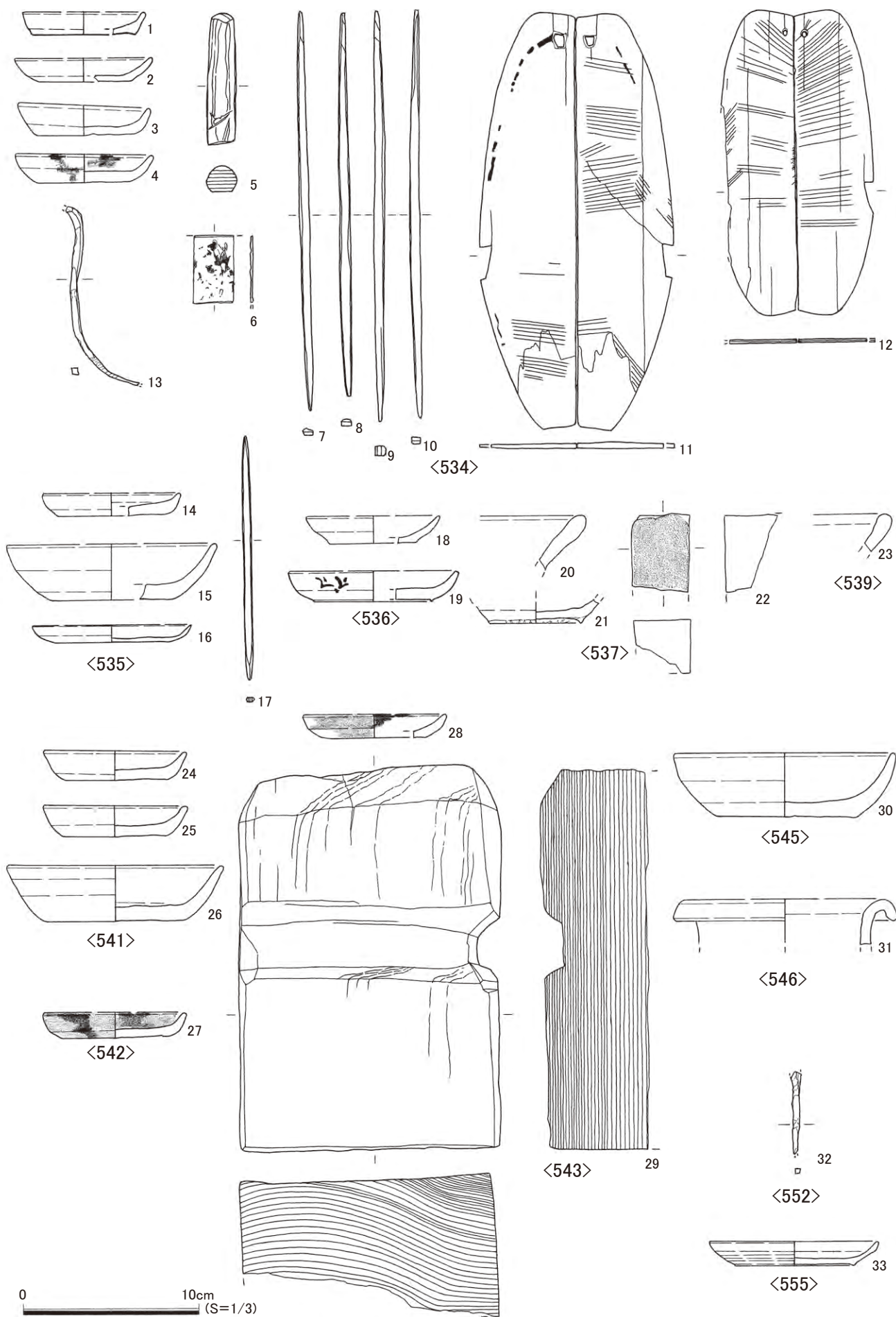


图53 第8面. 遺構出土遺物(1)

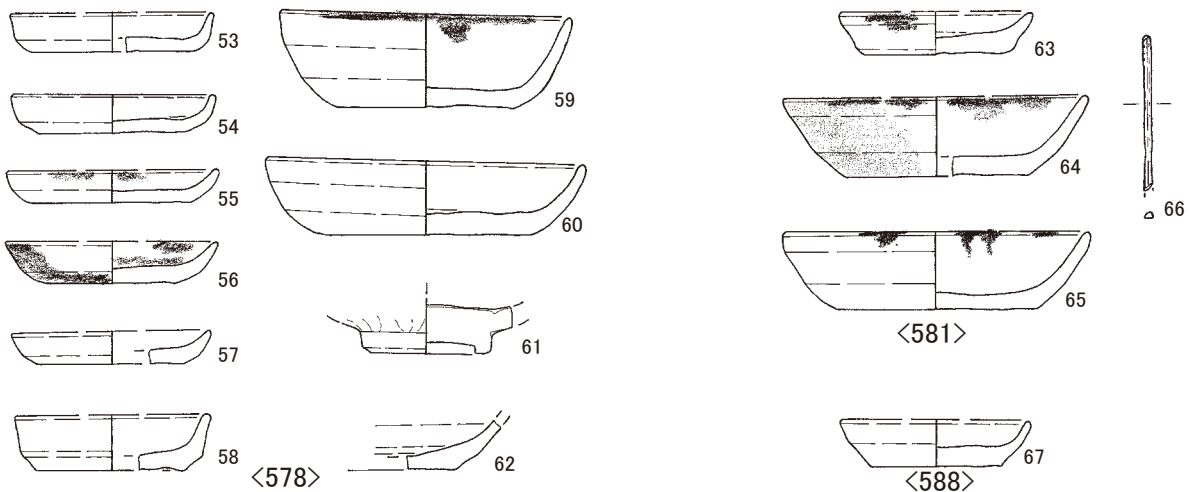
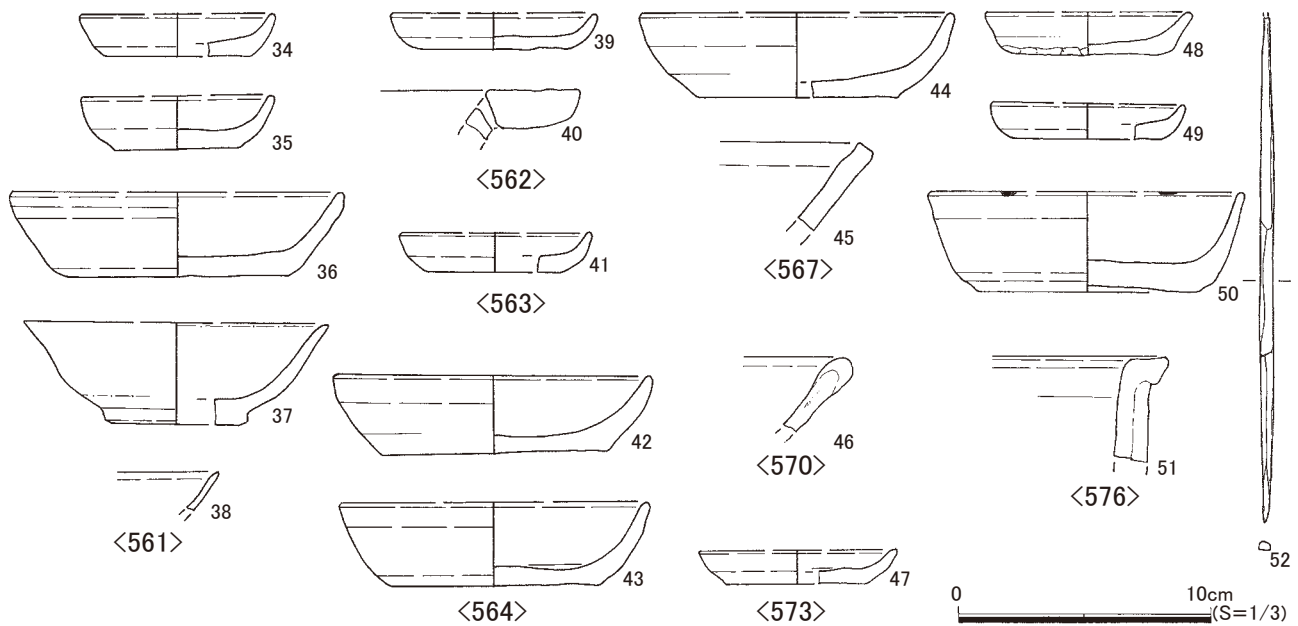


図54 第8面. 遺構出土遺物(2)

土を含む暗褐色弱粘質土。出土遺物-33は漆器皿。その他にかわらけ・漆器、器種不明・貝が破片で出土している。

遺構556 (図52)

円形を呈するピットである。遺構567を切る。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・暗灰色粘土・貝砂・褐色有機質土少量を含む暗灰色弱粘質土。遺物にかわらけが破片で出土している。

遺構558 (図55)

楕円形を呈する土坑である。遺構上面一部しか遺存していなかったが、黒色の玉石が遺構側面に沿うように置かれていた。また、対面には大型の礎板状の板材を検出している。遺構覆土に褐色有機質土と棒状木製品を多く含み(セクション図参照)、籌木と考えられる棒状木製品の出土から、便所として使用した土坑と考えている。遺構覆土は土層堆積の註記を参照。また、覆土の分析結果を後記している。出土遺物-1~5はかわらけ。6は青磁鎬蓮弁文碗。7・8は木製品・用途不明。9~16は棒状木製品、籌木か。図示した遺物の他にかわらけ(大)38個・かわらけ(小)4個・褐釉壺1個・常滑甕10個・鉄製品釘1本・箸状木製品996本・棒状木製品(籌木)563本・折敷片1・下駄1・板草履4・木製品部材13・棒状木製品(断面扁平径)146本・篋状木製品4本・不明木製品54本・貝2が破片で出土している。

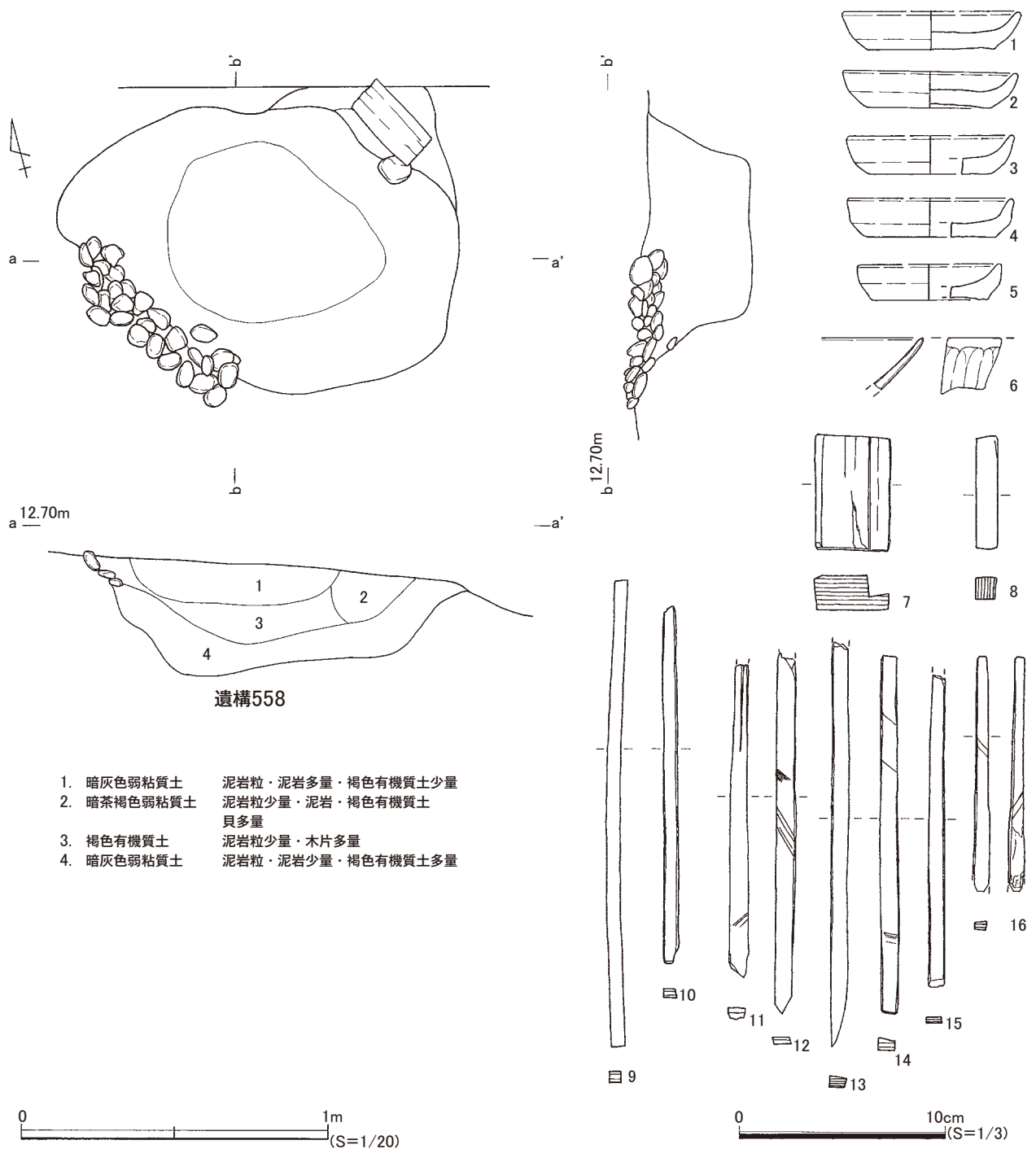


図55 第8面. 遺構558・遺構558出土遺物

遺構561 (図52・図54)

円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒少量・暗褐色粘土・褐色有機質土を含む暗褐色弱粘質土。遺構588を切る。出土遺物34～36はかわらけ。37は白磁口元碗。38は瀬戸入子。その他に箸状木製品・貝が破片で出土している。

遺構562 (図52・図54)

円形を呈するピットである。遺構548・遺構553に切られる。遺構覆土は泥岩粒・暗褐色粘土・褐色有機質土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物39はかわらけ。40は瓦器質火鉢。その他に貝が出土している。

遺構563 (図52・図54)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・暗灰色粘土・貝砂・褐色有機質土少量を含む暗

灰色弱粘質土。出土遺物－41はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕が破片で出土している。

遺構564 (図52・図54)

円形を呈するピットである。遺構586を切り遺構538に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・暗灰色粘土・貝砂・褐色有機質土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－42・43はかわらけ。

遺構567 (図52・図54)

円形を呈するピットである。遺構545・遺構556に切られる。遺構覆土は泥岩粒少量・暗灰色粘土少量・貝砂少量・褐色有機質土少量を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－44はかわらけ。45は常滑片口鉢Ⅱ類。

遺構570 (図52・図54)

円形を呈するピットである。遺構覆土上層に礎板が遺存する。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・暗灰色粘土・貝砂少量・褐色有機質土少量を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－46は常滑片口鉢Ⅰ類。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構573 (図52・図54)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒少量・暗灰色粘土少量・褐色有機質土少量を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－47はかわらけ。その他に手づくね・渥美甕・常滑甕が破片で出土している。

遺構576 (図52・図54)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒少量・貝砂・有機質土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－48～50はかわらけ。51は不明陶器。52は箸状木製品。その他に常滑甕・瓦器質火鉢・貝が破片で出土している。

遺構578 (図52・図54)

円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・暗灰色粘土・貝砂少量を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－53～60はかわらけ。61は青磁鎚蓮弁文碗。62は緑釉盤。その他に手づくね・青磁器種不明・渥美甕・常滑甕・土師器甕が破片で出土している。

遺構581 (図52・図54)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩少量・暗灰色粘土・貝砂を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物－63～65はかわらけ。66は骨製品筭。その他に青磁折縁鉢・常滑甕が破片で出土している。

遺構586 (図52)

楕円形を呈するピットである。遺構564に切られる。遺構覆土は泥岩粒・泥岩多量・暗灰色粘土・貝砂・褐色有機質土微量を含む暗灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・貝が破片で出土している。

遺構588 (図52・図54)

円形を呈する土坑である。遺構561に切られる。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物・暗灰色粘土・貝砂・褐色有機質土少量を含む暗褐色弱粘質土。出土遺物－67はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕が破片で出土している。

遺構568 (図56・図57)

円形を呈する土坑である。遺構591に切られる。遺構内に6本の杭が検出されたが、用途は不明である。溝(遺構580)との関連・新旧も調査区の限界での検出であったため確認できなかった。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩少量・炭化物少量・暗灰色粘土・褐色砂質土を含む暗灰色弱粘質土。遺構検出前の遺構プランでは、遺構591を含めた大型の土坑を想定して掘り進めたため、出土遺物は遺構591出土に一括して掲載したが、図56-4のかわらけは遺構568の覆土中から発見されたものである。

遺構580 (図56・図57)

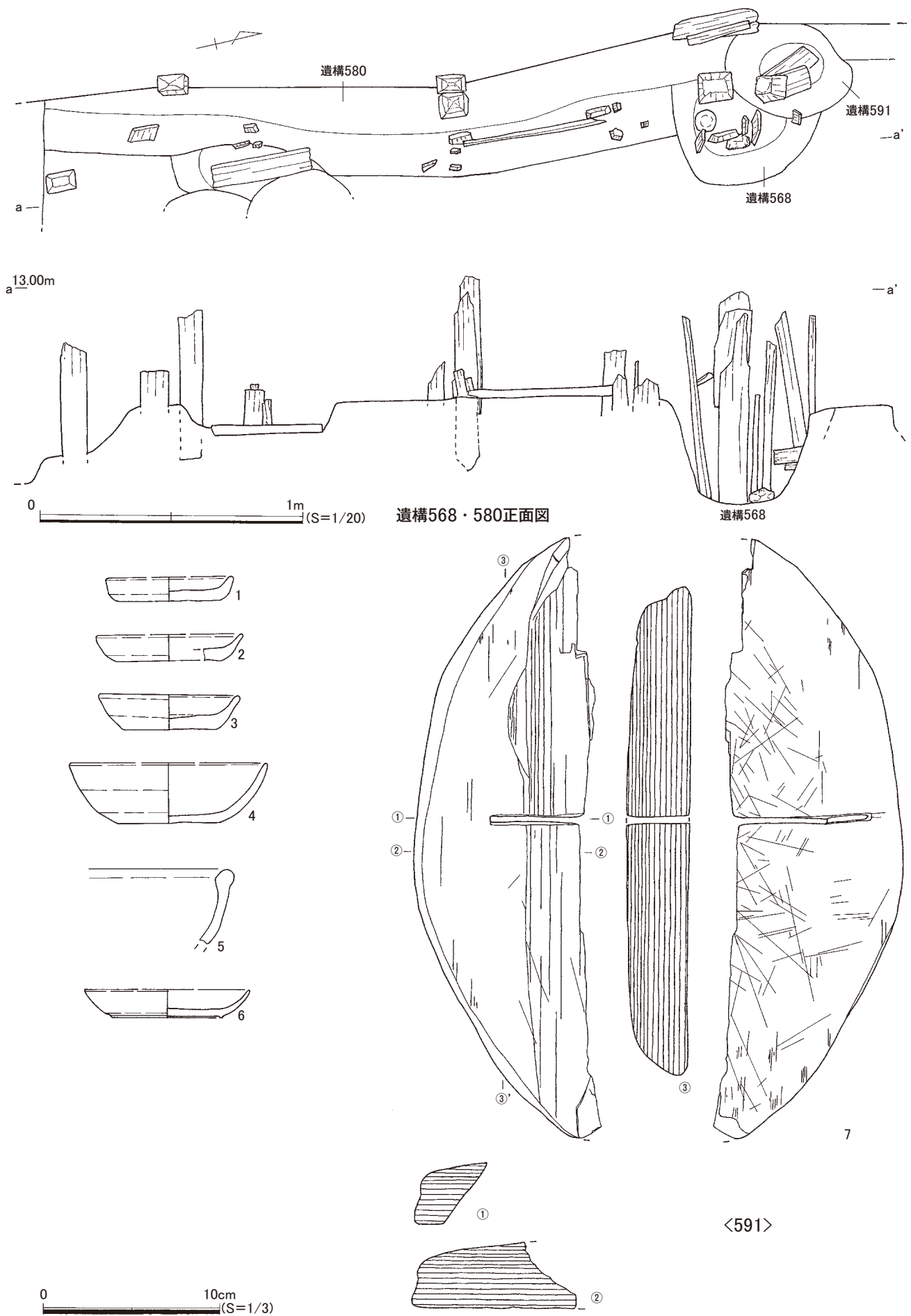


图56 第8面. 遺構568・遺構580・遺構591出土遺物

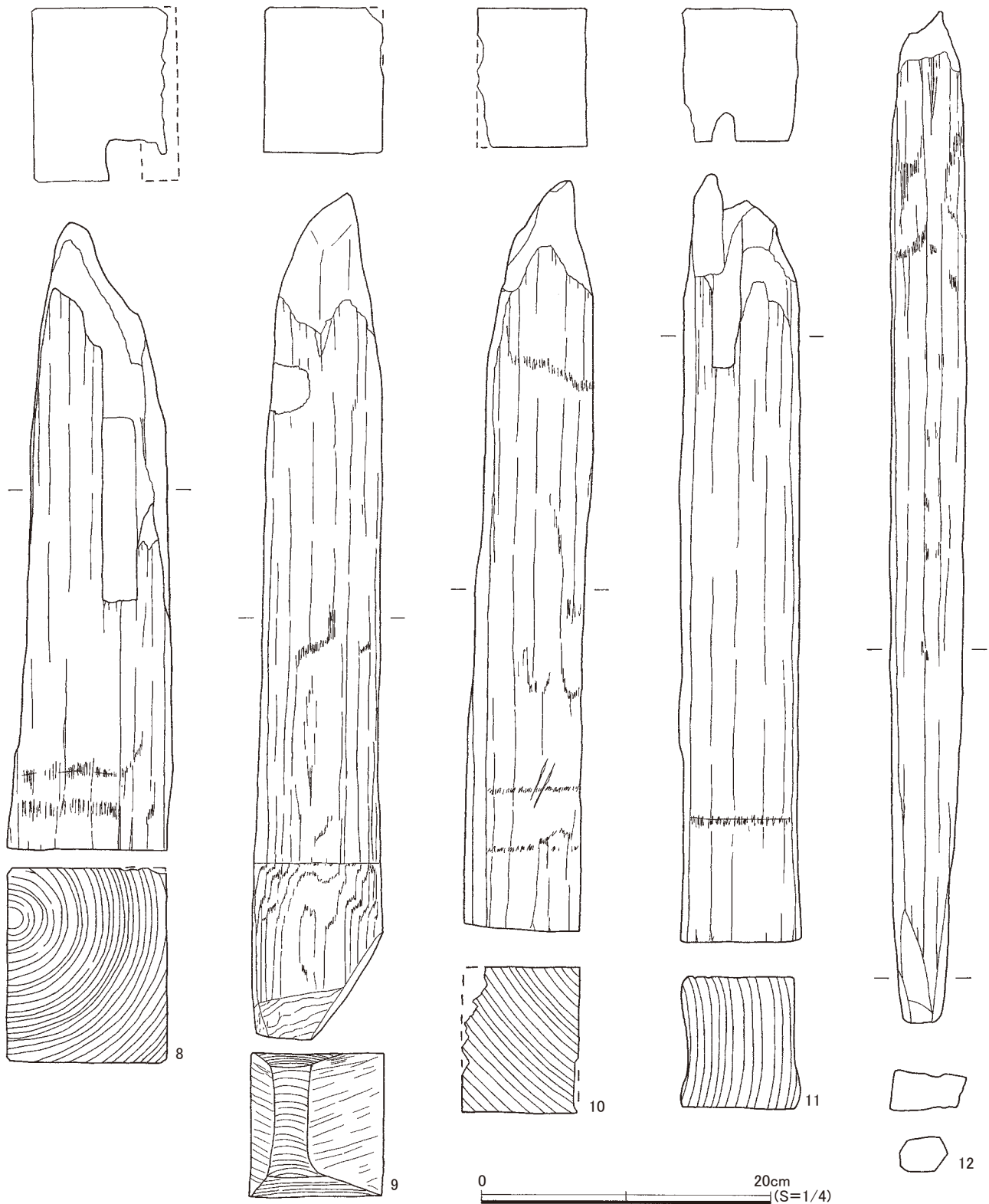


図57 第8面. 遺構580・角柱・杭

南北に延びる溝である。遺構の大半が調査区外に延び溝の幅、長さ、流下方向等は不明、遺構北側は土坑（遺構568・遺構591）に切られる。溝側板は東側側面に一部が残存し、一辺5～13cmという大型の角材が遺構に伴って検出され、角材の大きさから大型の溝が想像される。図57に角材の実測図を掲載したが、遺物採集時に混乱してしまい出土位置は不明となった。遺構覆土は泥岩粒少量・炭化物少量・暗灰色粘土・褐色砂少量・褐色有機質土微量を含む暗灰色弱粘質土。遺物はかわらけ・常滑片口鉢Ⅰ類が破片で出土している。

遺構591 (図56・図57)

円形を呈する土坑である。遺構568・遺構580を切る。遺構底部に礎板、角柱が遺存していた。角柱は溝(遺構580)に伴う材と同等の大きさを持ち、溝に伴う土坑であった可能性もある。遺構覆土は泥岩粒少量・泥岩・炭化物少量・暗灰色粘土・褐色砂少量・褐色有機質土を含む暗灰色弱粘質土。出土遺物-1~4はかわらけ。5は緑釉盤。6は漆器皿。7は木製品用途不明。8~12は木製品建材。その他に手づくね・白磁端反碗・白磁口元皿・常滑片口鉢I類・常滑甕・貝が破片で出土している。

第8面面上出土遺物 (図58)

1~9はかわらけ。10は青磁鎬蓮弁文碗。11は白磁口元皿。12は白磁碗。13は青白磁小皿。14は瀬戸・卸皿。15は瀬戸・入子。16は常滑片口鉢II類。17~19は常滑甕。20・21は瓦器碗。22~25は箸状木製品。その他に手づくね・青磁折腰鉢・青磁、器種不明・青白磁梅瓶・常滑片口鉢I類・常滑壺・女瓦・漆器、器種不明・木製品折敷・棒状木製品が破片で出土している。

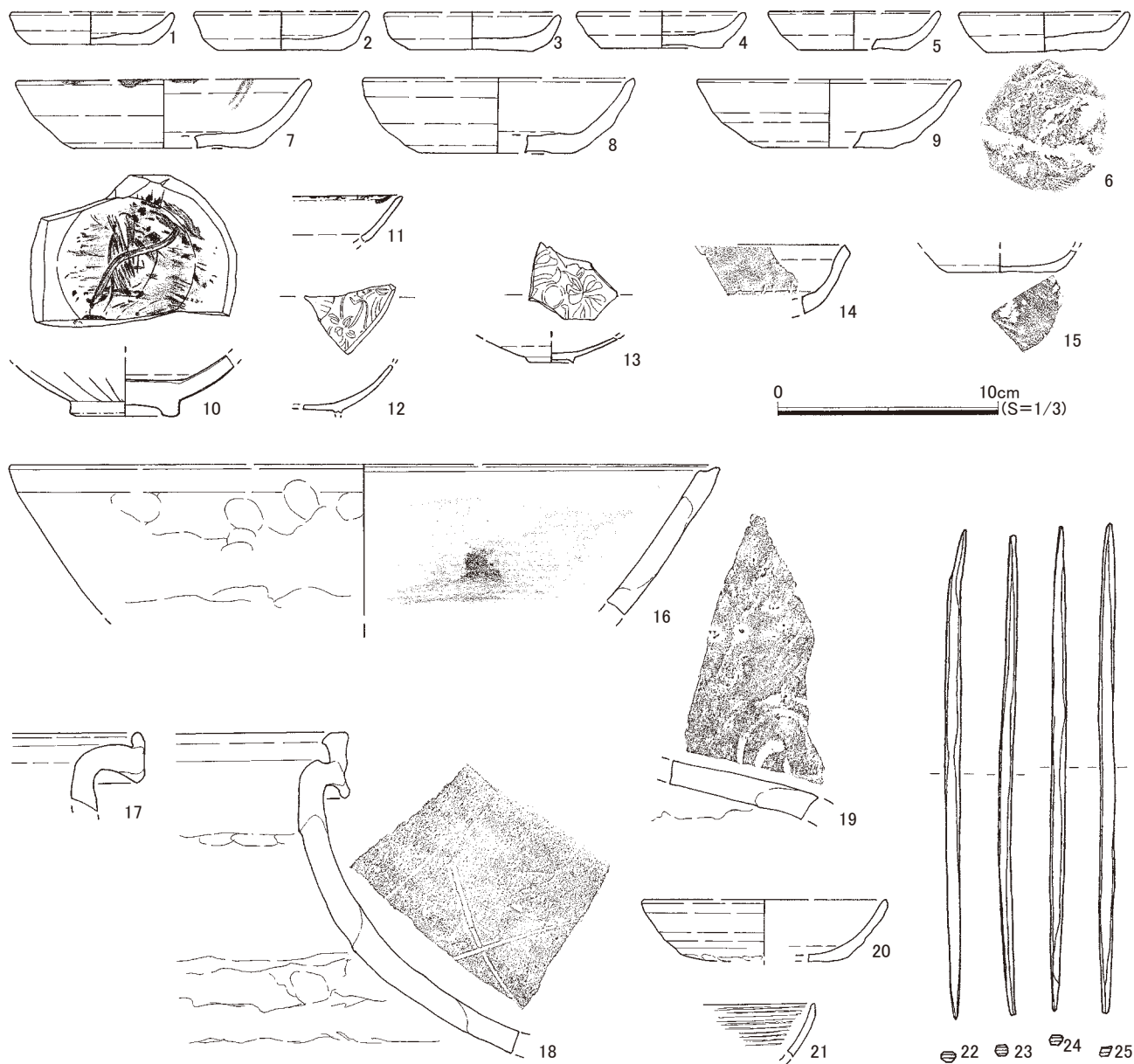


図58 第8面. 面上出土遺物

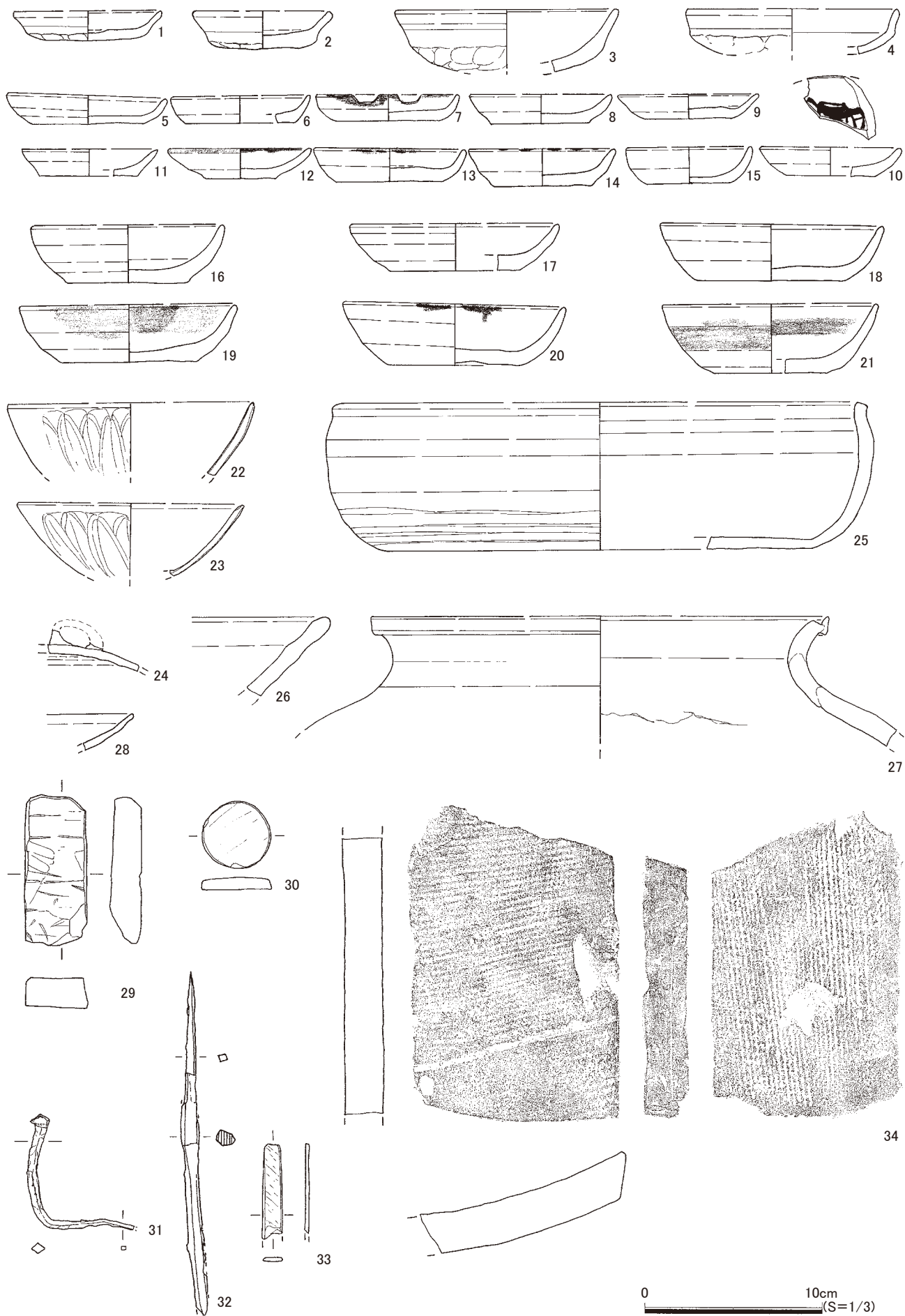
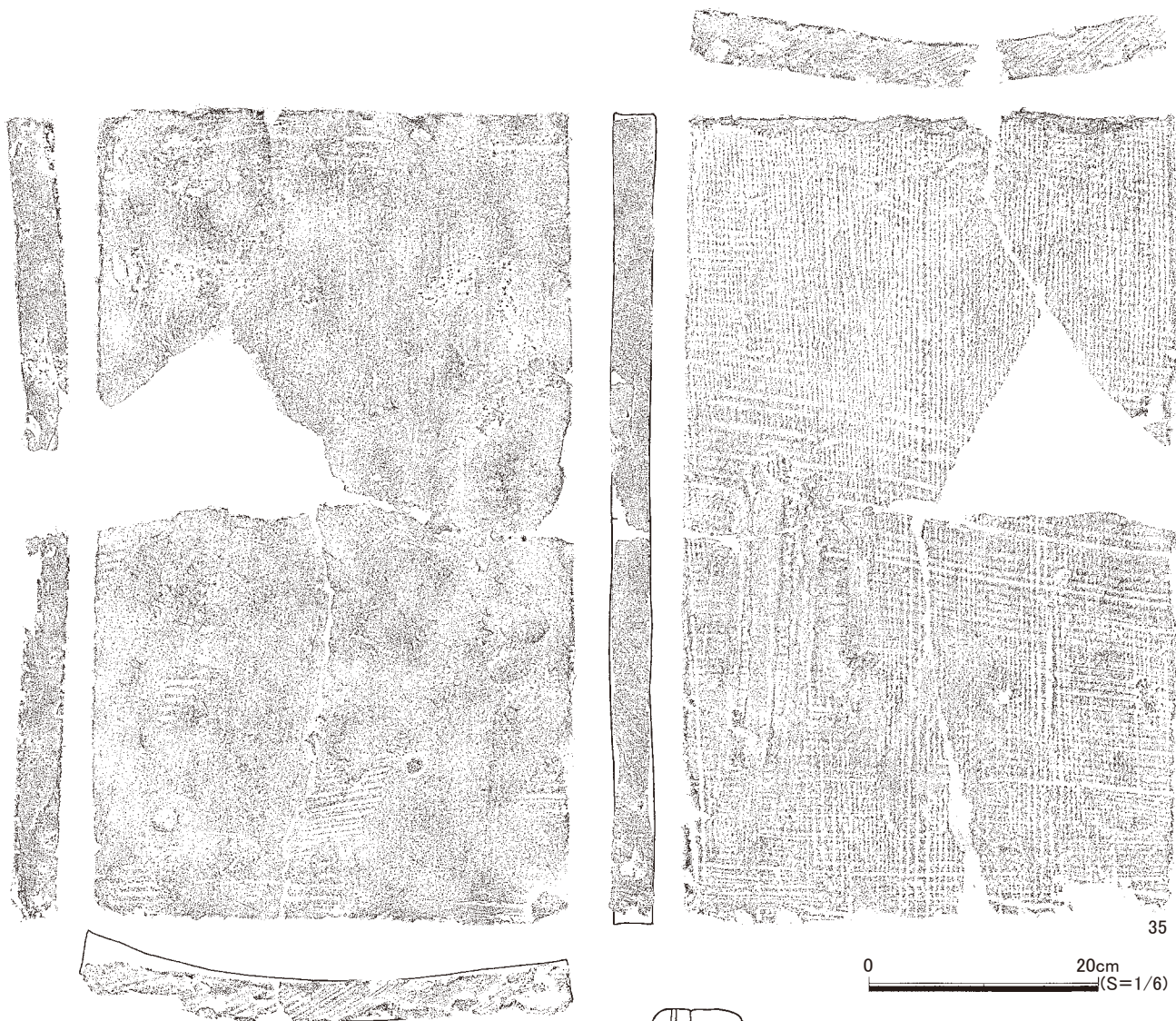
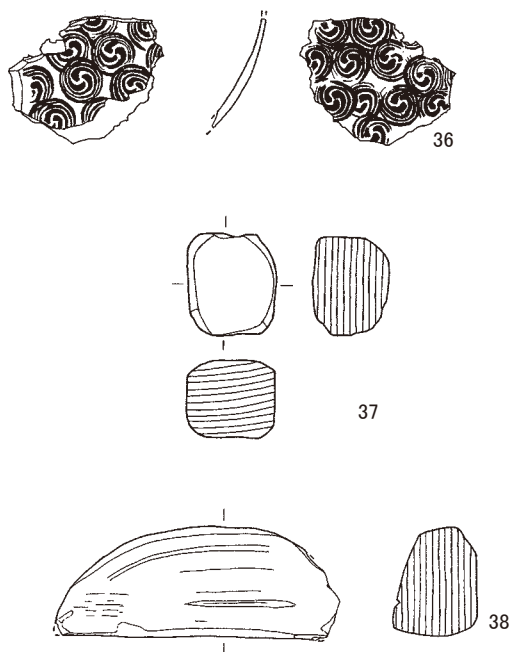


図59 第8面. 構成土出土遺物(1)



35

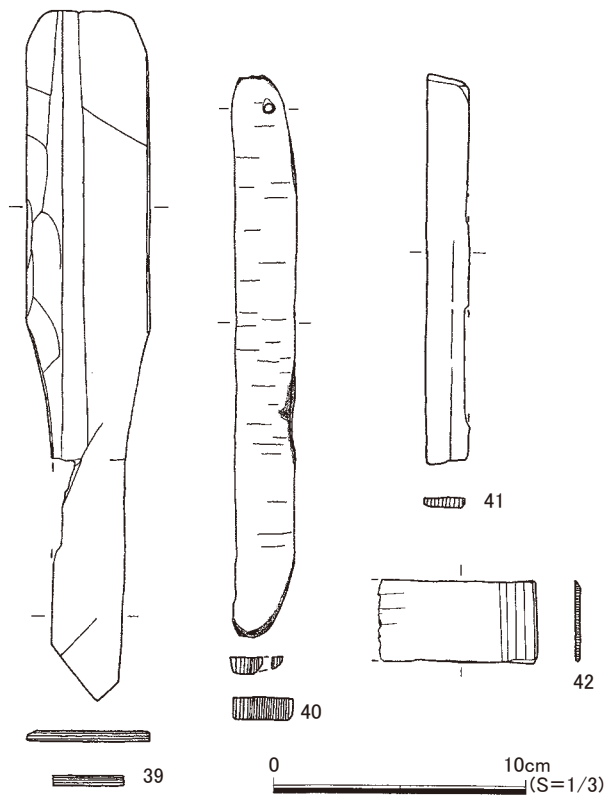
0 20cm (S=1/6)



36

37

38



41

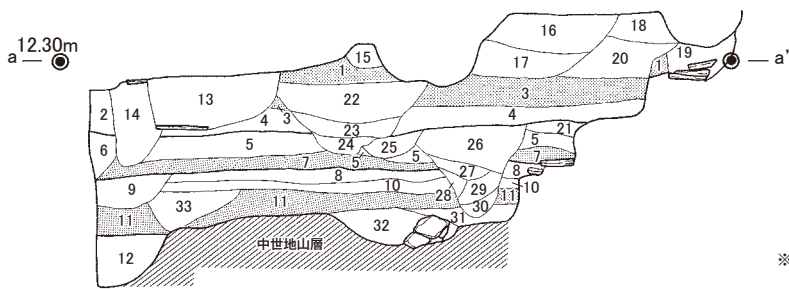
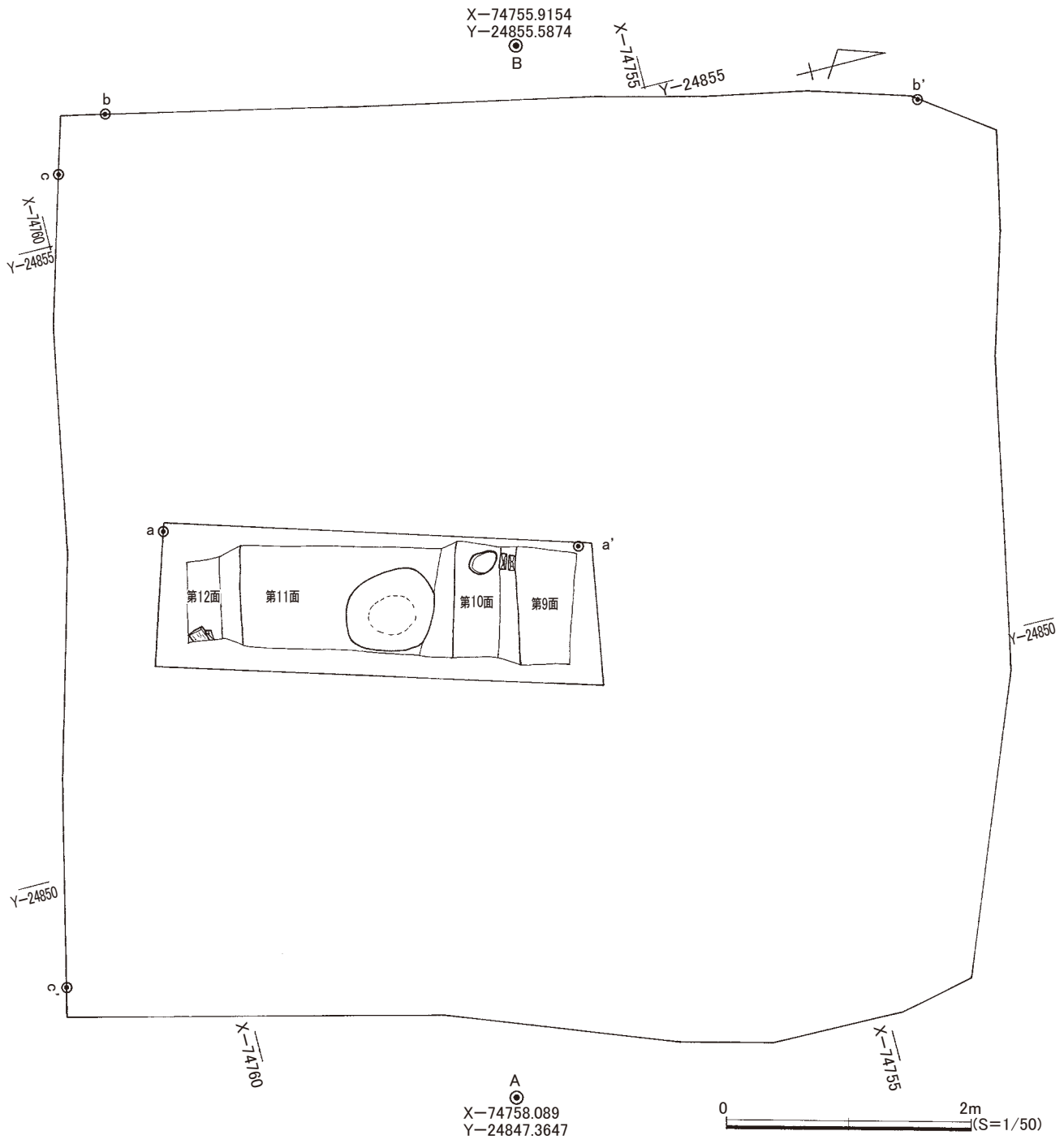
40

42

39

0 10cm (S=1/3)

図60 第8面. 構成土出土遺物(2)



※土層注記は92ページに記載

<トレンチ 西壁セクション図>

図61 最終トレンチ

第8面構成土出土遺物(図59・図60)

1～21はかわらけ。22・23は青磁鎬蓮弁文碗。24は産地不明、壺。25は瀬戸洗。26は常滑片口鉢Ⅰ類。27は常滑甕。28は灰釉皿。29は石製品砥石。30はかわらけ転用品、円盤。31は鉄製品釘。32は鉄製品錐、木部遺存。33は骨製品筭。34は女瓦。35は熨斗瓦。36は漆器椀。37～41は木製品。37は毬杖の玉か。38は手押木。39は杓子。40～41は用途不明。42は漆製品部材。その他に手づくね・手づくね成形の白かわらけ・青白磁梅瓶・褐釉壺・瓦器碗・鉄製品釘・貝が破片で出土している。

9. 最終トレンチ(図61～図63)

第8面までの調査終了後、調査区中央付近に約300cm×100cmのトレンチを設定し、第8面下層～中世地山までの間に4期の泥岩細片を版築した地業層があることを確認し、それぞれを第9面～第12面として分け遺物の採集を行った。また、調査員・作業員の安全確保のため、確認した各面を平面的に掘り下げることが出来ず、南に向かって階段状に掘り下げ各面を確認している。

第9面は泥岩細片を多く含む地業層を検出したが、遺構の発見は出来なかった。第10面は礎板・礎石を発見し、ピットなどの遺構があったことが考えられる。第11面は掘り下げて調査することは出来なかったが、約60cm径の円形を呈する土坑プランを確認している。第12面は遺構底部に礎板が遺存するピットを確認した。

第9面構成土出土遺物(図61・図62)

1～6は手づくね。7～14はかわらけ。15は瀬戸壺。16は常滑片口鉢Ⅰ類。17～19は常滑甕。20は渥美甕。21は木製品鞘。22は木製品杓子。その他に青磁鎬蓮弁文碗・瀬戸入子・瀬戸折縁深皿・山茶碗・瓦器碗・漆器、器種不明・木製品部材・棒状木製品・貝が破片で出土している。

第10面構成土(図61・図62・図63)

23～36は手づくね。37～43はかわらけ。44は常滑片口鉢Ⅰ類。45は渥美甕。46は瓦器碗。47は手づくね転用品、円盤。48は女瓦。その他に瀬戸卸皿・渥美壺・常滑甕・木製品曲物底板・獣骨が破片で出土している。

第11面構成土(図61・図63)

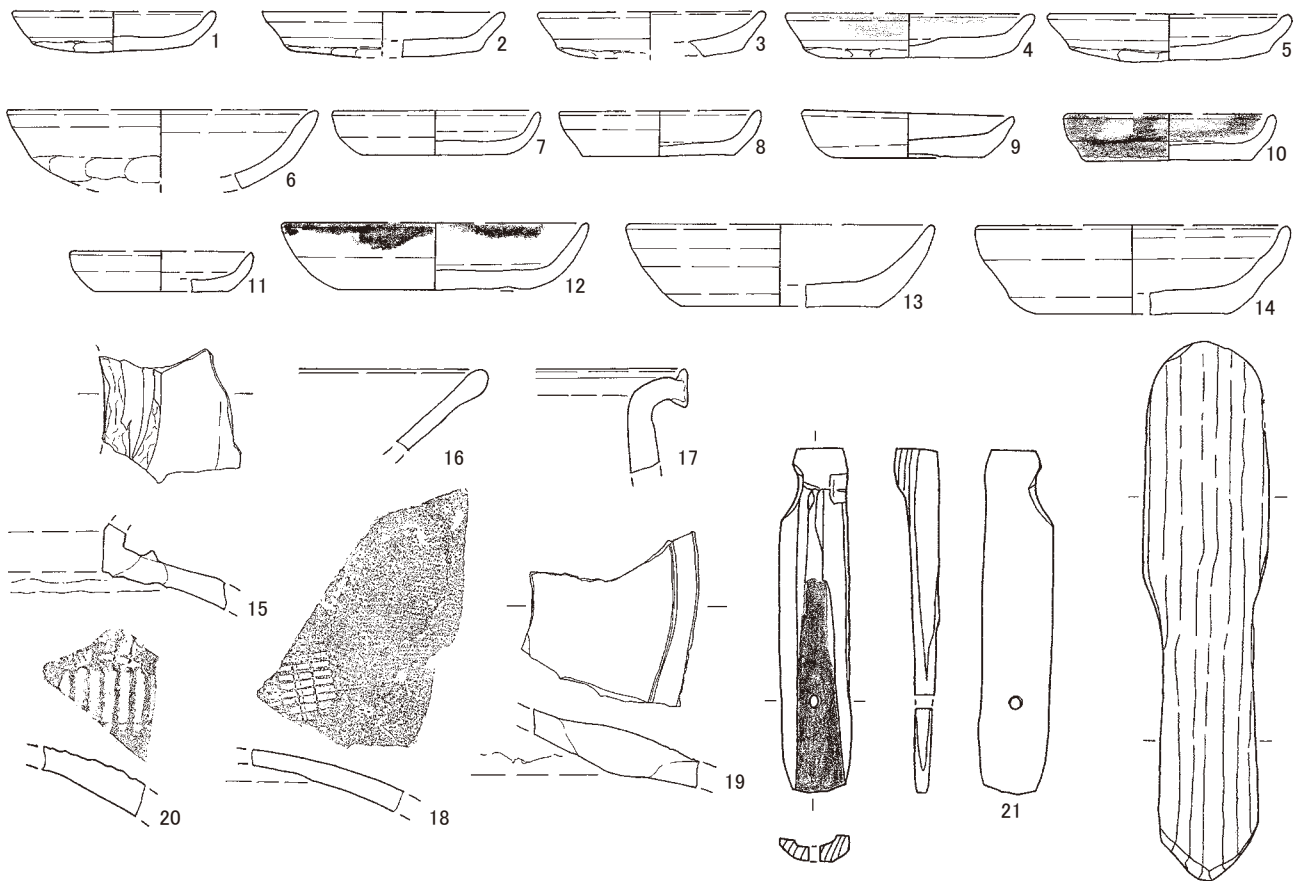
49～52は手づくね。53は白磁四耳壺。その他にかわらけ・渥美甕・常滑片口鉢Ⅰ類・箸状木製品・木製品曲物底板が破片で出土している。

第12面構成土(図61・図63)

54・55は手づくね。56はかわらけ。57は女瓦。その他に渥美甕・常滑片口鉢Ⅱ類・常滑甕・土師器甕・貝が破片で出土している。

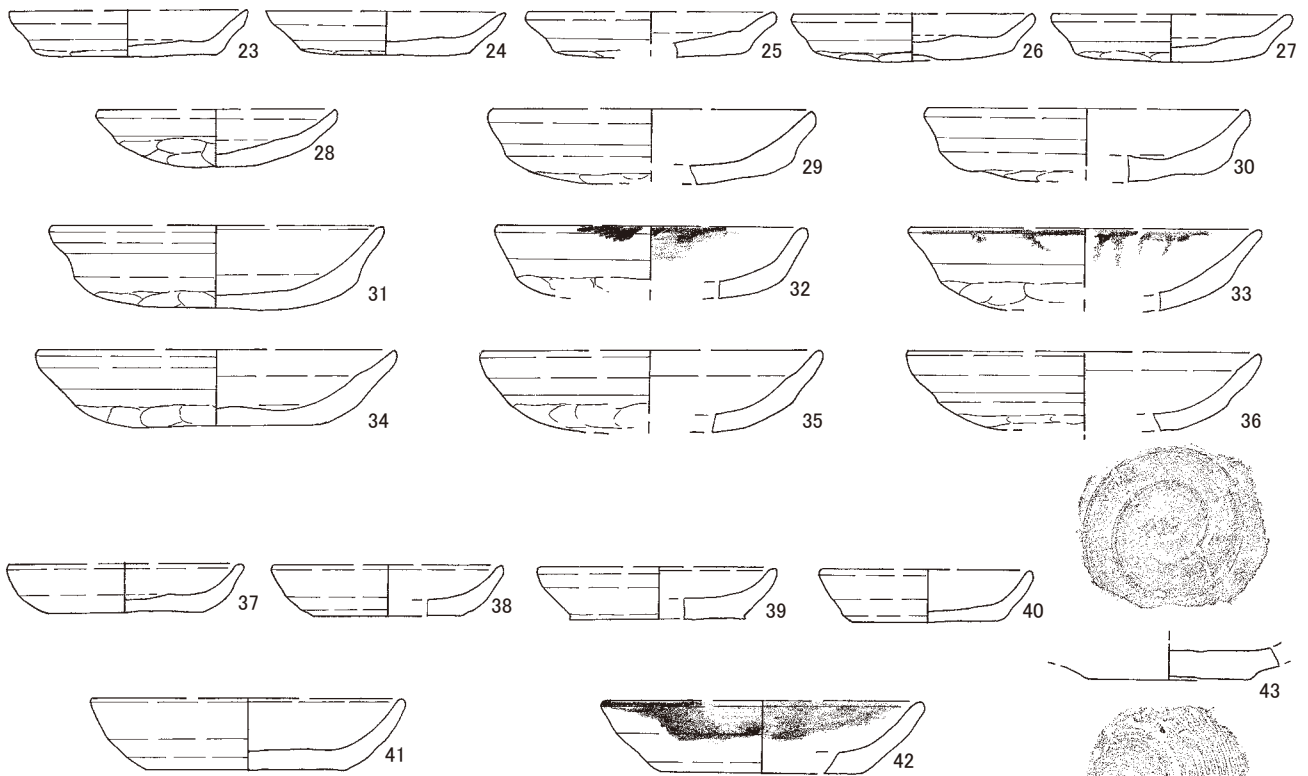
表土採集遺物(図63)

58～64はかわらけ。65は白磁碗。66は青白磁梅瓶蓋。67は青白磁合子蓋。68は瀬戸折縁深皿。69は常滑片口鉢Ⅱ類。70・71は備前播鉢。72は石製品砥石。73は鉄製品鍵か。74・75は銭。



〈第9面構成土〉

0 10cm (S=1/3)



〈第10面構成土〉 (1)

图62 第9面・第10面構成土出土遺物 (1)

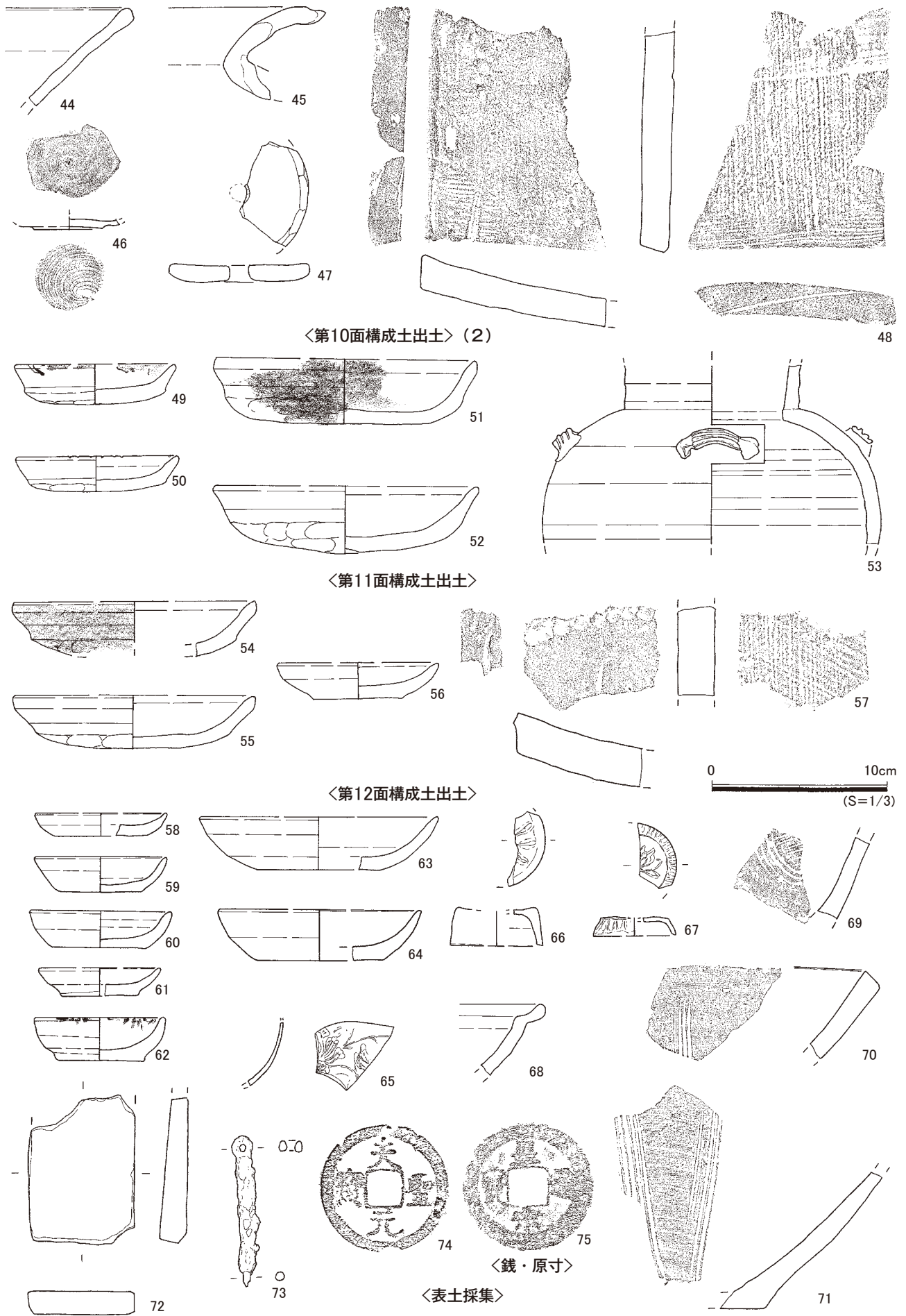


図63 第10面・第11面・第12面構成土出土遺物・表土採集遺物

最終トレンチ・土層注記		
1	泥岩地業層	泥岩細片を多く含む・炭化物・堅く締まる
2	暗灰色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・暗褐色有機質土を含む・粘性あり
3	泥岩地業層	泥岩・泥岩細片
4	炭化物層	泥岩粒微量
5	灰色砂質土	泥岩粒・炭化物・締まりあり
6	暗灰色弱粘質土	泥岩少量・炭化物・暗褐色有機質土
7	泥岩地業層	泥岩粒・泥岩細片・褐色砂質土
8	暗灰色弱粘質土	泥岩・貝砂
9	暗灰色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物
10	暗茶灰色弱粘質土	炭化物・暗褐色有機質土
11	泥岩地業層	泥岩・泥岩細片・炭化物
12	灰色弱粘質土	泥岩・貝砂・暗褐色有機質土・灰褐色砂質土
13	暗灰色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・貝砂
14	暗灰色弱粘質土	泥岩粒・泥岩細片
15	暗灰色弱粘質土	泥岩・貝砂
16	暗灰色弱粘質土	泥岩・貝砂・暗褐色有機質土・灰褐色砂質土
17	暗灰色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・貝砂
18	暗灰色弱粘質土	泥岩・貝砂・暗褐色有機質土
19	暗灰色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・貝砂・暗褐色有機質土
20	暗灰色弱粘質土	泥岩・暗褐色有機質土・炭化物
21	炭化物層	暗褐色有機質土
22	暗灰色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・貝砂
23	暗褐色有機質土	炭化物・暗褐色有機質土
24	暗灰色弱粘質土	泥岩・暗褐色有機質土
25	暗灰色弱粘質土	泥岩・暗褐色有機質土
26	灰色弱粘質土	泥岩・泥岩粒
27	暗褐色有機質土	貝砂
28	茶灰色弱粘質土	暗褐色弱粘質土・貝砂
29	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・暗褐色有機質土
30	暗灰色弱粘質土	炭化物・暗褐色有機質土
31	暗灰色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・貝砂
32	暗褐色弱粘質土	泥岩・貝砂
33	暗灰色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・貝砂